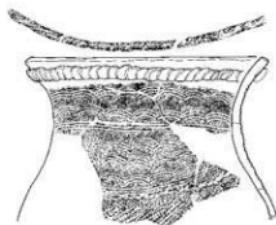


# 東前原遺跡

(第8地点第3次)

区画道路10-2号線道路改良(その1)及び流域関連  
下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2016

水戸市教育委員会

# 東前原遺跡

(第8地点第3次)

区画道路10-2号線道路改良(その1)及び流域関連  
下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016

水戸市教育委員会



## ごあいさつ

水戸市域の東側にある東前原遺跡は、那須岳を水源とする那珂川右岸の台地上に位置しています。本遺跡の周辺には、文献に残る最古の貝塚である国指定史跡「大串貝塚」や、6世紀後半に築造された首長墓とみられる北屋敷古墳群、奈良・平安時代に交通の要衝として機能した平津駅家の関連集落と考えられている梶内遺跡など、多くの重要遺跡が残されており、古くから政治・文化の中心地域のひとつとして繁栄してきたと考えられています。

近年、東前原遺跡が位置する東前町周辺は、区画整理事業に伴い宅地化が急速に進んでおり、周辺に位置する遺跡の様相も大きく様変わりしています。埋蔵文化財は、その性格上、開発などにより一度壊されてしまうと、二度と現状に復すことができないため、私たちひとりひとりが大切に保存しながら後世に伝えていかなければならない貴重な財産です。本市教育委員会といたしましては、その意義や重要性を踏まえ、開発事業との調和を図りながら、文化財の保護・保存に努めているところです。

今回の調査では、弥生時代から中～近世にかけての多数の遺構や遺物を確認しました。弥生時代の遺構としては、中期後半～後期前半にかけての竪穴住居跡が調査区北側に集中して見つかっており、過去の調査結果と併せて考えると、この時期の集落が台地の北端部に広がる風景が窺えつつあります。さらには、奈良・平安時代の竪穴建物跡が多数確認されたほか、東側隣地での発掘調査で確認されている大型の溝跡を検出しました。

これらの成果は、東前原遺跡における土地利用の変遷を復元するうえで重要な資料であります。また、近接する小原遺跡や、那賀郡衙正倉別院と推定される大串遺跡など、東前町近辺に存在する遺跡との関連性を考えるうえでも大きな手がかりとなるものです。

ここに刊行する本書が、豊かな地域史の一端を復元することで貴重な文化財に対する保護・活用の意識の高揚や郷土愛の育成へと繋がることを願い、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

末尾ながら、今回の調査実施にあたり、多大なる御理解と御協力を賜りました近隣住民の皆様方、並びに種々の御指導・御助言を賜りました関係各位に心から感謝申し上げ、ごあいさつといたします。

平成 28 年 7 月

水戸市教育委員会

教育長 本 多 清 峰



## 例　言

- 1 本書は、茨城県水戸市東前町地内における区画道路10-2号線道路改良（その1）及び流域関連下水道工事に伴い実施した、東前原遺跡第8地点第3次の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、株式会社地域文化財研究所の調査支援を受け、水戸市教育委員会が主体となって行った。
- 3 調査概要及び調査組織は以下のとおりである。

所 在 地 茨城県水戸市東前町 1120, 1209-2, 1209-7, 1209-9, 1209-10 の一部

調 査 面 積 840 m<sup>2</sup>

調 査 期 間 平成28年3月1日～平成28年4月6日

調 査 体 制 本多 清峰 水戸市教育委員会教育長

事務局

七字 裕二 水戸市教育委員会事務局教育次長

長谷川 仁 同文化課埋蔵文化財センター所長

米川 輝敬 同文化財主事（調査担当者）

太田有里乃 同主事

昆 志穂 同埋蔵文化財専門員

丸山優香里 同埋蔵文化財専門員

下山はる奈 同埋蔵文化財専門員

菅谷 瑛奈 同嘱託員（公開活用担当）

杉山 洋子 同嘱託員（庶務担当）

調 査 支 援 高野浩之（株式会社地域文化財研究所）

調査参加者【発掘調査】有田洋子・飯田 昭・石崎洋子・石崎寿子・市毛祐一・江橋和子

大山年明・岡部五男生・小坂部克己・鬼澤 熊・海後晴美

川又誠二・栗原芳子・齊藤宏光 鈴木潤一・高岡真士・高安丈夫

高安幸且・飛田とし子・中嶋順子・渡辺恵子

【整理調査】川村理華・小林真千子・木村春代・野村浩史・榎 勝雄・増田香理

- 4 出土した遺物の内、弥生土器は斎藤弘道氏にご教示いただいた。
- 5 本書は、米川、丸山、高野が分担して執筆し、米川の助言・指導に基づいて高野が編集した。各節の文責は文末に記載してある。
- 6 出土遺物及び図面・写真などの記録類は、報告書刊行後一括して水戸市大串貝塚ふれあい公園内水戸市埋蔵文化財センターにて保管してある。
- 7 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御教示、ご協力を賜った。  
(敬称略・順不同)。

水戸市都市計画部市街地整備課・東前地区開発事務所　　水戸市毛工務店　　㈱イビソク

斎藤弘道

## 凡 例

- 測量は日本測地系を用い、挿図中の方位は座標北を示す。
- 挿図中で使用した遺構の略号は以下のとおりである。

|                  |              |                |
|------------------|--------------|----------------|
| S I : 穴住居跡・穴建物跡  | S B : 挖立柱建物跡 | P i t : 柱穴・ピット |
| S K : 土坑         | S E : 井戸跡    | S X : 不明遺構     |
| K : 風倒木痕・植栽痕・擾乱等 |              |                |
- 土層図及び断面図に記した数値は標高を示す。
- 遺構の形態・規模は基本的に現存している状態で判断した。計測は壁上端で行い、主軸方向は穴住居跡・建物跡は炉・カマドを軸とし、土坑等は長軸方向より求めた。遺構内施設（柱穴等）の深さは床・底面の位置から計測している。
- 遺構平面図及び断面図の縮尺は、基本的に1/60とし、穴建物跡のカマドや遺物出土状況微細図は1/30とした。各図にスケールで示した。
- 遺構の土層及び遺物の色調表現は、『新版標準土色帖 2003年版』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）に準拠した。土層説明の中で、「ゅ」は粒状規模をミリ単位で明記し、含有量は2%以下を「微量」、3~9%を「少量」、10~19%を「中量」、20%以上を「多量」とし、多量のものについては（ ）付で含有量を示した。いずれも同書の「面積割合」を参照している。
- 出土遺物の縮尺は土器類を1/3, 1/4, 瓦類を1/4, 石器類を2/3, 1/3, 1/4とし、各図にスケールで示した。
- 遺物観察表の標記は、（ ）内が復元値、（ ）内が残存値とし、遺物の計測値は規模を「cm」、重量を「g」で表した。色調は上段が外面、下段が内面で、内外面同色の場合は1色のみの表記である。
- 出土遺物一覧表の中で、接合したものは1点とし、逆に同一個体であることが明らかでも接合しないものはそれぞれを1点とした。
- 本文中で使用した地図類の出典は、第2図が「明治18年7月第一軍管地方迅速測図」、第3図が「水戸市埋蔵文化財包蔵地分布地図（平成24年度版）平成24年3月 水戸市教育委員会」で、それぞれを加筆修正している。
- 挿図中で使用したスクリーントーン及び線種・ドット類は以下凡例図のとおりである。
- 表紙に使用した図は第10図SI02-1の弥生土器・壺である。

凡例図



※これ以外の表記は挿図中に記載した。

# 目 次

ごあいさつ

例言

凡例

目次

## 第1章 調査に至る経緯と調査経過

|              |   |
|--------------|---|
| 第1節 調査に至る経緯  | 1 |
| 第2節 調査の方法と経過 | 2 |
| (1) 調査の方法    | 2 |
| (2) 調査の経過    | 2 |

## 第2章 遺跡の位置と環境

|                    |   |
|--------------------|---|
| 第1節 地理的環境          | 3 |
| 第2節 歴史的環境          | 4 |
| 第3節 東前原遺跡における既往の調査 | 6 |

## 第3章 調査の成果

|                 |    |
|-----------------|----|
| 第1節 調査の概要       | 9  |
| 第2節 検出された遺構と遺物  | 11 |
| (1) 堅穴住居跡・堅穴建物跡 | 11 |
| (2) 掘立堅穴建物跡     | 40 |
| (3) ピット         | 45 |
| (4) 土坑          | 50 |
| (5) 井戸跡         | 52 |
| (6) 溝跡          | 53 |
| (7) 性格不明遺構      | 55 |

## 第4章 総括

写真図版

抄録

## 挿 図 目 次

|                      |                    |    |
|----------------------|--------------------|----|
| 第1図 東前原遺跡第8地点第1次調査   | 第11図 SI02 出土遺物 (2) | 15 |
| 試掘トレーンチ配置図           | 第12図 SI02 出土遺物 (3) | 16 |
| 第2図 遺跡の位置            | 第13図 SI03(1)       | 16 |
| 第3図 周辺の遺跡            | 第14図 SI03(2)・同出土遺物 | 17 |
| 第4図 東前原遺跡における既往の調査地点 | 第15図 SI04(1)       | 18 |
| 第5図 基本堆積土層図          | 第16図 SI04(2)・同出土遺物 | 19 |
| 第6図 遺構全体図            | 第17図 SI05          | 20 |
| 第7図 SI01             | 第18図 SI05 出土遺物     | 21 |
| 第8図 SI01 出土遺物        | 第19図 SI06(1)       | 21 |
| 第9図 SI02             | 第20図 SI06(2)・同出土遺物 | 22 |
| 第10図 SI02 出土遺物 (1)   | 第21図 SI08・同出土遺物    | 23 |

|      |             |    |      |              |    |
|------|-------------|----|------|--------------|----|
| 第22図 | SI09        | 24 | 第39図 | SI16・同出土遺物   | 39 |
| 第23図 | SI09出土遺物    | 25 | 第40図 | SI17・同出土遺物   | 40 |
| 第24図 | SI10        | 26 | 第41図 | SB01         | 41 |
| 第25図 | SI10出土遺物    | 27 | 第42図 | SB02         | 43 |
| 第26図 | SI11        | 28 | 第43図 | SB03         | 44 |
| 第27図 | SI11出土遺物(1) | 29 | 第44図 | ピット(1)       | 46 |
| 第28図 | SI11出土遺物(2) | 30 | 第45図 | ピット(2)・同出土遺物 | 47 |
| 第29図 | SI12・同出土遺物  | 31 | 第46図 | ピット配置図       | 48 |
| 第30図 | SI13(1)     | 32 | 第47図 | 土坑(1)        | 50 |
| 第31図 | SI13(2)     | 33 | 第48図 | 土坑(2)・同出土遺物  | 51 |
| 第32図 | SI13出土遺物(1) | 34 | 第49図 | SE01・同出土遺物   | 52 |
| 第33図 | SI13出土遺物(2) | 35 | 第50図 | SD01         | 53 |
| 第34図 | SI14        | 36 | 第51図 | SD01出土遺物     | 54 |
| 第35図 | SI14出土遺物    | 37 | 第52図 | SD02・同出土遺物   | 54 |
| 第36図 | SI15・18     | 37 | 第53図 | SX01・SX02    | 55 |
| 第37図 | SI15出土遺物    | 38 | 第54図 | 遺構外出土遺物      | 55 |
| 第38図 | SI18出土遺物    | 38 | 第55図 | 遺構変遷図        | 68 |

## 表 目 次

|     |                  |    |      |                    |    |
|-----|------------------|----|------|--------------------|----|
| 第1表 | 主要な周辺遺跡一覧        | 5  | 第8表  | 出土遺物觀察表(土器)        | 56 |
| 第2表 | 東前原遺跡における既往の調査一覧 | 7  | 第9表  | 出土遺物觀察表(瓦)         | 64 |
| 第3表 | SB01             | 42 | 第10表 | 出土遺物觀察表(土製品)       | 65 |
| 第4表 | SB02             | 42 | 第11表 | 出土遺物觀察表(石製品)       | 65 |
| 第5表 | SB03             | 45 | 第12表 | 出土遺物觀察表(鉄製品)       | 65 |
| 第6表 | 柱穴・ピット一覧表        | 49 | 第13表 | 出土遺物集計表(弥生時代)      | 65 |
| 第7表 | 土坑一覧表            | 52 | 第14表 | 出土遺物集計表(奈良・平安時代以降) | 66 |

## 写 真 図 版 目 次

- 図版 1 北区全景 / 南区全景
- 図版 2 SI01全景 / SI02全景 / SI02炉近景 / SI02遺物出土状況 / SI03全景 /  
SI04全景 / SI05全景 / SI06全景
- 図版 3 SI08全景 / SI08遺物出土状況 / SI09全景 / SI09遺物出土状況 / SI10全景 /  
SI10窓下遺物出土状況 / SI11全景 / SI12窓下完掘全景
- 図版 4 SI13全景 / SI13遺物出土状況 / SI14全景 / SI15・18全景 / SI16全景  
SI17全景 / SB01・SX01全景 / SB01・Pit18土層断面
- 図版 5 SB02全景 / SB03全景 / SE01全景 / SK04土層断面・遺物出土状況 /  
SK07全景 / SX02全景・土層断面 / SD01全景 / SD01土層断面
- 図版 6 SI01・02(1)出土遺物
- 図版 7 SI02(2)・03・04・05・06出土遺物
- 図版 8 SI08・09・10(1)出土遺物
- 図版 9 SI10(2)・11(1)出土遺物
- 図版 10 SI11(2)・12・13(1)出土遺物
- 図版 11 SI13(2)・14・15・16出土遺物
- 図版 12 SI17・18, SE01, SK04・07・09, Pit, SD01・02, 遺構外出土遺物

# 第1章 調査に至る経緯と調査経過

## 第1節 調査に至る経緯

平成27年6月10日付けで、土地区画整理事業に伴い、水戸市長（都市計画部市街地整備課東前地区開発事務所扱、以下「事業者」という。）から、水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）教育長あて、「埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて」（教理第763号）が提出された。

開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「東前原遺跡」に該当していることから、平成27年6月16～19日に試掘調査を実施した。なお、開発予定地のうち埋蔵文化財包蔵地の範囲外とされていた箇所にも遺構の分布が想定されたことから、当該箇所にも調査区（第1図トレント⑩）を設定した。当該試掘調査（東前原遺跡第8地点第1次調査）では、計13本の調査区を設定した（第1図トレント①～⑩）。調査の結果、ほぼ全ての調査区から堅穴建物跡や溝跡をはじめとする多数の遺構・遺物を検出し、その旨事業者あて回答した（教理第764号）。なお、試掘調査により遺跡の範囲がさらに北側の台地縁辺まで広がることを確認したため、後日に東前原遺跡の範囲変更を行った。

以上のことから、本件は「茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱い基準」と照合・検討した結果、原則Ⅲ「恒久的な構造物の設置により相当期間にわたり埋蔵文化財ととの関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が破損したに等しい状態となる場合」に該当すると判断された。そのため、市教委は、現状保存に向け事業者と協議を重ねたが、工事による影響は不可避であり、埋蔵文化財の現状保存は極めて困難であるとの結論に達した。このため市教委は、事業者から提出のあった文化財保護法第94条第1項



第1図 東前原遺跡第8地点第1次調査試掘トレント配置図（1：1,500）

## 第Ⅰ章 調査に至る経緯と調査の経過

に基づく通知について、次善の策として記録保存を目的とした本発掘調査を実施すべき旨の意見書を付して茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）教育長あてに達成した（教理第765号）。

この通知に対し、県教委教育長から平成27年7月15日付け文第1011号にて、工事着手前に発掘調査を実施すること、また、調査の結果重要な遺構が確認された場合にはその保存について別途協議を要する旨の指示・勧告があった。

これを受け、市教委は工事対象地のうち、埋蔵文化財が確認された面積840m<sup>2</sup>を調査対象とし、平成28年3月1日～平成28年4月6日の期間に発掘調査を実施することになった。なお、当該地点は、事業範囲が広範であったため、工事実施区画にあわせて次数を分けており、これまでに工事対象地の南東側において、平成27年12月22日～平成28年1月20日の期間で第2次発掘調査を行っている。これらの経緯から、当該地点は第8地点第3次として発掘調査を実施している。（丸山）

## 第2節 調査の方法と経過

### （1）調査の方法

調査は、試掘調査の結果に基づき840m<sup>2</sup>を対象に行った。調査区は作業や記録等の区別に用いるため、便宜上現状道路部分を境にして北区と南区に分けている。発掘作業は表土をバックフォーで除去し、発生土はダンプによって調査区外に指定された所定の場所へ搬出した。表土除去後の遺構確認作業から遺構の掘り下げは全て人力で行った。堅穴建物跡は基本的に十字の土層観察用ベルトを設定し、新旧関係が把握できた遺構は新しい時期のものから調査を進めた。土坑、ピット等小規模なものは半載によって土層を確認しながら遺構とそれ以外の落ち込みを全て判断した。記録は、事業計画によつて設置された公共座標の基準点をもとにX軸=37760、Y軸=62580の交わる地点を基点として10×10mの方眼グリッドを組んだ。グリッドにはX軸にはアルファベット、Y軸には算用数字の記号を用いてそれぞれの交点に双方の記号を併用したグリッド名を付し（第6図）、実測や遺物採集の際に使用した。遺構実測は1/20縮尺を基本とするが、遺構の性格に応じた縮尺で行っている。写真撮影は35mm判白黒フィルム及びカラーリバーサルフィルム、6×7判カラーリバーサルフィルムのカメラを主要機とし、1000万画素のデジタルカメラを併用しながら、実測とともに調査の過程で随時撮影を行った。

### （2）調査の経過

発掘調査は、3月1日より表土除去を開始し3日まで行った。3日には作業員を投入し北区より遺構確認作業に入った。翌日には南区の遺構確認も終了し遺構掘削を開始し、併せて基準点・水準点を設置、遺構配置図の作成を実施した。8日以降、北区北側より堅穴住居跡・堅穴建物跡を中心に掘削を継続し、同時に10日まではSD01の掘削を併行した。12日には北区の掘削に目途が立ち、北区の遺構実測と入れ替えて15日から南区の遺構掘削を開始した。25日までには北区の作業を終了し、26日に全体清掃を行って北区の全景写真撮影を行った。28日から北区で検出した堅穴建物跡の掘り方掘削に入るとともに、南区を主体に展開する柱穴・ピット群の半割・確認作業を集中的に実施した。4月に入って1日には南区の全体清掃及び全景写真撮影を行った。2日から南区検出の堅穴建物跡掘り方調査と掘立柱建物跡の調査を経て遺構間の新旧関係を把握し、6日午前中は再度調査区を精査して掘り残しの有無を確認し、同日午後に発掘調査の全工程を終了した。（高野）

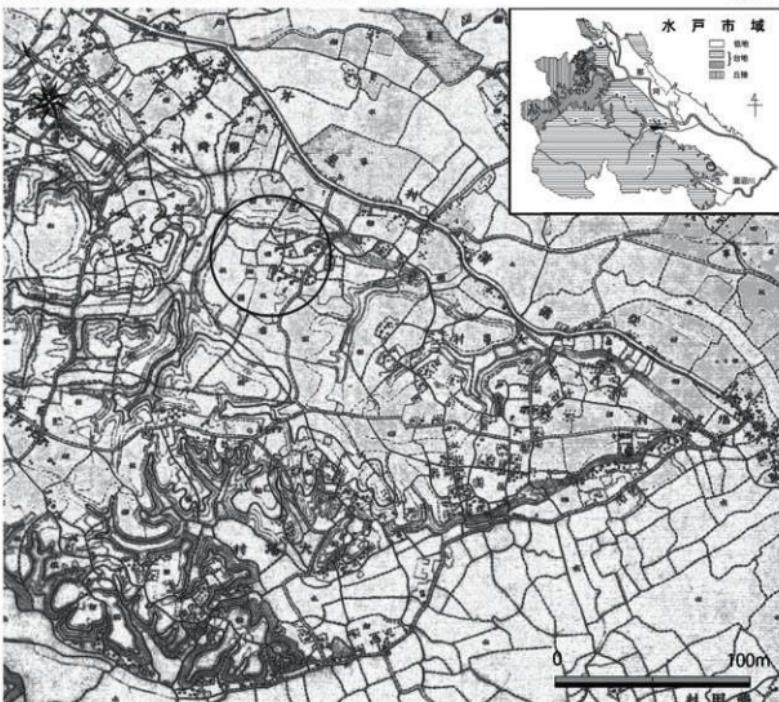
## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

水戸市は、関東平野の北東部、茨城県のほぼ中央に位置する。市域の北部には、西から東へ流れる那珂川とその支流により形成される沖積低地が広がり、これに沿うように東茨城台地が太平洋に向かって突き出している。その下流域右岸の大半が水戸市域となる那珂川は、栃木県の那須連山を水源として、八溝山地の西縁を南へ流れた後、烏山の南から方向を東へ変えて八溝山地を横断し、今度は御前山を背にして南東へ方向を変えて那珂台地と東茨城台地との間を太平洋へと流れ出る。この那珂川の存在により、栃木県域に広がる那須野原や喜連川丘陵などの内陸部と太平洋沿岸部とが水上交通によって結ばれることから、歴史的に水戸市域は交通の要衝地となることが多かった。

東前原遺跡は、東茨城台地の北東部をなす水戸台地の東側縁辺、標高約19mのところに位置しており、東西300m、南北150mほどの畠地に展開する。当該地周辺は明治18(1885)年には広範囲にわたって松林であったことが確認できるが(第2図・第3図)、近年では土地区画整理事業に伴い、大規模な土地改変が行われ、宅地化が進んでいる。

(丸山)

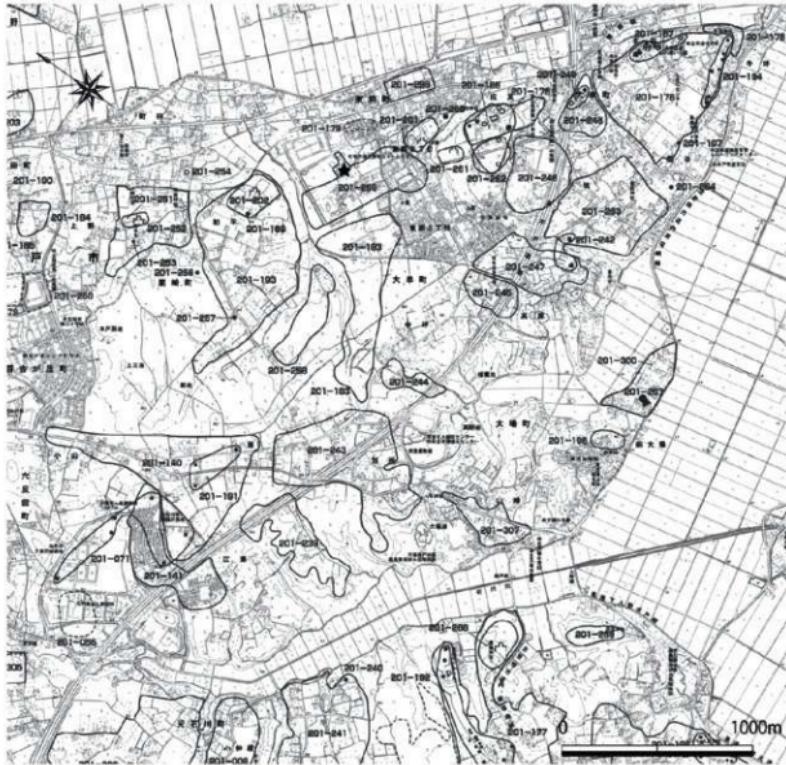


第2図 遺跡の位置 (○が東前原遺跡、1:25,000)

## 第2節 歴史的環境

東前原遺跡が立地する東茨城台地、特に東端部には、縄文から近世に至るまで、数多くの遺跡が密集している。ここでは東前原遺跡の周辺に分布する遺跡群とそれらを取り巻く歴史的環境を概観する。東前原遺跡周辺における人々の営みの歴史は先土器時代にまで遡る。当該期の資料は、東前原遺跡と石川川を挟んだ対岸に位置する森戸古墳群からの出土例が知られているのみである。森戸古墳群では、第12号墳（大六天古墳）の発掘調査において、チャートやメノウから構成される石器群の出土が報告されている。それら石器群の大部分は墳丘盛土・周溝覆土内からの出土であるが、剥片であるものの、1点が周溝底面のローム中から出土している（伊藤 1976）。これらの資料のほか、明確に遺跡としてくられた範囲内での採集ではないが、水戸市百合が丘、下入野町地内などにおいて、ガラス製黒色ディサイトや硬質頁岩製の神子柴型尖頭器が採集されている（川口 2005, 2008）。

縄文時代の遺跡としては、第一に挙げるべきは大串貝塚であろう。大串貝塚は『常陸國風土記』那賀郡条に記された巨人伝説とともに著名な前期貝塚であり、貝塚としては、文献に記載された世界最



第3図 周辺の遺跡（★印が今次調査地点点。1:30,000）

第1表 主要な周辺遺跡一覧

| 遺跡番号    | 名称      | 所在地  | 種別  | 遺物   | 備考                  |
|---------|---------|------|-----|--|---------------------|
| 201-006 | 下畠遺跡    | 元石川町 | 集落跡 | 圓文土器（中・後），打製石斧，石鍬，磨石，田石，石棒，石劍，土器片鍬，土器器（古墳） |                     |
| 201-141 | 原沢遺跡    | 元石川町 | 集落跡 | 圓文土器（中），弥生土器（後），土器器（古墳）                    |                     |
| 201-175 | 大木市遺跡   | 庵崎町  | 貝冢  | 圓文土器（前・後），石製品，貝壳，貝釧，陶瓦                     | 本調査指定               |
| 201-176 | 大串古墳群   | 庵崎町  | 集落跡 | 圓文土器（前・後），土器器（古・前・平），須恵器（前・平），布目瓦，灰釉陶器     |                     |
| 201-183 | 小原遺跡    | 東田町  | 集落跡 | 弥生土器（後），土器器（古・前・平），須恵器（前・平）                |                     |
| 201-186 | 金山遺古墳群  | 大串町  | 古墳  | 円筒埴輪，鐵劍，刀子                                 | 前方後円（1），円3（5）       |
| 201-187 | 大串古墳群   | 大串町  | 古墳  | 8底鏡，脚輪，直刀，鐵劍，素盞，素戔鏡板付鏡                     | 前方後円1，円1（5）         |
| 201-189 | 愛宕神社古墳  | 庵崎町  | 古墳  |  |                     |
| 201-192 | 森戸古墳群   | 森戸町  | 古墳  | 土師器（古），円筒埴輪，形象埴輪，勾玉                        | 前方後円1，方0（1），円15（17） |
| 201-193 | 上平遺跡    | 庵崎町  | 集落跡 | 土師器（古・前・平），須恵器（前・平）                        |                     |
| 201-201 | 拂山遺跡    | 東田町  | 城郭跡 |  |                     |
| 201-202 | 和門遺跡    | 庵崎町  | 城郭跡 |  |                     |
| 201-242 | 高原古墳群   | 大湖町  | 古墳  |  | 円2                  |
| 201-244 | 源野古墳群   | 大湖町  | 集落跡 | 土師器（古・前・平），須恵器（前・平）                        |                     |
| 201-245 | 沢越古墳群   | 大湖町  | 集落跡 | 土師器（古・前・平），須恵器（前・平），墨書き土器，印面鏡，鉄鋤軸，石臼，鉄鍬，鉄鏟 |                     |
| 201-246 | 桜内古墳群   | 大串町  | 集落跡 | 土師器（古後，前・平），須恵器（前・平），刀子，円面鏡，墨書き土器，陶器，古鏡，律管 |                     |
| 201-247 | 高原古墳群   | 大串町  | 集落跡 | 須生土器（後），土師器（前・平），須恵器（前・平），土師質土器，律管         |                     |
| 201-248 | 花原古墳群   | 大串町  | 集落跡 | 土師器（古後，前・平），須恵器（前・平），K. 陶器                 |                     |
| 201-249 | 北知敷古墳群  | 大串町  | 古墳  | 形象埴輪，直刀，小刀，鐵劍                              | 円1（2）               |
| 201-251 | 伊豆野聚落   | 庵崎町  | 城郭跡 |  |                     |
| 201-252 | 上野遺跡    | 庵崎町  | 集落跡 |  |                     |
| 201-253 | 衛門性古墳   | 庵崎町  | 古墳  |  |                     |
| 201-254 | フジマ古墳   | 庵崎町  | 古墳  |  |                     |
| 201-256 | 謝郎神社古墳  | 庵崎町  | 古墳  |  |                     |
| 201-257 | 千勝神社古墳  | 庵崎町  | 古墳  |  |                     |
| 201-258 | 打綱古墳    | 庵崎町  | 集落跡 | 土師器（前・平），須恵器（前・平）                          |                     |
| 201-259 | 東原の遺跡   | 東田町  | 集落跡 | 須生土器（後），土師器（古・前・平），須恵器（前・平）                | 本調査遺跡               |
| 201-260 | 上吉田神社古墳 | 東田町  | 古墳  |  |                     |
| 201-261 | 大串古墳群   | 大串町  | 城郭跡 |  |                     |
| 201-263 | 宮前古墳    | 大串町  | 集落跡 | 土師器（前・平），須恵器（前・平）                          |                     |
| 201-299 | 上のト遺跡   | 東田町  | 古墳地 |  |                     |

古のものである。一部が国指定となっているが、その名に恥じぬ豊富な出土資料は、質・量ともに茨城県下における当該期の貝塚を凌駕している（水戸市教委 2010）。また、下畠遺跡では、加曾利E式、大木8 b式期の堅穴建物跡をはじめとする遺構群が確認されており（井上 1985），複式炉を有する住居跡が発見されるなど、中期から後期にかけての人々の営みを窺うことができる。

弥生時代については、東前原遺跡周辺における状況も水戸市全域における傾向に遡わず、生活的痕跡は他時期のそれに比べてやや低調な傾向にある。しかしながら、後期に至っては、丘陵沿いの台地上や縁辺部に立地する小原遺跡、高原遺跡、雁沢遺跡などで遺物の採集や出土が報告されており、これらの調査成果の蓄積により、徐々にではあるが、水戸市域における弥生時代の土地利用の様相が像を結びつつある。

古墳時代を迎えると、大串古墳群、北屋敷古墳群、高原古墳群、森戸古墳群などを筆頭に、古墳が活発に築造されるようになる。これらの古墳のうち、北屋敷古墳群第2号墳では発掘調査が実施されており、円筒埴輪、武人をはじめとする人物埴輪、馬形埴輪など形象埴輪が多く出土した（井上 1995）。このうち、ほぼ全身が出土した武人埴輪は水戸市指定文化財となっている。集落の分布としては、中期の集落に係る資料に乏しく、周辺では管見に触れないが、前期の集落としては大串遺跡（井上 1994）、後期の集落としては梶内遺跡（樺村 1995）、小原遺跡（第3地点）などの調査事例がある。当該台地上においては、前期・後期ともに活発な土地利用がみてとれる反面、中期における土地利用が緩慢であると言わざるを得ない。このことは集落展開の動態について、中期において相応の変動があったことを示唆するものである。

奈良・平安時代となり、律令制下の中央政権体制が構築されていくなか、水戸市域においても地方末端支配を目的とした郡衙及び郡寺の造営が、渡里町に所在する台渡里官衙遺跡群において行われ、

律令体制の中へと組み込まれていくこととなる。水戸市は全城が常陸国那賀郡域内にあり、当該遺跡周辺は同郡芳賀里（郷）に比定される（中山 1979）。当該時期の遺跡として、先ず注目すべきは大串遺跡の存在である。大串遺跡第7地点における発掘調査では、断面V字状を呈する大型の溝によって区画された内部に、整然と並ぶ縦地業の礎石建物跡3棟が確認されている。また、束柱をもち、縦地業を有する桁行6間×梁行3間の大型の掘立柱建物跡なども発見され、一般集落とは大きく異なる様相を示している。大型の掘立柱建物柱抜き取り穴からは多量の炭化材と共に炭化米が、区画溝からは炭化した穀穂や穀稈が出土しており、これらの建物が正倉としての性格を有し、火災により焼失していたことが明らかになっている。また、「厨」銘墨書土器も出土するなど、官衙的色彩の強さが目立つ遺構・遺物群から、本遺跡は那賀郡内に設置された正倉別院であったであろうことが指摘されている（水戸市教委 2007）。

このほか、梶内遺跡は、7世紀から10世紀まで、途中希薄になる時期は存在するものの、比較的長く継続する集落跡として注視すべき遺跡である。当該遺跡では、「舍人」「長」や里（郷）名を記したとみられる「芳」銘墨書土器、9点もの円面鏡を出土しており、官衙関連遺跡としての性格を匂わせる（樋村 1995）。また、東前原遺跡直近に位置する小原遺跡では、近年相次いで実施した発掘調査の成果により、6世紀から9世紀にかけて存続した集落であることが明らかになっており、「官」銘墨書土器の出土から、梶内遺跡と同様の性格を有している可能性が考えられる（太田・土生 2015、齋藤・米川 2016）。以上のような遺跡群の集中する様は、『常陸國風土記』那賀郡条の「平津驛家西一二里有岡名曰大櫛」の記事（秋本 1958）とあわせ、東前原遺跡とその周辺地域が、常陸国那賀郡芳賀里（郷）の中核ともいえる地域であったことを物語っている。

中世、武士が実権を握る時代となり、東前原遺跡が所在する旧常澄村域と重なる恒富郷を根拠としていたのは、常陸平氏大掾氏の一流である石川氏であった（常澄村史編さん委員会編 1989）。東前原遺跡周辺の当該時期の遺跡としては、椿山館跡、和平館跡、大串原館跡が挙げられる。いずれの城館跡も土壘の残存が報告されているが、調査事例が少なく、その詳細については不明な点が多い（水戸市教育委員会 1999）。

近世において、当該地域の台地上は水戸城下の外縁部にあたり、必ずしも前代のような求心力を有する地域であるとは言い難い。しかしながら、当該時期に帰属する溝跡や土坑などは各所で散見され、その土地利用の痕跡を窺うことはできる。なかでも『新編常陸国誌』などに立原伊豆守の居所と記されている伊豆屋敷跡では、発掘調査の結果3条の土塁と1条の溝跡が確認されている（井上 1998）。

以上のように、東前原遺跡が立地する台地上には、繩文時代から近世に至るまで、豊富な遺跡が所在している。古代には、大串遺跡や梶内遺跡などの官衙関連遺跡が展開をみせ、古代常陸国那賀郡の中核であった台渡里官衙遺跡群との色濃い関連性は疑うべくもない。現在、東前原遺跡周辺における調査の蓄積には目覚ましいものがある。これらの調査成果の丹念な検討から、当該地域の歴史像が結ばれていくことが期される。

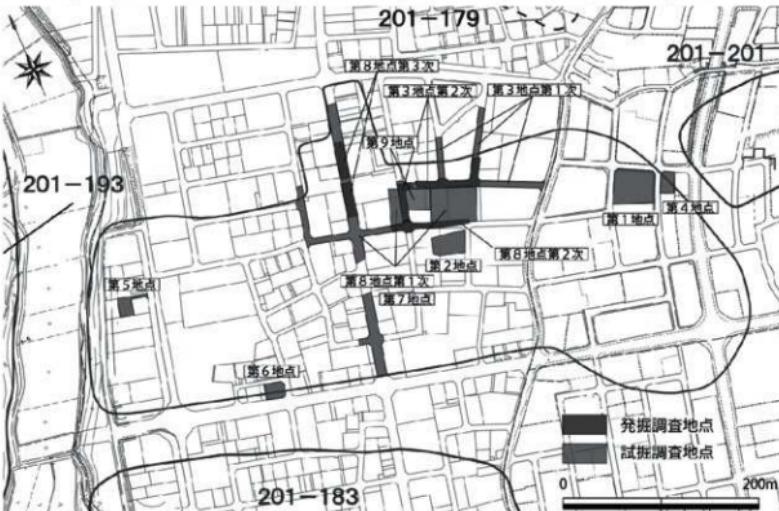
（米川・丸山）

### 第3節 東前原遺跡における既往の調査

東前原遺跡における調査は、平成20（2008）年の第1地点の試掘調査から始まり、今次調査地点を含めて計8地点・12次の調査を実施している（第4図、第2表）。これらの半数は個人住宅建築に伴う調査面積が狭小な試掘調査であり、東前原遺跡南端部に位置する第6地点にて性格不明遺構が1基確認されたことを除き、明確に埋蔵文化財と捉えられる遺構は検出されていない。しかしながら、

表採や調査区表土中では少なからず遺物が散見しており、埋蔵文化財が確認できなかった地点周辺に未発見の遺構が存在している可能性は極めて高い。また、近年の土地区画整理事業に伴う市道敷設範囲や整地予定地では、3地点（総調査面積434.5m<sup>2</sup>）に亘る試掘調査を実施しており、そのほぼ全ての調査区から濃密な埋蔵文化財の分布を確認している。そのうち、これまでに第3地点第2次及び第8地点第2次で本発掘調査を実施している。なお、第8地点は、事業範囲が広範であったため、工事実施区画にあわせて次数を分け、今般の発掘調査を第3次として実施している。

平成26（2014）年度に実施した第3地点第2次発掘調査では、竪穴建物跡11軒（奈良・平安）や掘立柱建物跡2棟（時期不明）、土坑9基（奈良・平安時代、中近世）、溝跡6条（奈良・平安時代）、柱穴状遺構1基（時期不明）を検出しており、出土遺物としては、土師器、須恵器、鉄製品、石製品、獸骨がある。竪穴建物跡は、一辺が6mを超えるものから2.5mの小型のものなど様々な規模の建物がみられ。主軸方向は北北西—南南東を主とするが、東—西に向いたものもわずかに存在することか



第4図 東前原遺跡における既往の調査地点 (1:5,000)

第2表 東前原遺跡における既往の調査一覧

| 地点名・次数  | 種別   | 調査年月日                  | 調査箇所  | 調査原因     | 遺構 | 遺物 |
|---------|------|------------------------|---|----------|----|----|
| 第1地点第1次 | 試掘   | 平成20年11月11日            | 東前2丁目57・60                                    | 個人住宅建築   | —  | ○  |
| 第2地点第1次 | 試掘   | 平成24年2月2日              | 東前町1098                                       | 個人住宅建築   | —  | —  |
| 第3地点第1次 | 試掘   | 平成26年5月8日～5月6日         | 東前町1104-1～1118-1                              | 土地区画整理事業 | ○  | ○  |
| 第4地点第1次 | 試掘   | 平成26年7月30日             | 東前2丁目61, 62                                   | 個人住宅建築   | —  | ○  |
| 第5地点第1次 | 試掘   | 平成27年1月22日             | 東前第二土地区画整理事業25街区符号15区画                        | 個人住宅建築   | —  | —  |
| 第3地点第2次 | 発掘調査 | 平成27年2月9日～3月10日        | 東前町1106-1, 1113, 1115-2, 1116-1, 1117, 1118-1 | 土地区画整理事業 | ○  | ○  |
| 第6地点第1次 | 試掘   | 平成27年4月28日             | 東前町1147                                       | 個人住宅建築   | ○  | ○  |
| 第7地点第1次 | 試掘   | 平成27年5月8日              | 東前町1124-1～1126                                | 土地区画整理事業 | ○  | ○  |
| 第8地点第1次 | 試掘   | 平成27年6月16日～6月19日       | 東前町1120～1122-1                                | 土地区画整理事業 | ○  | ○  |
| 第9地点第1次 | 試掘   | 平成27年7月15日             | 東前第二土地区画整理事業48街区符号6・7区画                       | 個人住宅建築   | —  | —  |
| 第8地点第2次 | 発掘調査 | 平成27年12月22日～平成28年1月20日 | 東前町1118-1ほか                                   | 土地区画整理事業 | ○  | ○  |
| 第8地点第3次 | 発掘調査 | 平成28年3月1日～4月6日         | 東前町1120, 1209-2・7・9, 1209-10の一部               | 土地区画整理事業 | ○  | ○  |

## 第2章 遺跡の位置と環境

ら、異なる時期の集落が展開していたことが推測される。なお、当該地点で確認された堅穴建物跡の多くは北壁にカマドを持つ形状を基本としているが、そのうち1軒のみ、真北隅にカマドを持つ堅穴建物跡が確認されていることも注視される。

平成27（2013）年度に発掘調査を行った第8地点第2次では、堅穴建物跡6軒（奈良・平安）、掘立建物跡5軒（中世），ビット5基（中世），土坑9基（中世），ビット状遺構群1群（中世），溝跡2条（中世）が確認されており、遺物は土師器（奈良・平安），須恵器（奈良・平安），土師質土器（中世），陶磁器，銅製品（煙管）が出土している。ほとんどの堅穴建物跡は全体の1/2程度のみの検出に留まり、全様は確認できなかった。建物の主軸は概ね南—北方向に向いており、1軒のみ一辺が7m程の大型の堅穴建物跡があるものの、それ以外は4m程度のものが多く、規模や出土遺物から奈良・平安時代に帰属するものとして考えられる。その他、中～近世の円形や方形の粘土張り土坑も検出している。

なお、現在のところ発掘調査には至ってはいないが、本遺跡の南端に位置する第7地点でも土地区画整理事業に伴う試掘調査を実施しており、溝跡や土坑、ビットなどを発見している。当該地点で確認された遺構は、上述2地点にて確認されている集落の一端を示すものと考えられており、東前原遺跡の南側に接する小原遺跡との関係も視野に入れつつ、今後の追加調査の成果が期待される地点である。

これらの多くの堅穴建物跡の確認から、一時その営みが確認されない時期もあるものの、古墳～奈良・平安時代にかけて展開した比較的規模の大きい集落跡であることが明らかとなっている。また、中～近世の遺構も点在していることから長期に亘って土地利用がなされてきた遺跡である。

東前原遺跡における主要な発掘調査結果は以上とのおりである。当該遺跡は、地点によっては抜根や切土工事などの過去の大規模な土地改変により既に埋蔵文化財が失われているエリアも存在するが、遺跡の保存状態は比較的良好である。  
（丸山）

### 【参考・引用文献】

- 秋元吉郎校注 1958 「常陸國風土記」『風土記』日本古典文学大系2 岩波書店  
伊東重敏 1976 『大六天古墳（森戸古墳群第12号墳）』茨城県東茨城郡常澄村教育委員会  
井上義安 1985 『水戸市下郷遺跡 市道酒門8号線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会  
1994 『水戸市大串遺跡 市道常澄8-1495 号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市  
1998 『伊豆屋敷跡確認調査報告書 墓地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸地方埋蔵文化財研究会  
井上義安・金子浩正 1996 『水戸市大串遺跡 常澄中学校増改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市  
井上義安・千葉隆司 1995 『水戸市北屋敷古墳 市道常澄7-10057 号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市  
太田有里乃・土生朗治 2015 『小原遺跡（第3地点） 都計道7・6・1号外3路線道路改良及び流域閉鎖下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会  
小川和博・大瀬淳志・川口武彦・木本拳周・綿美賀吾・間口慶久・株式会社京都科学 2008 『大串遺跡（第7地点）一介護老人保健施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会  
樋谷宣行 1995 『一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書II 横内遺跡』財团法人茨城県教育財団  
川口武彦 2005 『水戸市下入野町出土の神子梨型尖頭器』『婆良岐考古』第27号 婆良岐考古同人会  
2008 『水戸市百合ヶ丘町出土の神子梨型尖頭器』『婆良岐考古』第30号 婆良岐考古同人会  
川口武彦・小川和博・大瀬淳志 2002 『水戸市元石川町所在 小仲根遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会  
齋藤 洋・米川暢敬 2016 『小原遺跡（第16地点） 都市計画道路7・6・1号線道路改良及び流域閉鎖下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会  
中山信名 1979 『新編常陸国誌』宮崎報恩会  
水戸市教育委員会 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書（平成10年度版）』

## 第3章 調査の成果

### 第1節 調査の概要

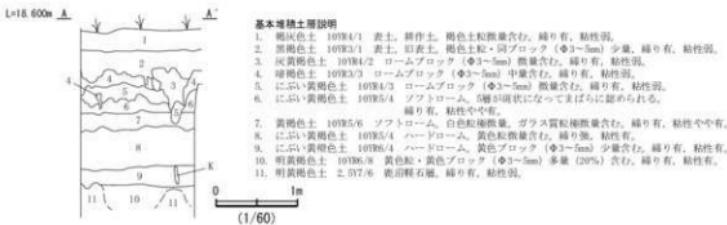
本地点は、東前原遺跡の範囲の中央部北端に位置し、現況は現在使用されている市道を境として北区が宅地、南区が畠地であった。標高は18～19m程の平坦地であるが、南区より北区の方がわずかに高い。

基本堆積土層は、南区南端にあたるI 1グリッド内で観察を行った。表土は1層耕作土、2層旧表土が認められ双方合わせた層厚は約50cmである。3・4層は同様の土質であるが、3層が若干灰色がかかり遺構の落ち込みと見誤る可能性がある。4層の暗褐色土または5層のにぶい黄褐色土の上面が遺構確認面になる。6・7層のソフトローム層、8・9層のハードローム層が続き、10層になって鹿沼輕石の含まれた層に達する。

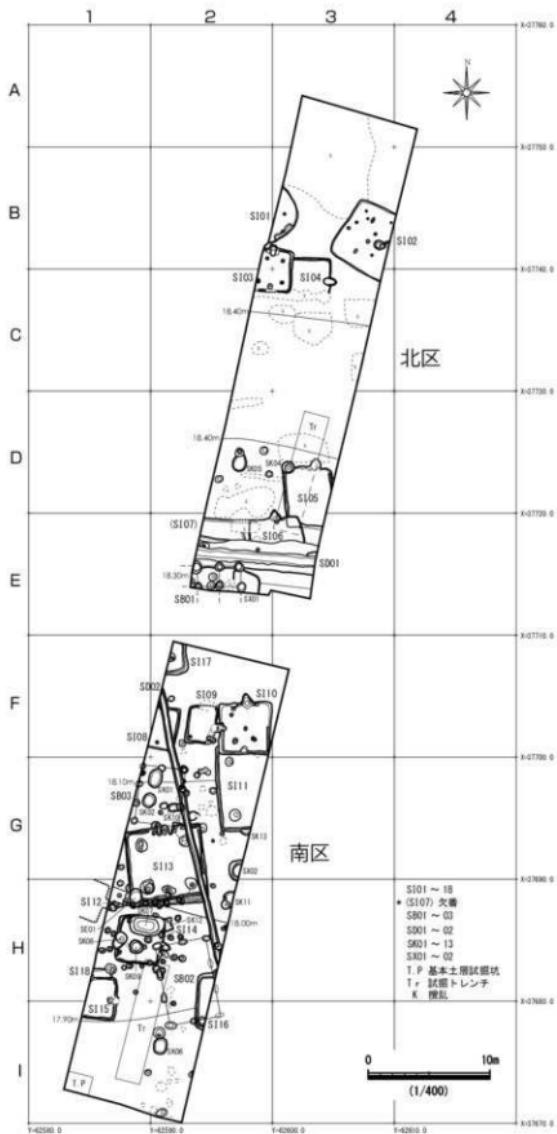
本地点から検出された遺構は、弥生時代の竪穴住居跡2軒、奈良・平安時代の竪穴建物跡15棟、掘立柱建物跡3棟、ピット98基、土坑12基、溝跡2条、性格不明の竪穴状遺構2基、近世以降の井戸跡1基、土坑1基であった。弥生時代の竪穴住居跡は2軒ともに北区の北端で検出され、該期の集落範囲が那珂川を臨む台地縁辺部に寄っていたことがうかがわれる。奈良・平安時代の竪穴建物跡は北区C・Dグリッド間で空白地帯があるものの、南北両区のほぼ全域で認められ、特に北区南端から南区での密集度が高い。これらは重複関係や出土遺物の様相から少なくともⅢ期に区分されると考えられ、最も新しい時期の竪穴建物跡は東壁にカマドを有している。掘立柱建物跡や柱穴状のピットは竪穴建物跡が密集する範囲に集中する。重複関係からSI13より新しく、SI14より古い時期の構築とみられる。溝は検出された2条の内、大型になるSD01が北区南側で調査区を横断している。出土遺物が少なく時期は不明瞭であるが、ほぼ東西に軸を持って走行していることから区画を意識しているのは間違いない。北側壁で当初SI07としていたテラス状の平坦面が認められる。近世以降と考えられる井戸、土坑は南区で確認されており、いずれも奈良・平安時代の竪穴建物跡を壊して構築されているが、関連性はうかがえない。

遺物は弥生土器（壺・甕）、土師器（壺・椀・皿・甕・瓶・鉢）、須恵器（壺・高台付壺・皿・盤・蓋・甕・瓶・鉢・壺瓶類・高壺・円面硯・コップ型）、灰釉陶器（椀）、土器、瓦（丸瓦・平瓦・熨斗瓦）、土製品（土玉・支脚）、手捏土器、石製品（砥石）、鐵製品（刀子）が出土している。弥生時代の土器は、頸部に2～3本単位の櫛描文を有する壺が主体で、那珂川沿いに展開する東中根式期の様相である。奈良・平安時代で特に注視する遺物としては土師器、須恵器の壺の中に認められる墨書土器8点、小破片ではあるが円面硯の脚部1点、コップ型の須恵器などがあげられる。

（高野）



第5図 基本堆積土層図



第6図 遺構全体図

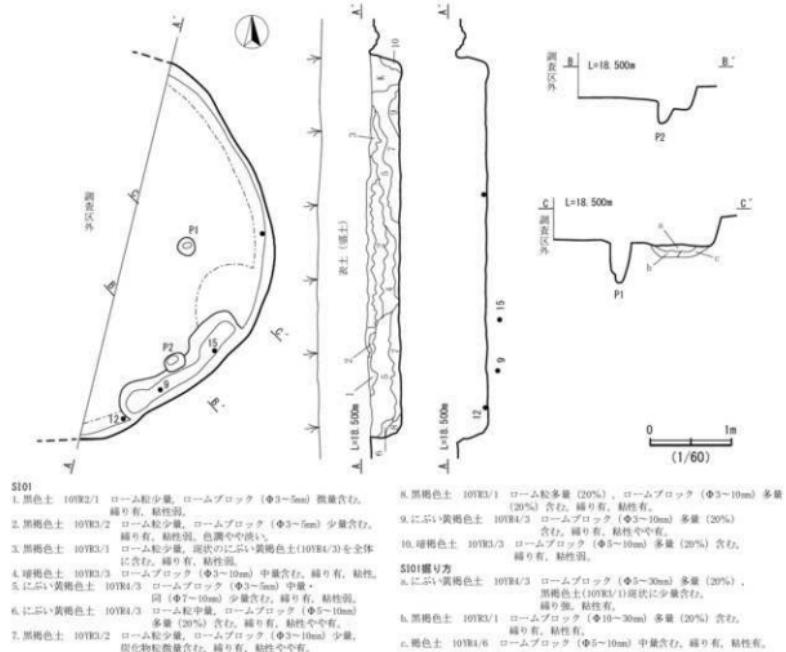
## 第2節 検出された遺構と遺物

## (1) 壁穴住居跡・壁穴建物跡

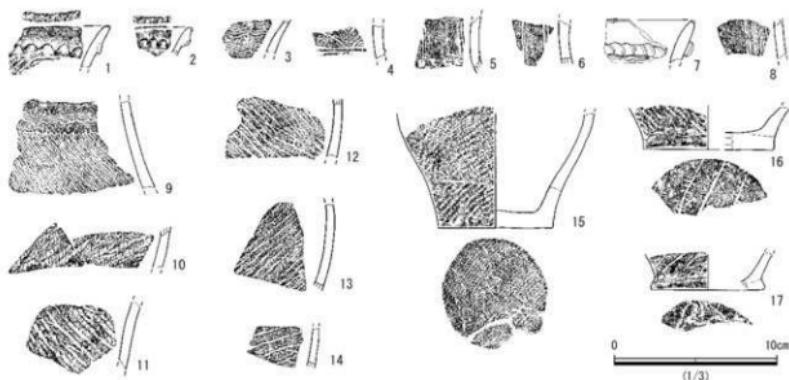
## S101 (第7・8図、第8表、写真図版2・6)

検出位置は北区のB2・3グリッドである。西側の約3分の2が調査区外になり、全容は把握できなかつたが、平面形は隅丸方形を呈すると思われる。規模は現存で最大4.74m、深さ38cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面にはぶい黄褐色土とロームブロックの混土で薄く貼り床が施され、一部を除きほぼ全体に硬化する。壁溝は幅27~38cm、深さ14cmで、南東壁のみに認められた。ピットは2基が検出された。掘り方は壁際を深く掘り込んだ部分がある。

遺物は、弥生土器42点（壺42）が出土した。本地点での範囲では覆土中に含まれた小破片がほとんどで数も少ない。1はP1からの出土、12は床直上からの出土でいずれも小破片であるが、壁溝中から出土した9・15はやや大きめの破片で、9は他と比べ異質である。口縁部は複合口縁のみで、櫛描文は2本単位のものが主体であるが、3は3本以上の施文具が用いられている。縄文は付加条第1種縄文（付加2条）が中心であるが、14・17は付加条第2種縄文（付加1条）である。底部底面は15の布目压痕、16・17の木葉痕の2種類が認められる。3・9・14・17は本住居跡の時期に伴わない混入遺物の可能性が高い。時期は弥生時代後期前半と考えられる。



第7図 S101

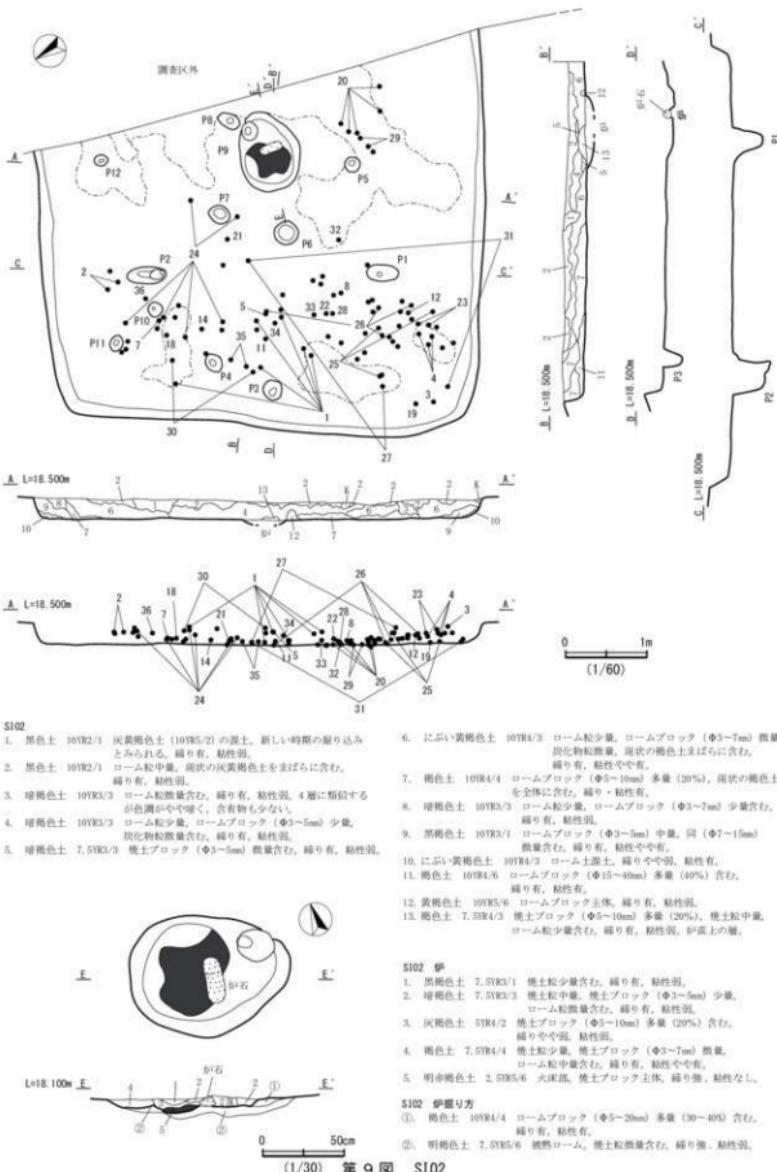


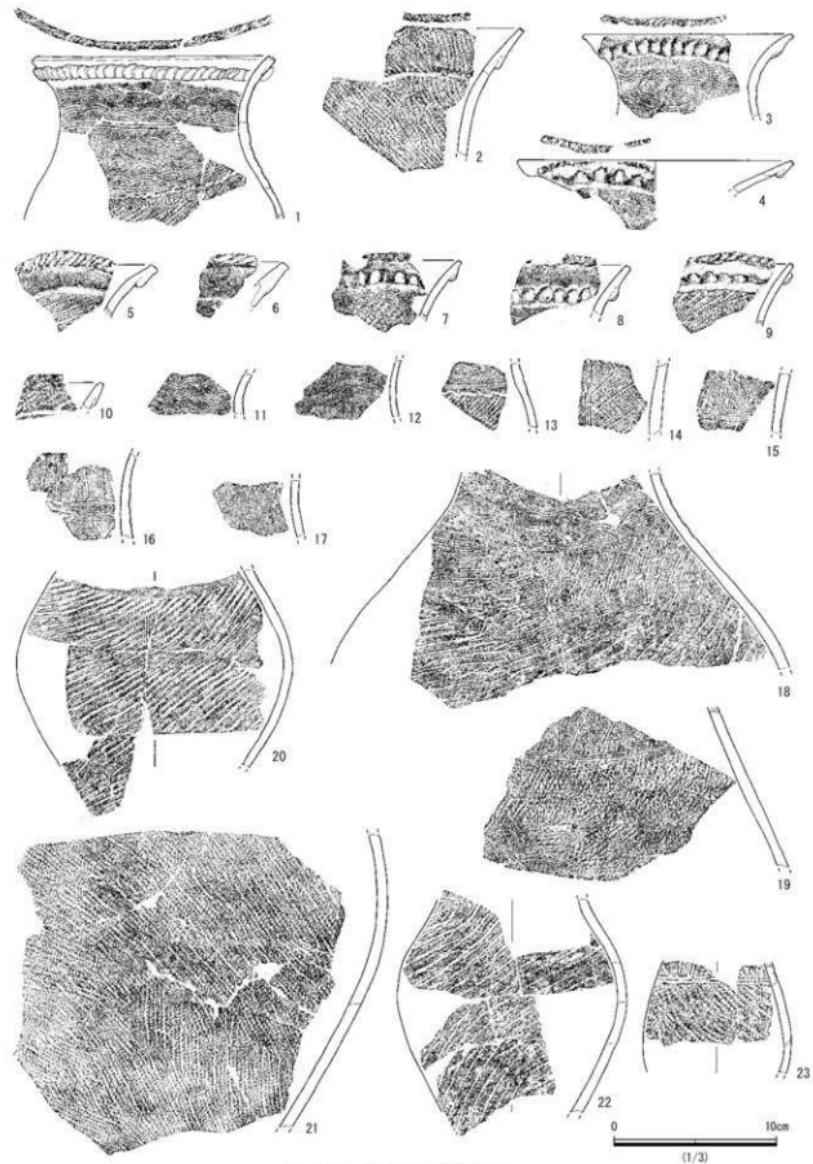
第8図 SI01出土遺物

## S102 (第9~12図, 第8表, 写真図版2・6・7)

検出位置は北区のB3・4, C3グリッドにまたがる。東側が調査区外に延び全容は把握できない。平面形は隅丸長方形とみられ、主軸方向はN-62°-Wを示す。規模は長軸が現存値で4.80m, 短軸が5.48m, 深さは24~30cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面にはぶい黄褐色土とロームブロックの混土で薄い貼り床が施され、炉の南西側で顕著な硬化面が広がる。壁溝は認められなかった。ピットは12基が検出された。P1・2は主柱穴になる。P1が径48×21cm, 深さ37cm, P2が径40×21cm, 深さ37cmとともに楕円形となり、柱が抜き取られた痕跡とみられる。P5~8は径19~30cm, 深さ5~25cmの小規模なピットで、炉の周辺を巡っている。P9~12も径17~21cm, 深さ8~21cmの小ピットであるが、規則性は見出せない。掘り方は認められなかった。炉は住居内のほぼ中央に付設されていると考えられ、長軸98cm, 短軸77cm, 深さ10~12cmで、長さ29cm, 幅11cm, 重さ2,895gの炉石(安山岩)が据えられている。炉の西側は被熱が顕著であった。

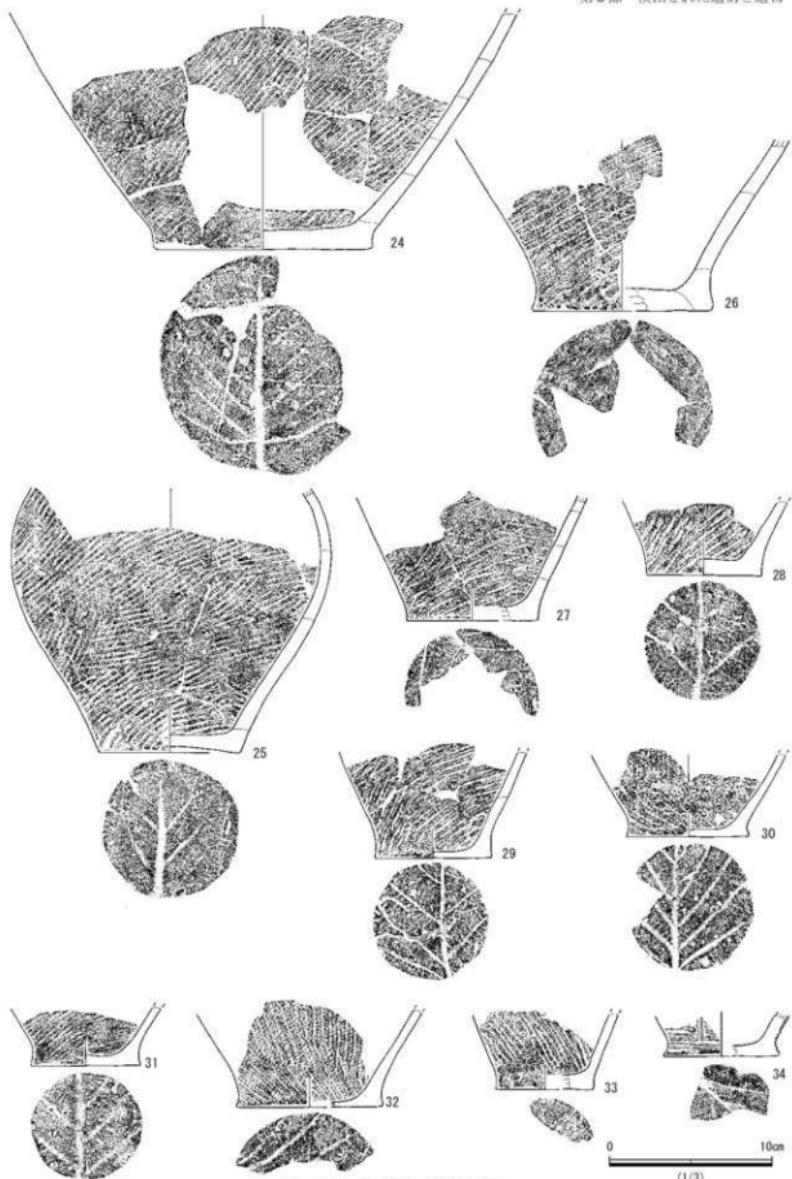
遺物は、弥生土器207点(壺204, 鉢2, 高杯1)が主体となって出土し、他に土師器33点(壺9, 梶1, 風23)須恵器25点(壺9, 高台付杯1, 盆1, 蓋5, 風9)が混入していた。遺物の出土状態は堅穴住居内の西壁寄りに集中する傾向にあり、炉の周辺ではあまり出土が見られない。弥生土器の内容を見ると、口縁部は複合口縁でほぼ占められている。複合部下端に押捺を加えたものが主流であるが、縄文のみ施文する2・5・10や無文の6も認めら、いずれの口縁部にも口唇部に単節又は付加条縄文が施文される。頸部は縄文のみを施す2・5・13があるものの、ほとんどは櫛描文により文様が構成される。櫛描文は3本単位の施文具を用いたものが主体で、3・8・19の波状文、鋸歯状文、12・18の連弧文、14・15・17の格子状文が施される。一方で11・13・16の2本単位による施文具による波状文、鋸歯状文等の破片も出土しているが、本住居跡の時期に伴わない混入遺物の可能性が高い。縄文は付加条第1種縄文を中心である中にあって、単節縄文も比較的目立ち、18のように胴部では双方の原体が施文されているものも認められる。底部底面は木葉痕が圧倒的に多いが、わずかながら26・36に見られるような布目压痕の底部片も出土している。12・34は鉢になる器形とみられ、4は口縁部の開きから高杯であろう。時期は弥生時代後期前半で、出土土器との比較からSI01に後続すると考えられる。



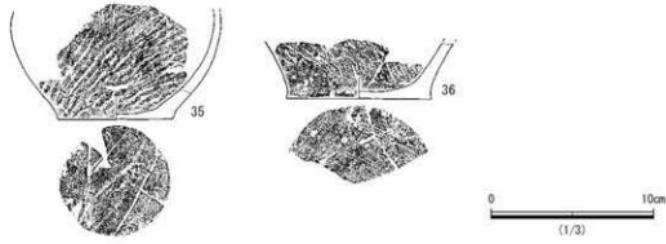


第10図 SI02出土遺物(1)

第2節 検出された遺構と遺物



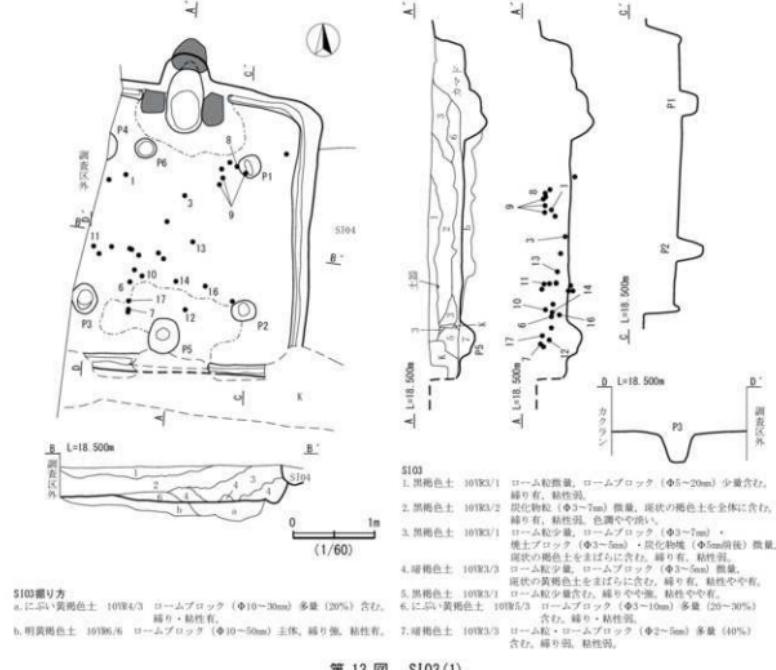
第11図 SI02出土遺物(2)



第12図 SI02出土遺物(3)

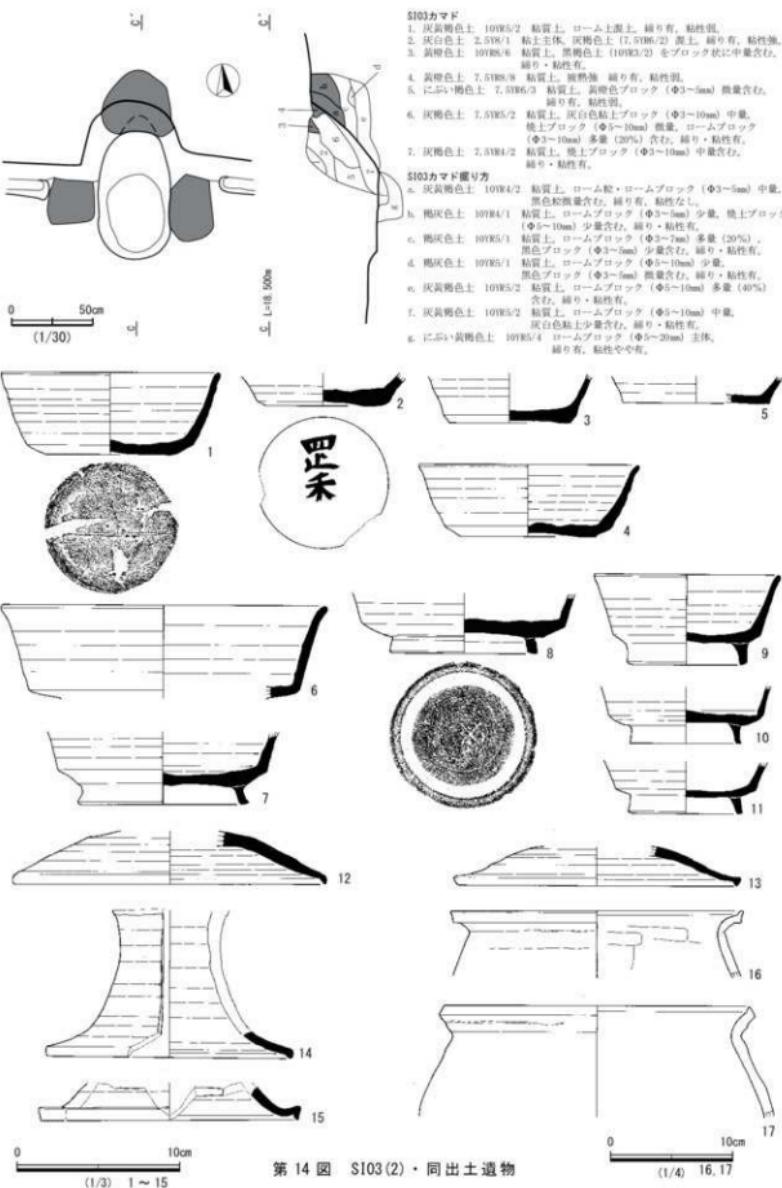
## SI03 (第13・14図、第8表、写真図版2・7)

検出位置は北区のB2・3、C2・3グリッドにまたがる。東側では壁上端部をSI04に切られ、南側は擾乱により消失していた。さらに西側の約3分の1が調査区外になり全容は把握できなかったが、平面形は方形を呈し、主軸方向はN-6°-Eを示す。規模は東西軸が現存値で2.90m、南北軸が3.54m、深さは43cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はほぼ平坦であるものの貼り床は認められなかった。壁溝は幅11~15cm、深さ3~6cmで、全周したと



第13図 SI03(1)

## 第2節 検出された遺構と遺物



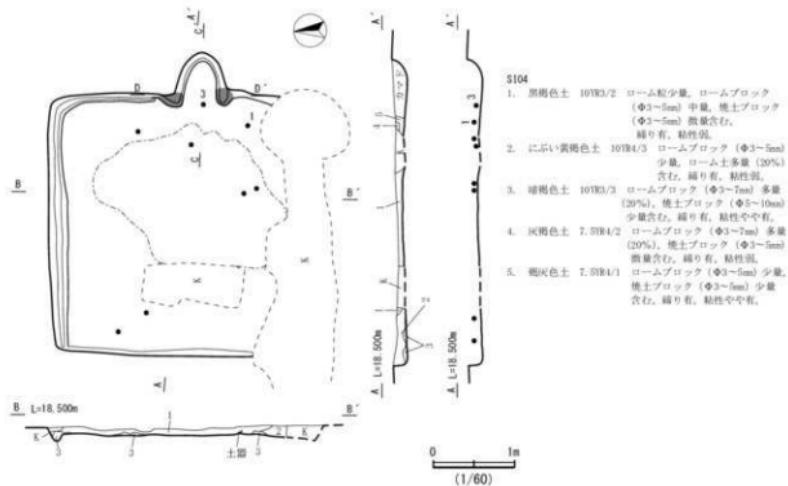
第14図 S103(2)・同出土遺物

思われる。ピットは6基が検出された。P1～4は主柱穴で、P1が径29×27cm、深さ23cm、P2が径30×25cm、深さ33cm、P3が径36×31cm、深さ35cm、P4はほとんどが調査区外である。南壁際のP5は出入り口施設に伴うピットとみられ、径42×38cm、深さ16cmである。P6は径24cm、深さ22cmで補助柱穴であろうか。掘り方は、カマドからP5までの中央部を高く残し、その両側を深めに掘り込む。カマドは北壁中央に付設され、構築材は灰白色粘土を主体としている。燃焼部は明瞭ではなく、赤変硬化した火床部も認められなかった。煙道部は屋外へ60cm掘り込まれ、全長は117cm、燃焼部幅は44cm、袖部はほとんどが消失していたが底辺の痕跡が左袖26cm、右袖38cm程度確認された。

遺物は、土器器40点（碗1、甕39）、須恵器72点（壺37、高台付壺11、蓋11、甕10、壺・瓶類1、高壺2）、手捏土器1点が出土した。他に混入した弥生土器29点（壺・甕類29）が認められる。覆土上層部からの出土が主体である。供膳具はほぼ木葉下窓跡群とみられる胎土の須恵器で占められ、土器器碗、手捏土器は小破片で各1点のみの出土で混入であろう。2の須恵器壺は底部底面に墨書きが施される。時期は8世紀第3四半期から第4四半期と考えられる。

#### S104 (第15・16図、第8表、写真図版2・7)

検出位置は北区のB3、C3グリッドである。西側でS103の壁上端部を切り込み、南側は擾乱により消失する。平面形は方形を呈し、主軸方向はN=94°-Eを示す。規模は東西軸が3.28m、南北軸が現存値で2.94m、深さは13cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロック混土の貼り床が薄く施され、カマド前面から中央部にかけて顕著な硬化が認められた。壁溝は幅10～23cm、深さ7～11cmで、全周したと思われる。ピットは検出されなかった。掘り方は、東側が深めに掘り込まれる。カマドは東壁やや南寄りに付設され、構築材はにぶい黄橙色

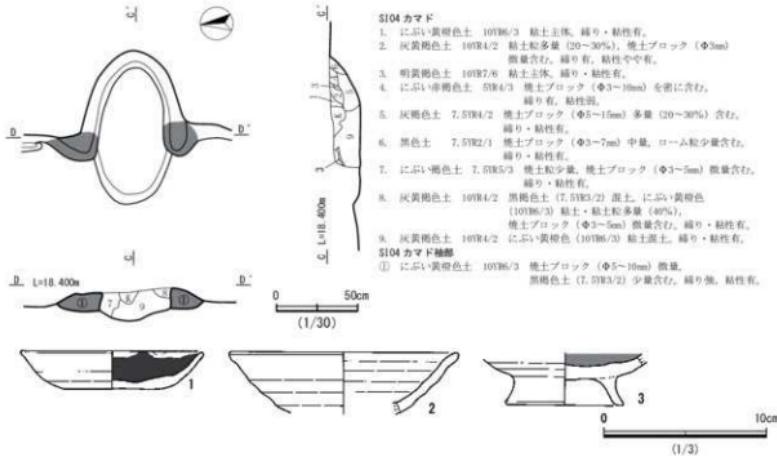


第15図 S104(1)

## 第2節 検出された遺構と遺物

の粘土を主体としている。燃焼部は10 cm前後掘り窪められるが、赤色化は不明瞭である。カマド本体は屋外にあり煙道部にかけて48 cm掘り込まれていた。全長は66 cm、燃焼部幅は40 cm、袖部は左右袖ともに壁に貼り付けられる程度の残存である。

遺物は、土師器38点（壺12、椀2、甕24）、須恵器7点（壺5、蓋1、甕1）が出土した。他に混入した弥生土器1点（甕・甕類1）が認められる。出土量はさほど多くはなく、散在的な出土状態である。土師器の供膳具は、内面が黒色処理されない坏が主体である。1の土師器坏は、内面に漆状の付着物が全体に残存している。2・3はカマド内から出土している。須恵器は小破片ばかりで、混入の可能性が高い。時期は10世紀第2四半期～第3四半期と考えられる。

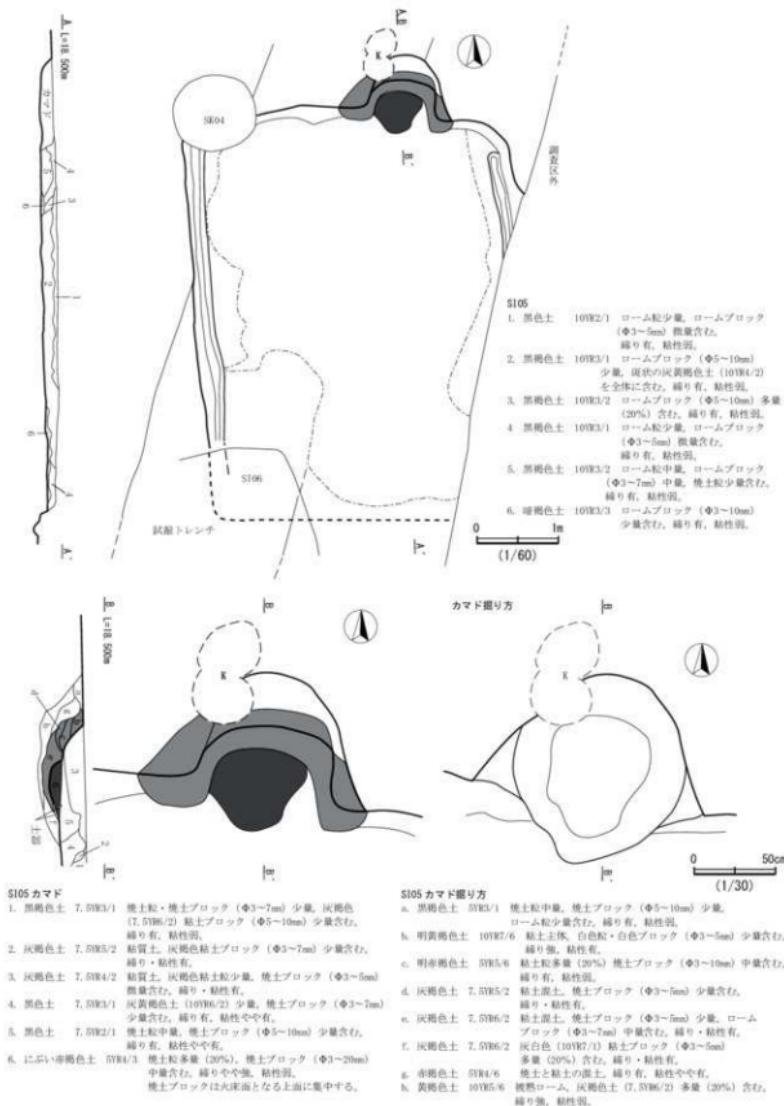


第16図 SI04(2)・同出土遺物

### S I 0 5 (第17・18図、第8表、写真図版2・7)

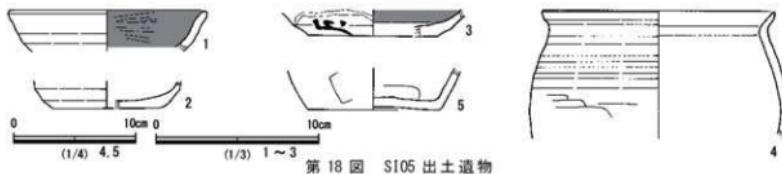
検出位置は北区のD3、E3グリッドである。南西隅でSI06の壁上端部を切り込み、北西隅ではSK04、南側はSD01に切られる。さらに南東隅は調査区外に延びている。平面形は方形を呈し、主軸方向はN-1°-Wを示す。規模は東西軸が4.14 m、南北軸が現存値で4.78 m、深さは10~16 cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面はロームブロック混土の貼り床が施され、ほぼ全面が顕著に硬化する。壁溝は幅15~28 cm、深さ8 cm前後で、北壁を除き確認されている。ビットは検出されなかった。掘り方もなく、直床である。カマドは北壁の東寄りに付設され、構築材は灰褐色粘土を主体とし、火床下まで認められる。燃焼部は12 cm掘り窪められ焼土ブロックが堆積する。煙道部は屋外へ50 cm以上掘り込まれているものの、一部擾乱を受けている。全長は100 cm以上あり、燃焼部幅は60 cmである。袖部は左右袖とともに壁に貼り付けられる程度であった。

遺物は、土師器36点（壺10、椀2、甕24）、須恵器13点（壺4、高台付壺2、蓋3、甕4）が出土した。出土量はさほど多くはなく、覆土中より出土している。供膳具は土師器が主体で内面が黒色処理と非黒色処理の壺、椀類はほぼ同量程度見られる。須恵器は小破片ばかりで混入の可能性がある。時期は10世紀第1四半期～第2四半期と考えられる。



第17図 S105

## 第2節 検出された遺構と遺物

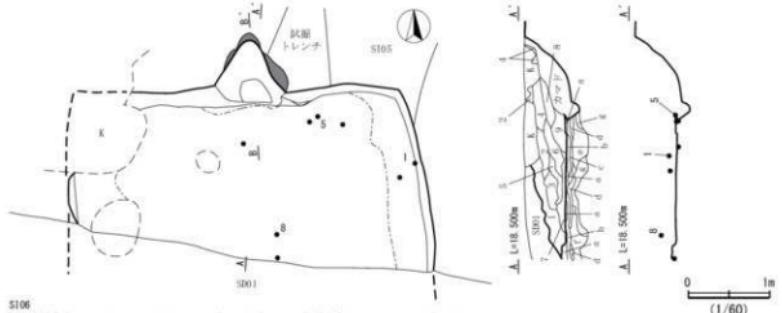


第18図 SI05出土遺物

### S I 0 6 (第19・20図、第8表、写真図版2・7)

検出位置は北区のE 2・3グリッドである。北東隅の壁上端がSI05に削平され、南側の約半分もSD01に切られている。さらに北西隅は搅乱を受け、全容は把握できない。平面形は方形を呈したとみられ、主軸方向はN-9°-Wを示す。規模は東西軸が4.36m、南北軸が現存値で2.24m、深さ50cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面はロームブロック混土の貼り床が施され、ほぼ全面が顕著に硬化する。壁溝及びピットは検出されなかった。掘り方は、壁際を残し、中央部が方形形状に掘り込まれる。カマドは北壁の中央に付設され、構築材はほとんど残存していなかつたが、燃焼部内に灰黄褐色粘土と灰白色粘土ブロックが多量に崩落していたことから、これらが構築材として用いられたと思われる。燃焼部では7cm程掘り廻められるが、火床部での赤変硬化工認められない。煙道部は屋外へ70cm掘り込まれ、全長は93cm、燃焼部幅は46cm、袖部は右袖が壁に貼り付けられる程度の残存である。

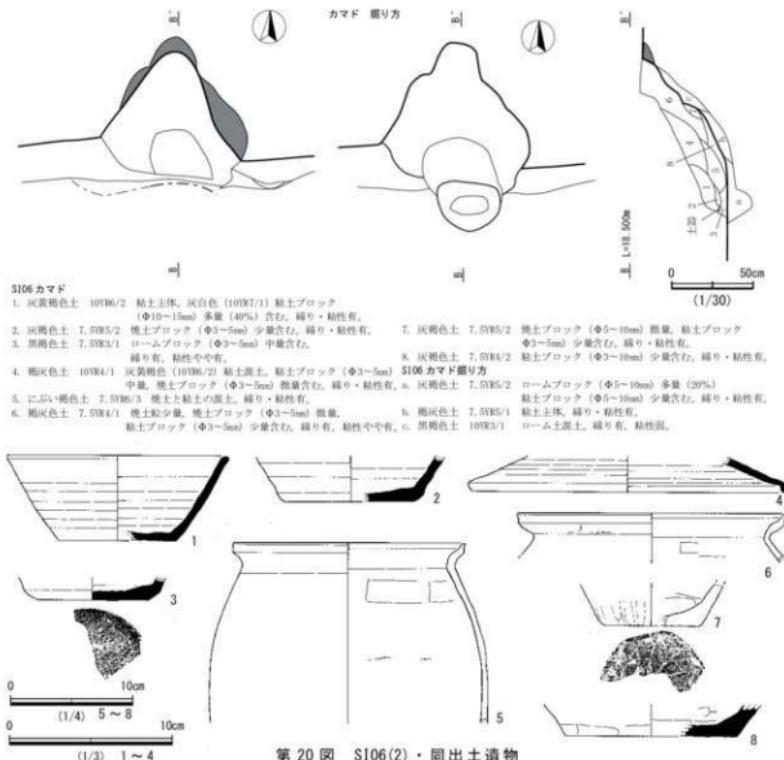
遺物は、土師器29点（壺2、甕27）、須恵器27点（壺12、高台付壺2、盤1、蓋6、甕5、壺・瓶類1）が出土した。出土量はさほど多くではなく、主に覆土中から出土している。供膳具はほぼ木葉下窓産とみられる胎土の須恵器で占められる。時期は9世紀第1四半期～第2四半期と考えられる。



SI06

- 1. 灰褐色土 10YR3/3 ローム粘・ロームブロック（Φ3~7mm）微量含む。  
縫り有、粘性弱。
- 2. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粘・灰白色（10YR7/2）粘土ブロック（Φ3~5mm）  
微量、斑状の灰褐色土（7.5W4/2）まばらに含む。縫り有、粘性弱。
- 3. 黑褐色土 10YR4/1 灰白色土（10YR7/1）粘土ブロック（Φ3~10mm）  
地土少含む。縫り有、粘性やや弱。
- 4. 灰褐色土 7.5W4/2 灰白色（10YR7/1）、粘土ブロック（Φ3~5mm）微量、  
地土少含む。縫り有、粘性やや弱。
- 5. にぶい黄褐色土 10YR5/3 灰白色（10YR7/1）粘土混土。縫り有、粘性有。
- 6. 灰褐色土 10YR5/4 灰白色（10YR7/1）粘土ブロック（Φ3~5mm）  
粘土ブロック（Φ3~5mm）少量含む。縫り有、粘性弱。
- 7. 灰白色土 10YR7/1 粘土主体。縫り有、粘性強。
- 8. 灰褐色土 7.5W6/2 粘土質。地土ブロック（Φ3~10mm）微量含む。  
縫り、粘性有。
- 9. 灰褐色土 7.5W5/2 粘土質。灰白色（10YR7/1）粘土ブロック（Φ3~15mm）  
中量含む。縫り、粘性有。

第19図 SI06(1)



S108 (第21図、第8表、写真図版3・8)

検出位置は南区のF1・2グリッドである。カマドから南東隅にかけてSD02に切り込まれ、さらに西側の約半分は調査区外に延びるため全容は把握できない。平面形は方形を呈したとみられ、主軸方向はN-10°-Eを示す。規模は東西軸が現存値で2.10m、南北軸が3.46m、深さ30cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積で、南壁際に灰白色粘土が堆積していた。床面はほぼ全面が頗著に硬化した直床である。ピットは南壁際にP1が検出され、出入り口施設に伴うと考えられる。規模は径27cm、深さ5cmである。掘り方は、P1周辺が円形状に掘り込まれている。カマドは北壁の中央に付設されているとみられ、SD02構築時に大部分が消失している。火床部は径26cmの範囲で、被熱ロームが残存しており、火床部の位置からカマド本体は屋外に設けられた可能性が高い。

遺物は、土師器29点(壺3、甕26)、須恵器14点(壺5、高台付壺3、皿1、蓋1、瓶1、鉢2、壺・瓶類1)が出土した。出土状態はカマド前面から北壁側に集中している。供膳具は土師器、須恵器とともに認められ、土師器壺は内面黒色処理され、須恵器は木葉下窓跡群とみられる胎土の製品が占める。時期は9世紀第2四半期と考えられる。

## 第2節 検出された遺構と遺物



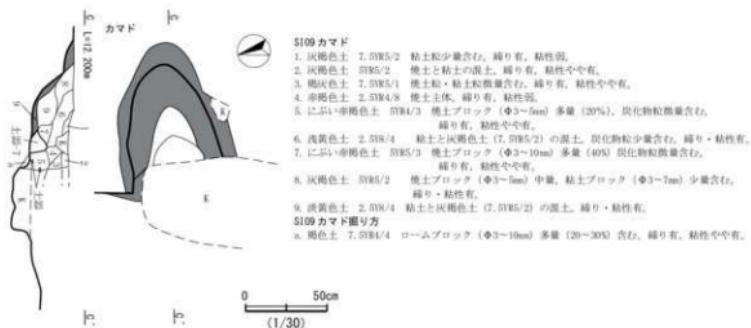
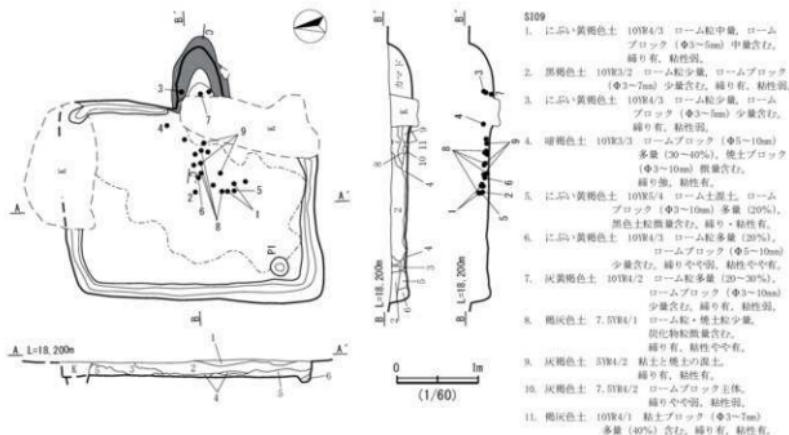
第21図 SI08・同出土遺物

### S I 0 9 (第22・23図、第8表、写真図版3・8)

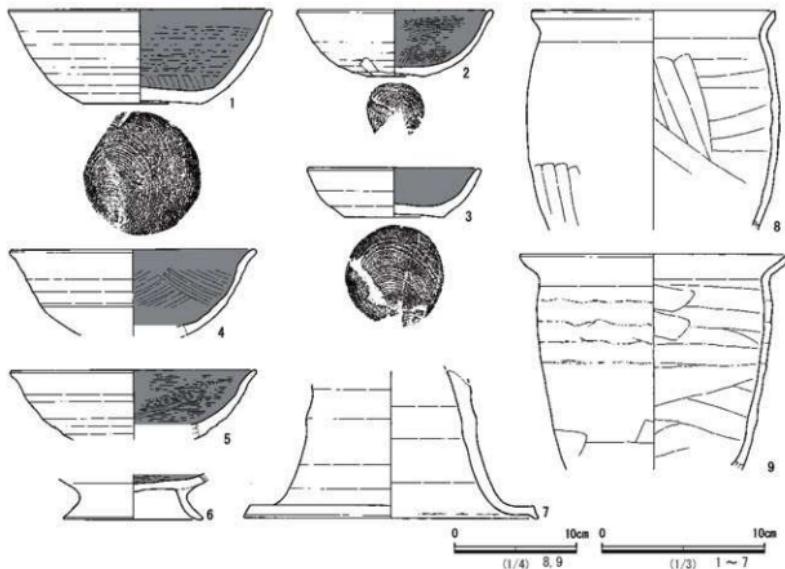
検出位置は南区のF 2 グリッドである。カマド煙道部がSI10を切って構築されている。北壁及びカマド前面では擾乱を受けていた。平面形は南北に長い長方形を呈し、主軸方向はN-96°-Eを示す。規模は東西軸が2.40 m、南北軸が3.10 m、深さ16~20 cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面は北東隅からP 1周辺の南西隅にかけて顕著に硬化し、壁溝は幅8~17 cm、深さ7~14 cmで全周したとみられる。ピットは南西隅でP 1が検出され、床面の硬化範囲がこのピット周辺からカマド側へ向かっていることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。掘

り方はなく直床である。カマドは東壁の中央に付設されている。構築材は砂質土と粘土の混土が用いられ、火床部から煙道部にかけて覆われていた。火床部は5 cm程掘り窪められ被熱するが、赤色化はしていない。煙道部から煙道部にかけては東壁を95 cm掘り込み、カマド本体は屋外となる。煙道部幅は52 cm、袖部は左袖が壁に貼り付けられる程度の残存である。

遺物は、土師器35点（壺10、瓶1、甕22、瓶1、高壺1）、須恵器4点（壺2、高台付壺1、甕1）が出土した。出土状態はカマド煙道部内からカマド前面に集中している。供膳具はほぼ土師器で占められ、須恵器は小破片で混入の可能性がある。土師器壺は底部底面が回転糸切り未調整のものが主体である。壺とした底部を欠失する4・5は高台の付いた瓶になるかもしれない。7は高台状土器の脚部片で、カマド内で出土したことから支脚の代用とされたものであろう。時期は10世紀後半～第3四半期と考えられる。



第22図 S109

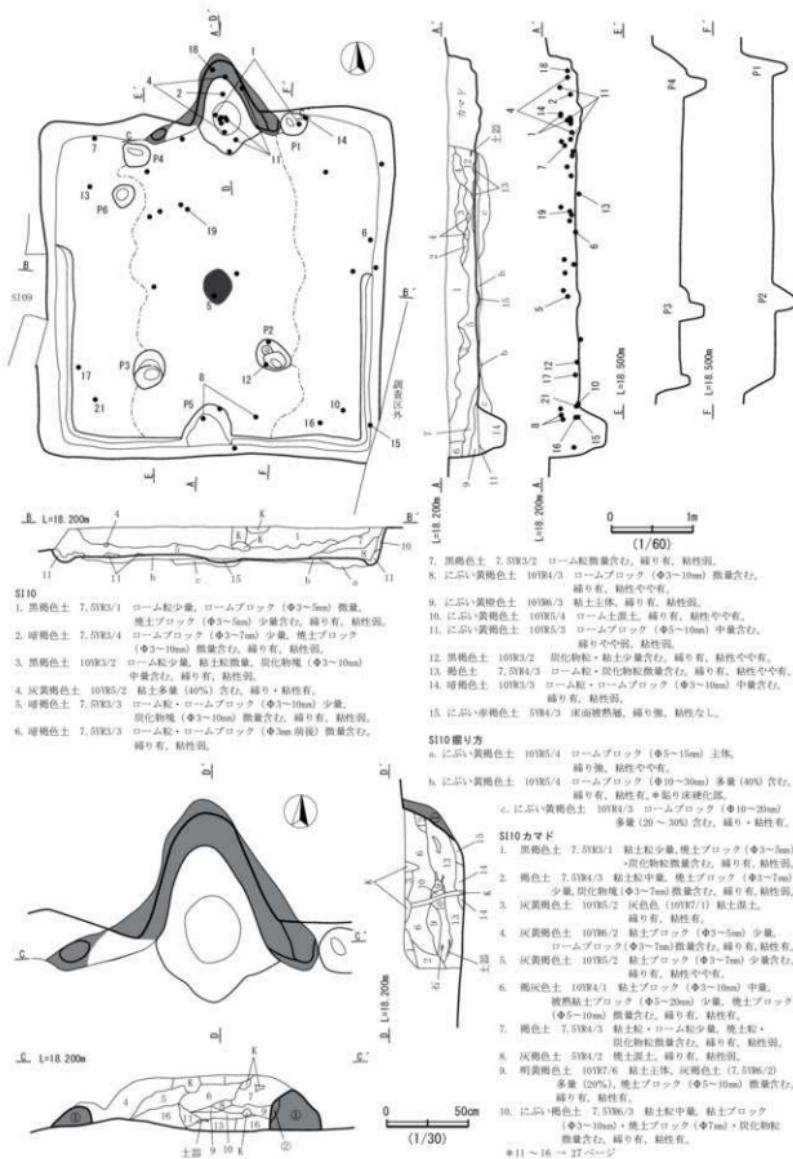


第23図 SI09出土遺物

## S I I 0 (第24・25図、第8・11・12表、写真図版3・8・9)

検出位置は南区のF2グリッドである。西側ではSI09のカマド煙道部よって切られている。一方、南側ではSI11の北壁を切り込んで構築されている。平面形は正方形を呈し、主軸方向はN-3°-Eを示す。規模は東西軸、南北軸ともに4.36m、深さは34~39cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はにぶい黄橙色土とロームブロック混土の貼り床が施され、カマドからP5にかけての中央部で顕著に硬化する。中央部に45×35cmの範囲で被熱面が認められた。壁溝は幅11~21cm、深さ3~6cmで建物内の南半分でのみ遺存する。ピットは6基が検出された。P1~4は主柱穴で、P1~4は北壁に接する。P1が径33×27cm、深さ20cm、P2が径45×34cm、深さ40cm、P3が径48×37cm、深さ38cm、P4が径37×27cm、深さ35cmである。南壁際のP5は出入り口施設に伴うピットとみられ、径58×50cm、深さ18cmで南壁に接する。P6は径29×26cm、深さ16cmで主柱穴に比べ小規模である。掘り方は、四隅とカマド前面を深めに掘り込んでいる。P2・3では据え替え前の柱穴が検出された。カマドは北壁中央に付設され、構築材はにぶい黄橙色粘土を主体としている。火床部は被熱が認められるものの、ほぼ平坦で赤色化していない。煙道部は屋外へ78cm掘り込まれ、全長は125cm、燃焼部幅は56cm、袖残存長は左袖18cm、右袖27cmである。

遺物は、土師器193点(壺12、椀2、皿1、甕176、瓶1、鉢1)、須恵器112点(壺78、高台付壺7、皿3、盤4、蓋4、甕15、壺・瓶類1)、石製品1点(砥石1)、鐵製品1点(刀子1)が主に覆土中から散在して出土している。土師器壺は内面黒色処理が主体であり、須恵器壺は体部下端を手持ちヘラケズリ調整しているものが目立つ。時期は9世紀第2四半期と考えられる。



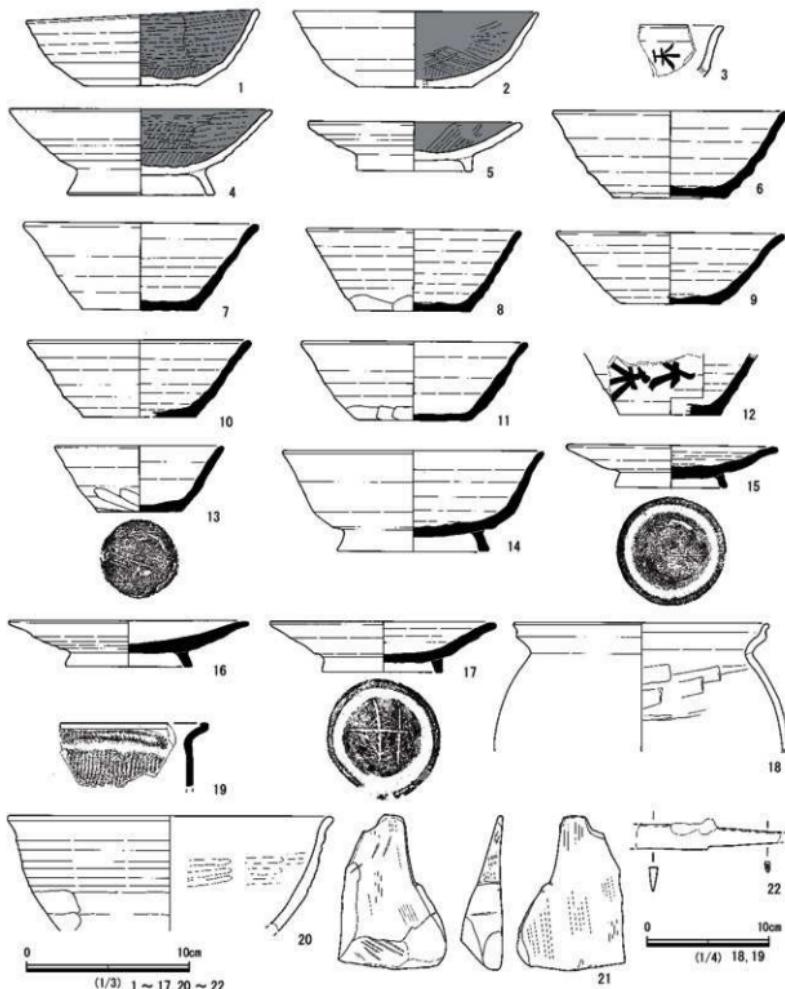
第24図 S110

## 第2節 検出された遺構と遺物

### SI10カマド (\*26ページの続き)

11. にぶい黄褐色土 10W5/3 粘土粒・粘土ブロック ( $\phi 3\sim 5mm$ ) 少量含む。繊り有。粘性や少有。
12. 黄褐色土 7. 0W5/2 粘土ブロック ( $\phi 3\sim 5mm$ ) 中量。粘土ブロック ( $\phi 3\sim 5mm$ ) 少量含む。繊り・粘性有。
13. 黄褐色土 5W6/1 粘土ブロック ( $\phi 3\sim 5mm$ ) 粘土粒少量含む。繊り・粘性有。
14. にぶい赤褐色土 2. SW4/4 粘土と褐灰色土 (SW4/1) の混土。粘土粒少量含む。繊り・粘性弱。
15. 褐灰色土 5W6/1 粘土ブロック ( $\phi 3\sim 5mm$ ) 粘土粒少量含む。繊りや少強。粘性弱。
16. にぶい黄褐色土 10W6/3 粘土主体。白色粒少量。白色ブロック ( $\phi 3\sim 7mm$ )・維土粒微量含む。繊りや少強。粘性有。
- SI10カマド鉢群

- ① にぶい黄褐色土 10W7/2 粘土主体。白色粒少量。白色ブロック ( $\phi 3\sim 7mm$ )・維土粒微量含む。繊りや少強。粘性有。
- ② 黄褐色土 7. 0W6/2 粘土粒少量含む。繊り有。粘性弱。

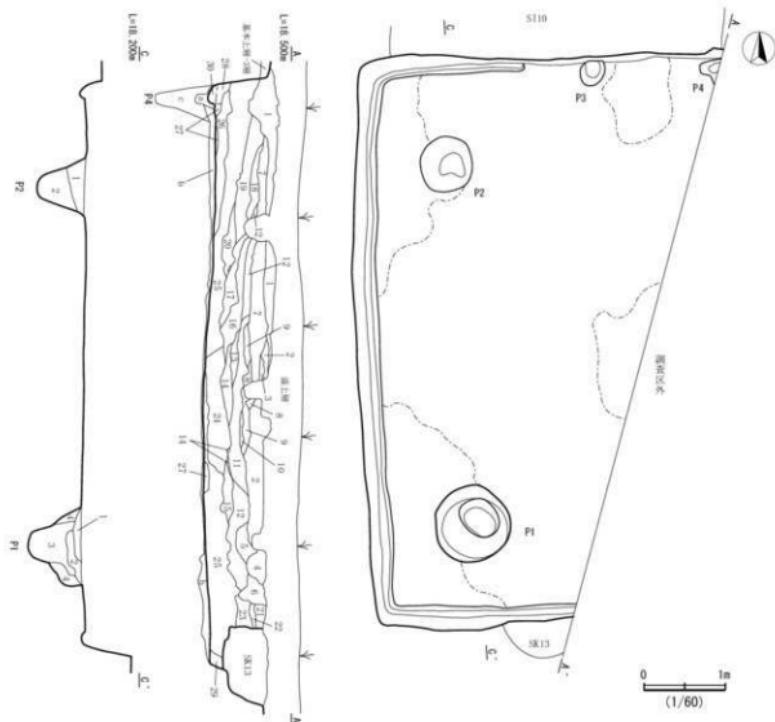


第25図 SI10出土遺物

## S111 (第26~28図, 第8・12表, 写真図版3・9・10)

検出位置は南区のF2, G2グリッドである。北壁がSI10に切られ、東側は調査区外に延びるため全容は不明である。平面形は正方形を呈しているとみられ、主軸方向はN-3°-Wを示す。規模は東西軸が現存値で4.46m, 南北軸が7.00m, 深さは56~62cmを割り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積であるが、中間層域で焼土、焼土粒の含有が目立つ。床面はロームブロック混土の貼り床が施され、隅部分を除き顯著に硬化する。壁溝は幅10~15cm, 深さ3~7cmで全周するが、北半分では確認できなかった。ピットは4基が検出された。P1・2は主柱穴で、P1が径95×89cm, 深さ72cm, P2が径70cm, 深さ61cmである。P3・4は北壁に接しており、P3が径30cm, 深さ64cm, P4が径30×20cm, 深さ69cmで、平面規模は小規模ながら、かなりの深さを持つ。掘り方は、中央を高く残し壁際を環状に掘り込む。カマドは検出されなかったが、P3・4間の硬化面が抜けた部分に粘土と焼土の混土層が堆積しており、カマド燃焼部の痕跡とみられる。

遺物は、土師器202点(壺8, 壺194), 須恵器329点(壺151, 高台付窯37, 盆17, 盖75, 壺24, 鉢4, 壺・瓶類8, 高壺11, コップ型2), 瓦1点(丸瓦1), 鉄製品1点(刀子1)が、主に覆土上層から下層にかけて出土した。土師器は煮沸具が主体で、土師器壺は小破片のみである。須恵器は木葉下窓跡



第26図 S111

## 第2節 検出された遺構と遺物

### SI11

1. 灰黃褐色土 7.5H4/2 ローム少量。ロームブロック（Φ 3～5mm）微量含む。縦り有、粘性弱。
2. 褐色土 7.5H4/3 ローム少量。ロームブロック（Φ 3～15mm）中量。縦り有、粘性弱。
3. 黄白色土 7.5H7/1 粘土主体。縦りや少量。粘性弱。
4. 褐色土 7.5H4/4 ローム少量。ロームブロック（Φ 3～15mm）少量。地土中量。地土ブロック（Φ 3～7mm）少量含む。縦り有、粘性弱。
5. 褐色土 7.5H4/4 ロームブロック（Φ 3～10mm）少量。地土ブロック（Φ 3～5mm）微量含む。縦り有、粘性弱。
6. 褐色土 7.5H4/4 ロームブロック（Φ 3～15mm）少量。地土ブロック（Φ 3～10mm）少量含む。縦り有、粘性弱。
7. 紫褐色土 7.5YR3/3 ローム粒多量（10%）。ロームブロック（Φ 3～10mm）中量。地土粒中量。地土ブロック（Φ 3～7mm）少量含む。縦り有、粘性弱。
8. にじい赤褐色土 7.5H4/1 ロームブロック（Φ 3～10mm）多量（20%）。地土粒中量。地土ブロック（Φ 3～15mm）多量（10%）含む。縦り有、粘性弱。
9. 紫褐色土 7.5YR3/3 ローム粒多量（10%）。ロームブロック（Φ 3～7mm）中量。地土粒中量。地土ブロック（Φ 3～15mm）多量（20%）含む。縦り有、粘性弱。
10. 紫褐色土 7.5YR2/2 ロームブロック（Φ 3～10mm）少量。地土粒少量含む。縦り有、粘性弱。
11. 黑褐色土 7.5YR2/2 ロームブロック（Φ 3～15mm）少量。地土粒少量含む。縦り有、粘性弱。
12. 紫褐色土 7.5YR3/3 ローム粒中量。ロームブロック（Φ 3～10mm）中量。地土ブロック（Φ 3～15mm）微量含む。縦り有、粘性弱。
13. 黑褐色土 7.5YR3/2 ロームブロック（Φ 3～20mm）微量含む。縦り有、粘性弱。
14. 紫褐色土 7.5YR3/4 ロームブロック（Φ 3～15mm）多量（10～20%）。地土ブロック（Φ 3～15mm）微量含む。縦り有、粘性弱。
15. 紫褐色土 7.5YR3/4 ローム粒中量。ロームブロック（Φ 3～10mm）少量含む。縦り有、粘性弱。
16. 紫褐色土 7.5YR3/3 ロームブロック（Φ 3～15mm）多量（20%）含む。縦り有、粘性弱。
17. 黑褐色土 7.5YR3/2 ロームブロック（Φ 3～7mm）少量含む。縦り有、粘性弱。
18. 紫褐色土 7.5YR4/3 ローム粒上部。縦り有、粘性弱。
19. 紫褐色土 7.5YR3/3 ロームブロック（Φ 3～10mm）多量（20%）含む。縦り有、粘性弱。
20. 黑褐色土 7.5H3/2 ロームブロック（Φ 3～10mm）中量含む。縦り有、粘性弱。
21. 黑褐色土 7.5H4/3 ローム粒少量。ロームブロック（Φ 3～5mm）微量含む。縦り有、粘性弱。
22. 灰褐色土 7.5H8/2 粘土主体。縦り有、粘性弱。
23. 灰褐色土 7.5H3/3 ローム粒少量含む。縦り有、粘性弱。
24. 灰褐色土 7.5H3/4 ロームブロック（Φ 3～7mm）中量含む。縦り有、粘性やや弱。
25. 黑褐色土 7.5H4/4 ロームブロック（Φ 3～15mm）中量含む。縦り有、粘性やや弱。
26. にじい黄褐色土 10H7/2 粘土主体。黒色ブロック（Φ 3～7mm）微量含む。縦り有、粘性弱。
27. 黑褐色土 7.5H3/2 ローム粒少量含む。縦り有、粘性やや弱。
28. 黑褐色土 10H3/2 黑土粒多量（10%）。地土ブロック（Φ 3～7mm）少量。黒色ブロック（Φ 3～7mm）微量含む。縦り有、粘性やや弱。
29. 黑褐色土 7.5H4/3 ロームブロック（Φ 3～7mm）微量含む。縦り有、粘性やや弱。
30. 灰褐色土 10H3/2 黑土粒多量（20～30%）。地土ブロック（Φ 3～5mm）少量。ロームブロック（Φ 3～15mm）中量含む。縦り有、粘性弱。
31. 黑褐色土 10H3/3 黑土粒多量（30～40%）含む。ロームブロック（Φ 3～5mm）少量。黑色ブロック（Φ 3～5mm）微量含む。縦り有、粘性弱。

### SI11 圖り方

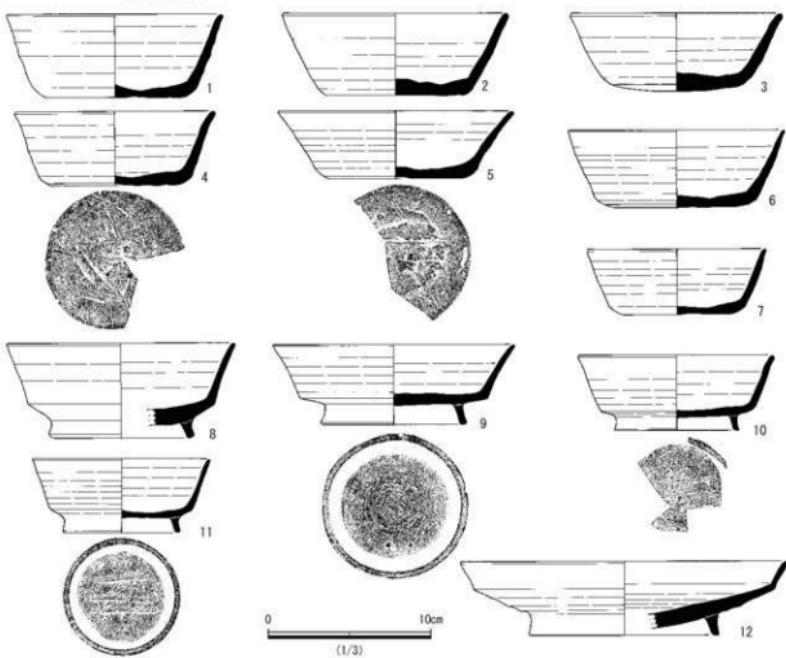
- a. にじい黄褐色土 10H8/4 ロームブロック主体。縦り有、粘性弱。
- b. にじい黄褐色土 10H8/5/2 ロームブロックを添て置く。縦り有、粘性弱。
- c. にじい黄褐色土 10H8/5/3 ロームブロック（Φ 3～15mm）多量（30～40%）含む。縦り有、粘性弱。

### SI11 P1

1. 紫褐色土 7.5H4/3 ローム粒少量。ロームブロック（Φ 3～7mm）微量。炭化物粒少量含む。縦り有、粘性やや弱。
2. 黑色土 7.5H2/1 ローム粒微量。地土ブロック（Φ 3～5mm）微量。炭化物粒微量含む。縦り有、粘性弱。
3. 灰褐色土 10H4/2 ロームブロック（Φ 3～7mm）微量（20～30%）含む。縦りやや弱。粘性弱。
4. にじい黄褐色土 10H5/3 ロームブロック（Φ 3～10mm）多量（40%）含む。縦り有、粘性やや弱。

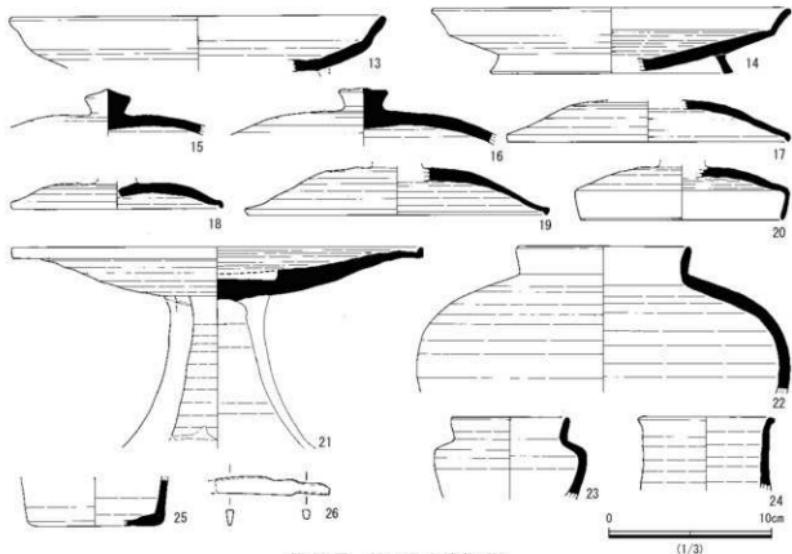
### SI11 P2

1. 紫褐色土 7.5H3/1 ローム粒中量。ロームブロック（Φ 3～7mm）微量。炭化物塊（Φ 3～10mm）中量含む。縦り有、粘性やや弱。
2. にじい黄褐色土 10H5/4 ロームブロック（Φ 3～10mm）多量（20%）含む。縦り弱。粘性有。



第27図 SI11出土遺物(1)

群衆とみられる胎土の須恵器壺を中心に器種が豊富で、供膳具は一定量認められる。須恵器の中でも20の蓋と22の短頸壺は組み合わさり、24・25はコップ型の同一個体である。時期は、8世紀第3四半期～第4四半期と考えられる。



第28図 SII出土遺物(2)

## S I I 2 (第29図、第8表、写真図版3・10)

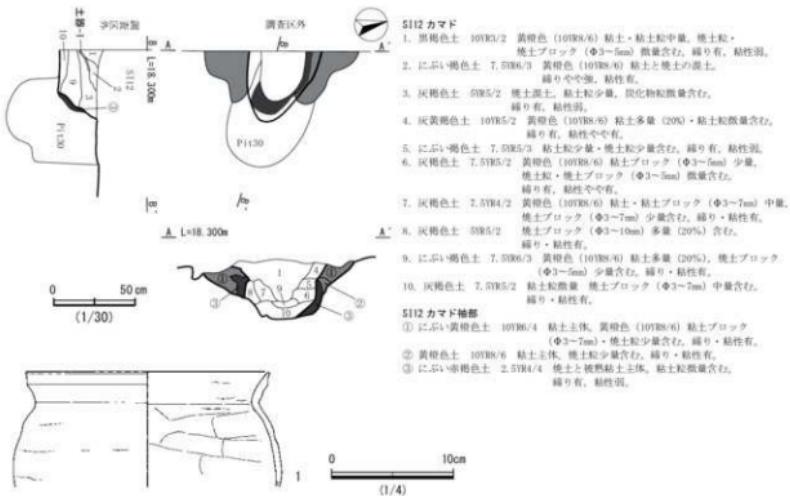
検出位置は南区のH1グリッドである。建物跡の大部分が西側の調査区外にあり、カマド燃焼部から煙道部のみが検出された。Pit30を切り込んで構築されている。煙道部は東側を向いており、主軸方向はN-124°-Eを示す。規模は、屋外への掘り込みが現存値で0.85m、確認できる燃焼部の最大幅は0.43m、深さは24cmを測る。構築材は黄橙色・にぶい黄橙色の粘土を主体としている。煙道部の立ち上がり部分では赤変硬化が認められた。

遺物は、土師器11点(甕11)が出土した。1の土師器甕は小型である。時期は、出土遺物と遺構の形態を考慮すれば10世紀代と考えられる。

## S I I 3 (第30～33図、第8～10・12表、写真図版4・10・11)

検出位置は南区のG1・2、H1・2グリッドにまたがる。南西隅でSK03に、南壁沿いをPit10～14に、北壁際はSB03を構成するPit56・92・93によってそれぞれ切られている。平面形は方形を呈し、主軸方向はN-8°-Wを示す。規模は東西軸6.38m、南北軸6.07m、深さは56～62cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面はロームブロック混土の貼り床が施され、

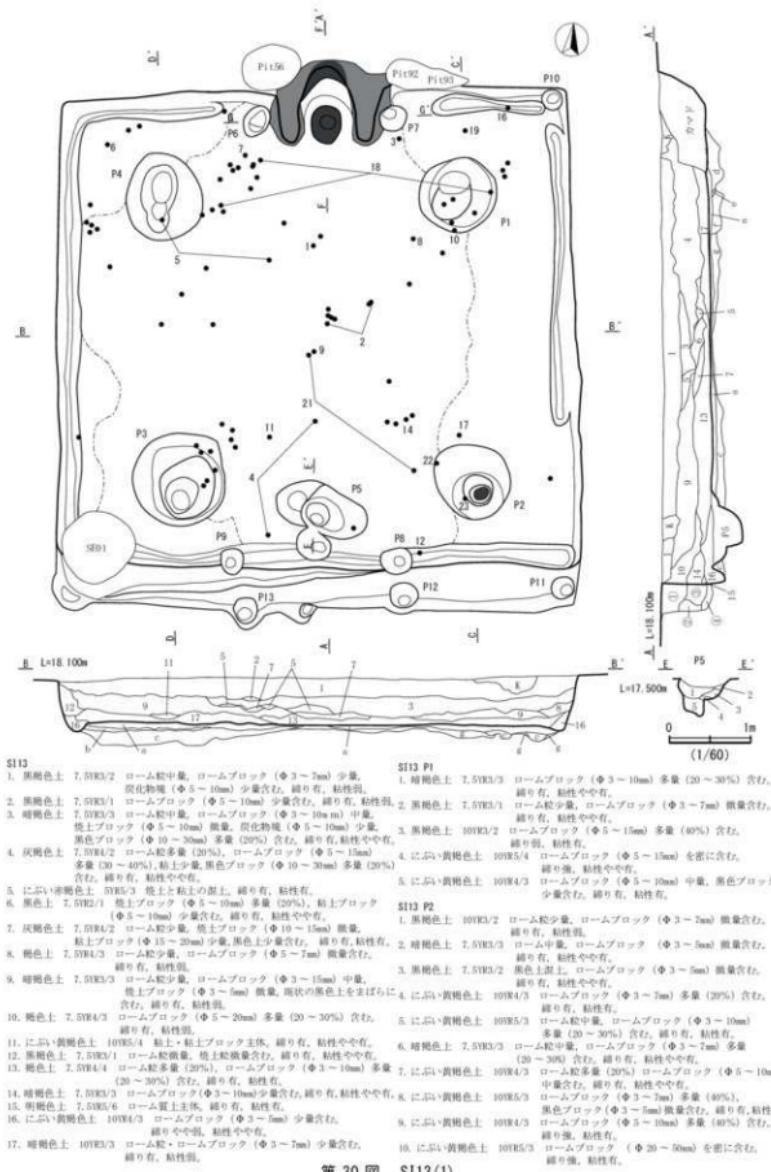
## 第2節 検出された遺構と遺物



第29図 SI12・同出土遺物

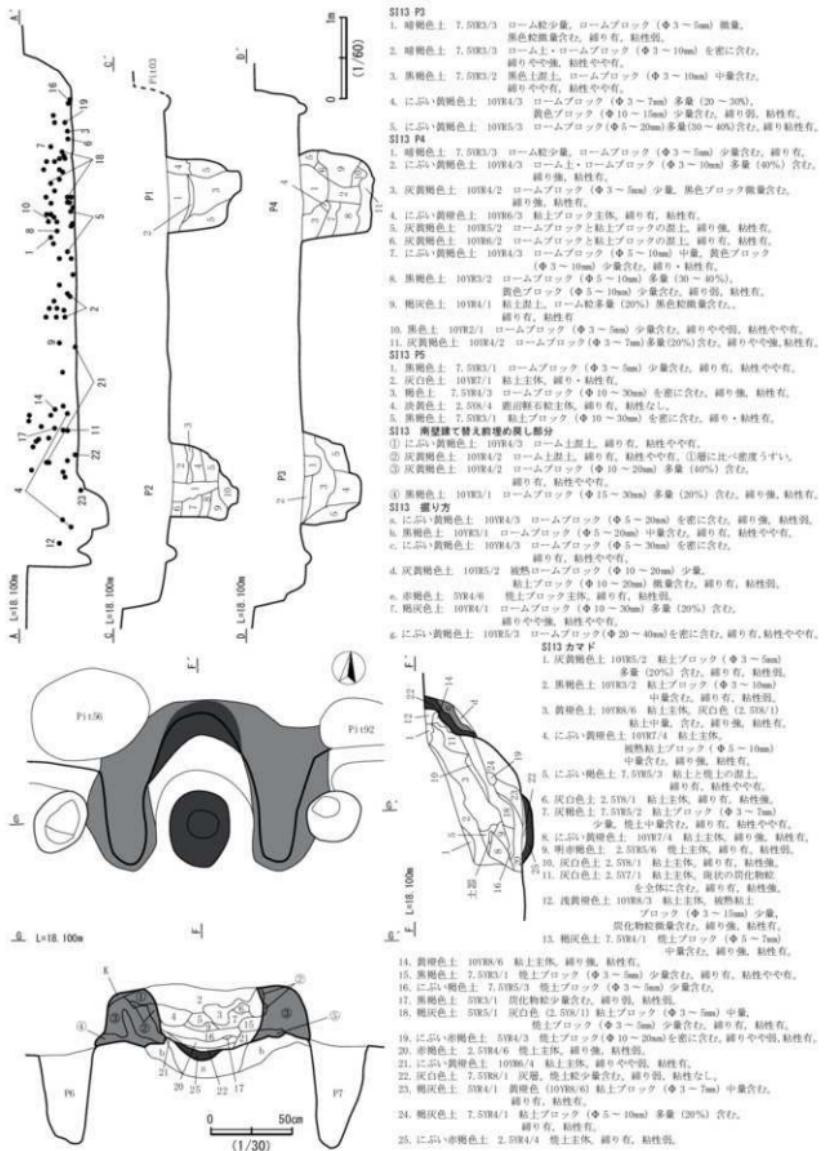
P 1・2間から西側のはば全域で顕著に硬化する。壁構は幅 10 ~ 30 cm, 深さ 4 ~ 12 cm でほぼ全周する。ピットは13基が検出された。P 1~4は主柱穴で, P 1が径 95 × 92 cm, 深さ 102 cm, P 2が径 100 × 97 cm, 深さ 84 cm, P 3が径 111 × 113 cm, 深さ 94 cm, P 4が径 109 × 92 cm, 深さ 92 cm である。南壁際のP 5は出入り口施設に伴うピットとみられ, 径 50 cm, 深さ 13 ~ 21 cm で複数の掘り込みが認められる。P 6~13は径 25 ~ 40 cm, 深さ 27 ~ 64 cm でそれぞれが壁際に接している。P 5・6はカマドを挟む形での配置で, 深さも 60 cm 以上と他より深い。P 8・9は壁構を切り込んでいる。西壁側では同様のピットは検出されていない。掘り方は建物南側を中心に深く掘り込まれていた。カマドは北壁中央に付設され, 構築材は灰白色・黄褐色粘土を主体としている。火床部は7 cm程掘り窪められ, 焼土が堆積するとともに底面は赤変硬化工していた。直上では灰層(カマド 22 層)が検出されている。煙道部は屋外へ 53 cm 堀り込まれ, 全長は 120 cm, 燃焼部幅は 71 cm, 袖残存長は左袖 63 cm, 右袖 70 cm である。本建物跡では建て替えの痕跡が確認されている。建て替えは北側へずらして構築したようで, 南側では旧建物跡の掘り方が残り, 人為的に埋め戻していた。主柱穴やカマド脇のピットでも古い柱穴を埋め戻して新しい柱穴を掘り直している。P 8・9と並行して古い壁際にも同様のピットが認められることから, 新旧ともに同様の構造で建て替えられていたようである。

遺物は, 土師器 515 点(坏 8, 麽 507), 須恵器 269 点(坏 127, 高台付坏 24, 盆 29, 盖 45, 麽 25, 盆 4, 鉢 3, 高坏 11, 円面硯 1), 瓦 4 点(丸瓦 2, 平瓦 2), 土製品 2 点(土玉 1, 支脚 1), 鉄製品 1 点(刀子 1)が主に覆土上層から下層にかけて出土した。土師器は煮沸具が主体で, 土師器坏は非クロコ系の小破片がわざかに認められ, 混入したものであろう。須恵器は木葉下窓跡群とみられる胎土の須恵器坏を中心に器種が豊富で, 供膳具は一定量出土している。時期は, 9世紀第1四半期と考えられる。



第30図 SI13(1)

## 第2節 検出された遺構と遺物



第31図 SII13(2)

### 第3章 調査の成果

#### SII3 カマド掘り方 (\* 33ページの続き)

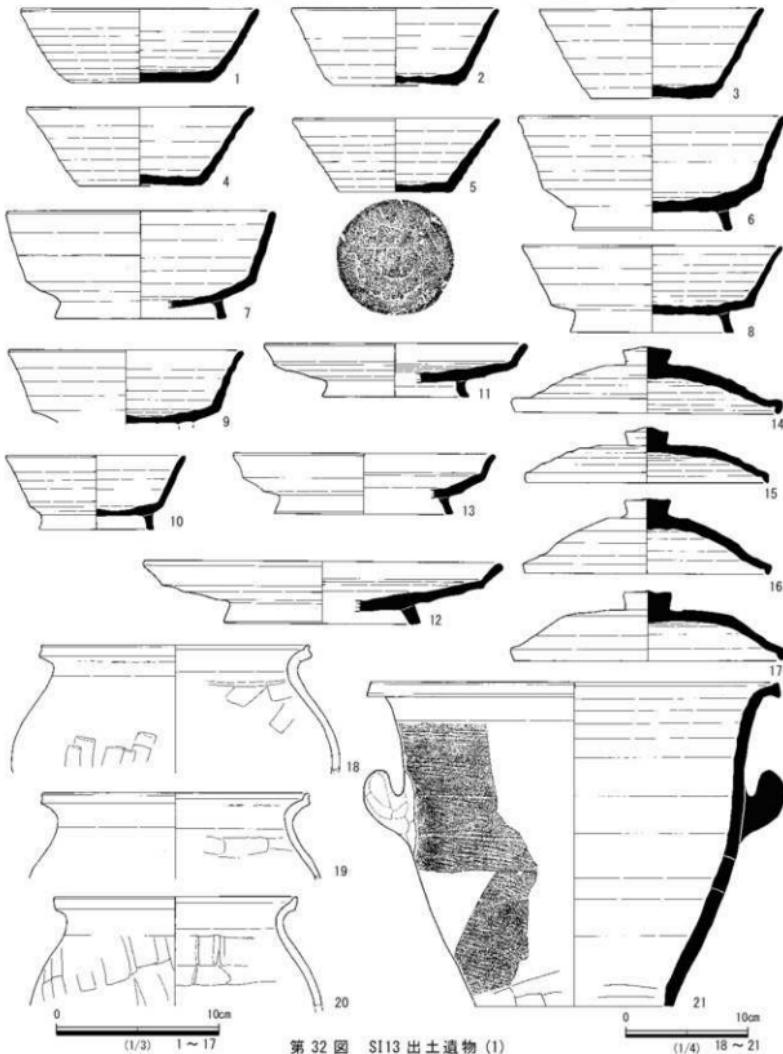
- a. にぶい 黄褐色土 10YR5/1 灰白色 (2, BYR/1) 粘土ブロック ( $\Phi 3 \sim 10\text{mm}$ ) 少量。  
ロームブロック ( $\Phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) を密に含む。縦り有、粘性弱。
- b. 黄褐色土 10YR5/2 灰白色 (2, BYR/1) 粘土ブロック ( $\Phi 3 \sim 10\text{mm}$ ) 多量。
- c. 希褐色土 2, BYR4/6 地上生根、黄色土 (10YR8/6) 粘土多量 (20%) 合む。上面は  
被覆土層、黄色土 (2, BYR3/6) を多く含む。縦り有、粘性弱。
- d. 極底土 7, BYR5/1 粘土ブロック ( $\Phi 10 \sim 40\text{mm}$ ) 少量。粘土ブロック。

e. 黒褐色土 7, BYR3/1 ロームブロック ( $\Phi 5 \sim 20\text{mm}$ ) 多量 (20%) 含む。  
縦り有、粘性有。

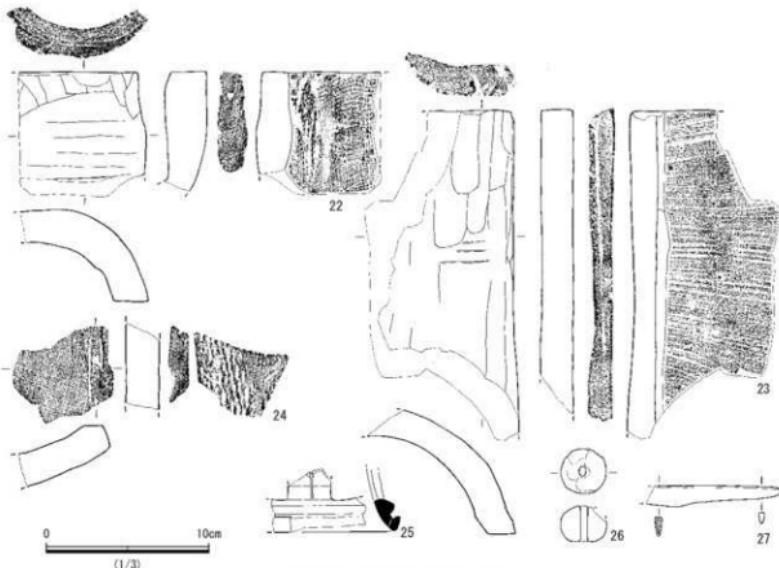
#### SII3 カマド抽抜

- ① 灰白色土 2, BYR/1 粘土主体、縦り強、粘性強。
- ② 明褐色土 2, BYR5/6 粘土主体、被覆土層、縦り強、粘性なし。
- ③ 黃褐色土 10YR8/6 粘土主体、縦り強、粘性弱。
- ④ にぶい 黄褐色土 10YR5/2 灰褐色土粘土ブロック ( $\Phi 3 \sim 7\text{mm}$ ) 多量 (20%)  
含む。縦り有、粘性や中性。

⑤ 黄褐色土 10YR6/2 粘土混土、縦り有、粘性有。



第32図 SII3 出土遺物 (1)

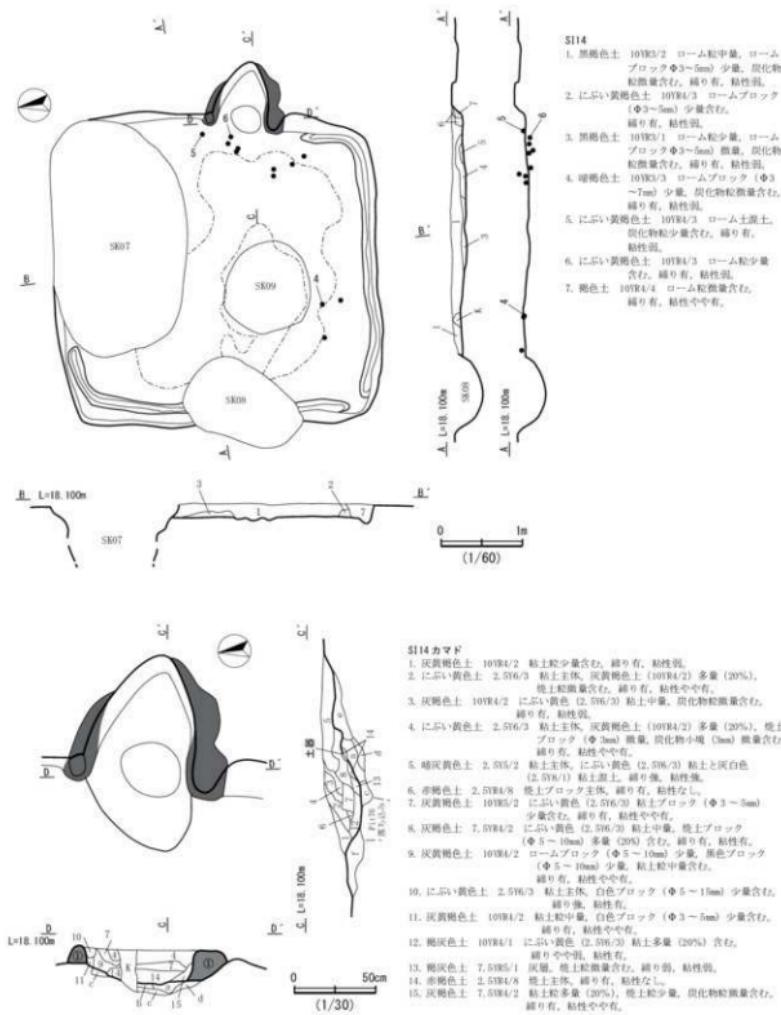


第33図 SI13出土遺物(2)

## S I 1 4 (第34・35図、第8表、写真図版4・11)

検出位置は南区のH 1・2 グリッドである。SB02を構成するPit76を本建物跡のカマドが切り込んで構築されている。一方で西壁及び南壁の一部をSK07・08に切られ、SK09は土層から本建物跡が古いと考えられたが、床面の硬化部分が抜けていることから、やはり切られていると判断される。平面形は方形を呈し、主軸方向はN - 101° - Eを示す。規模は東西軸3.86m、南北軸4.00m、深さは12~16cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。覆土は堆積層が浅く、自然堆積かどうか判然としない。床面は壁際を除く全域で顕著に硬化する。壁溝は幅11~16cm、深さ6~8cmでほぼ全周するが、北西隅では壁との距離が認められる。ピットは検出されなかった。掘り方はなく直床である。カマドは東壁中央やや南寄りに付設され、構築材は浅黄色粘土を主体としている。燃焼部は10cm程掘り進められ、焼土が堆積するとともに底面は赤変硬化していた。燃焼部から煙道部は東壁を53cm掘り込み、カマド本体は屋外となる。全長は87cm、燃焼部幅は60cm、袖残存長は左袖15cm、右袖25cmと短く、ほとんど壁に貼り付けられた状態である。

遺物は、土師器193点（壺12、楕2、皿1、甕176、瓶1、鉢1）、須恵器23点（壺10、高台付壺1、蓋1、甕10、壺・瓶類1）、灰釉陶器1点（楕1）が出土した。供膳具、煮沸具とともに土師器が主体となり、須恵器は小破片のみで器種も少ない。出土状態はカマド周辺に集中して認められる。土師器の供膳具は内面黒色処理されたものとされないものが混在している。時期は10世紀後半期～第3四半期と考えられる。

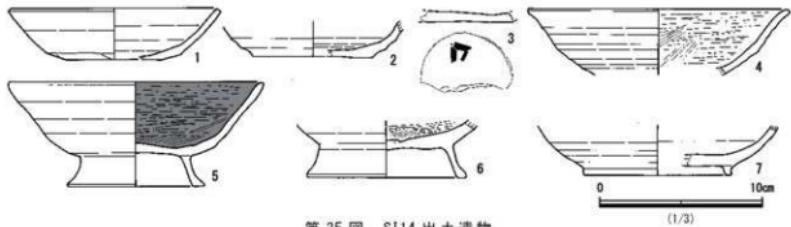


SI14 カマド掘り方

- a. にぶい赤褐色土 3YR4/4 灰白色 ( $\Phi 2.5\text{m}$ ) と他土の混土。縦り有。粘性やや有。
- b. 褐褐色土 7.5YR6/2 灰白色 ( $\Phi 2.5\text{m}$ ) 灰層。他土壤ブロック ( $\Phi 3\sim7\text{mm}$ ) 多量。縦り有。粘性弱。
- c. 黑褐色土 10YR4/2 ロームブロック ( $\Phi 3\sim7\text{mm}$ ) 多量 (20~30%)。他土壤・他土壤ブロック ( $\Phi 3\sim5\text{mm}$ ) 少量。
- d. 増炭褐色土 7.5YR5/3 ローム粒少量。他土壤・他土壤ブロック ( $\Phi 3\text{mm}$ ) 稽量含む。縦り有。粘性やや有。
- e. 褐褐色土 7.5YR4/2 灰白色 ( $\Phi 2.5\text{m}$ ) 灰層。他土壤ブロック ( $\Phi 3\sim5\text{mm}$ ) 中量含む。縦り有。粘性有。
- f. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロック ( $\Phi 5\sim20\text{mm}$ ) 多量 (40%) 含む。縦り有。粘性やや有。

第34図 SI14

## 第2節 検出された遺構と遺物

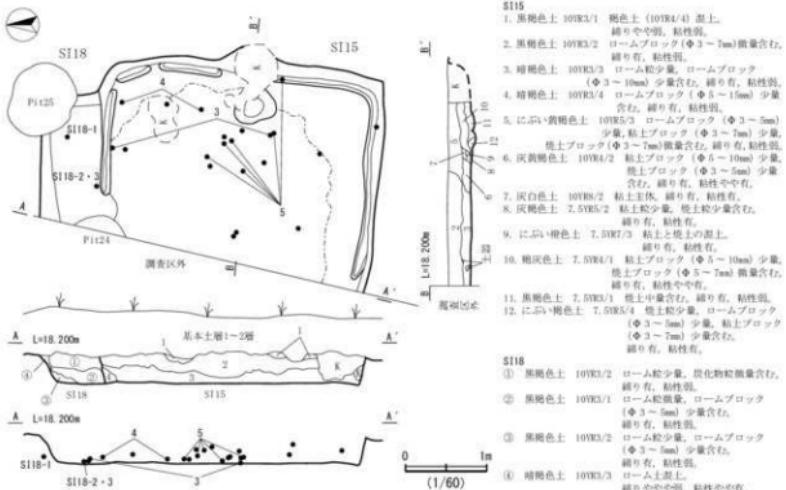


第35図 SI14出土遺物

### S I I 5 (第36・37図、第8表、写真図版4・11)

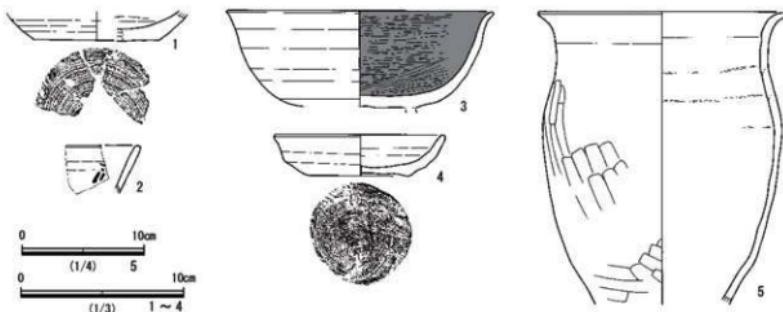
検出位置は南区のH1、I1グリッドである。西側は調査区外に延びるため全容は把握できない。北側壁がSI18を切っている。平面形は方形を呈していると思われ、主軸方向はN-96°-Eを示す。規模は東西軸が現存値で2.57m、南北軸が3.52m、深さは33cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面は壁際を除く全域で顕著に硬化する。壁溝は幅8~10cm、深さ3~6cmで全周する。ピットは検出されなかった。掘り方はなく直床である。カマドは東壁中央に付設されたとみられるが、木根の擾乱で壊され、5cm程掘り窪められた燃焼部以外は確認できなかった。

遺物は、土師器142点（坏40、甕2、甕99、鉢1）、須恵器33点（坏15、高台付坏4、蓋2、甕10、壺・瓶類1、高坏1）が出土した。土師器の供膳具では内面黒色処理されたものがわずかに上回るもの、非黒色処理坏と混在している。2・4の土師器坏底部底面は回転糸切り後未調整が主体で、4はかなり小振りである。3の土師器碗は高台部が内側に付けられる。須恵器は、木葉下窓跡とみられる胎土の須恵器坏を中心に比較的器種が豊富に認められるものの、小破片が多く混入の可能性がある。時



第36図 SI15・18

期は10世紀第3四半期～第4四半期と考えられる。

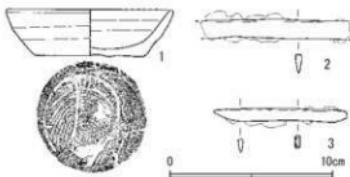


第37図 SI15出土遺物

#### S I 1 8 (第36・38図, 第8・12表, 写真図版4・12)

検出位置は南区のH1グリッドである。西側は調査区外に延び、さらに南側をSI15に、北東隅をPit25に切られているため全容は把握できない。平面形は方形を呈していると思われるが、規模、主軸方向、規模、床面や壁構の状態、カマドの有無等は不明である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は32cmを測る。覆土は残存した部分から自然堆積と考えられる。

遺物は、土師器4点(壺1, 壺3), 須恵器1点(壺・瓶類1), 鉄製品2点(刀子2)が出土した。SI15にはほとんど切られているため、本建物跡としての出土量は不十分であるが、1の土師器壺は北東隅の床直上から出土している。時期は10世紀第2四半期から第3四半期と考えられるが、切り合い関係からSI15より古いと考えられる。

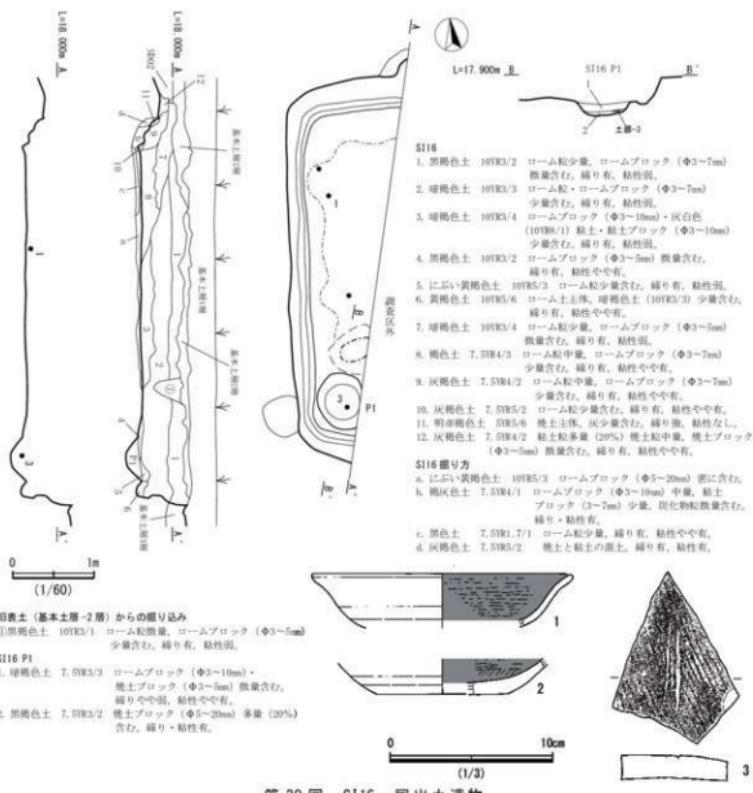


第38図 SI18出土遺物

#### S I 1 6 (第39図, 第8・10表, 写真図版4・11)

検出位置は南区のH2, I2グリッドである。東側のはほとんどが調査区外に延びるため全容は把握できない。残存する西側部分から平面形は方形を呈し、主軸方向はN-6°-E程度を示すと思われる。規模は東西軸が現存値で1.36m, 南北軸が4.68m, 深さは55cm前後で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面は壁際を除き顯著に硬化する。掘り方はなく直床であった。壁際は幅9~15cm, 深さ5~9cmで全周するとみられる。ピットは南東隅でP1が検出され、規模は径67cm, 深さ27cmと浅く、ピット掘り込みの北側に高まりが認められる。内部に須恵器甕が出土していることから貯蔵穴の可能性がある。カマドは北壁でわずかに一部が確認できるが、大部分は調査区外にあるため詳細は不明である。建物跡の規模から見てかなり西に寄った位置での付設になる。

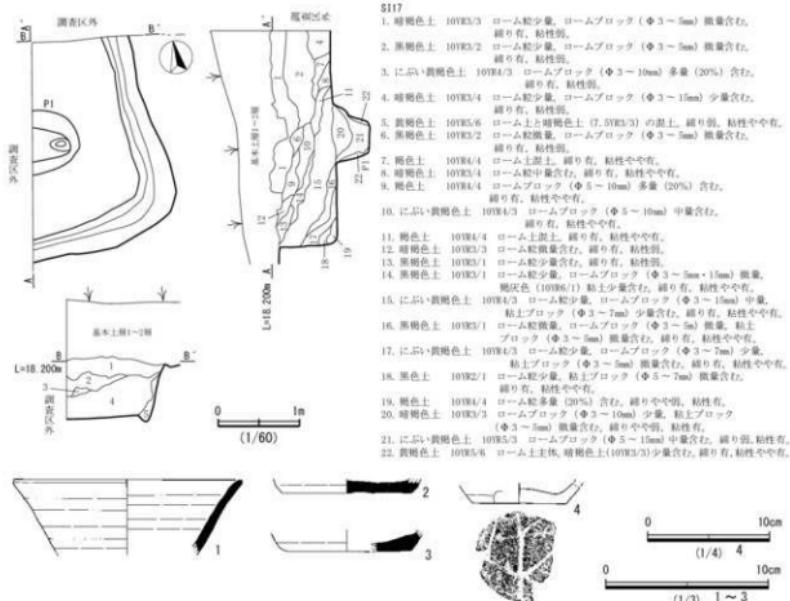
遺物は、土師器162点(壺7, 甕155), 須恵器89点(壺33, 高台付壺7, 盤6, 盖18, 甕23, 壺・瓶類1, 高壺1), 土製品1点(支脚1)が出土した。須恵器はほとんどが小破片で覆土上層中に含まれていた。それに対し、土師器壺1は西壁際の床直上、2はカマド内からの出土であることから、時期は10世紀第2四半期～第3四半期と考えられる。



S I 1 7 (第40図, 第8表, 写真図版4・12)

検出位置は南区のF2グリッドである。南東隅のみの検出でほとんどが調査区外に延び、全容は把握できない。残存する部分から平面形は方形を呈し、主軸方向はN-3°-W程度を示すと思われる。規模は現存値で東西軸が1.72 m、南北軸が2.64 m、深さは73~80 cmで、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積である。床面の状態は確認できないが、壁際は幅12~23 cm、深さ5~7 cmで全周するとみられる。ピットはP1が検出され、径77 cm、深さ53 cmとなり、主柱穴の1基と考えられる。

遺物は、土器類9点(壺1, 壺8), 須恵器17点(壺12, 盖4, 壺1)と、中近世の所産と思われる土器類1点が出土した。遺構は一部のみの確認にとどまったため、遺物の出土量は不十分であるが、須恵器を主体にしている。須恵器壺には、1の開き気味になる口縁部形態、2・3にみられる底部の大きさや調整痕が認められることなどから、時期は9世紀第1四半期~第2四半期と思われる。



第40図 SI17・同出土遺物

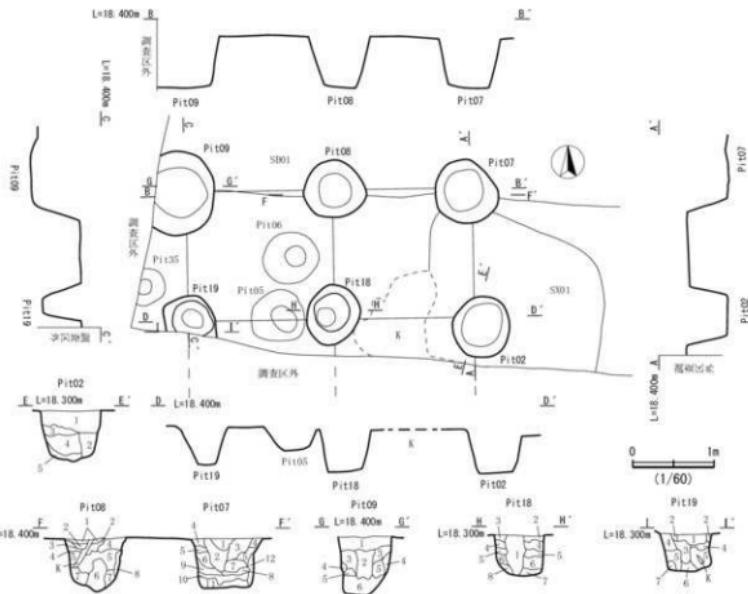
## (2) 掘立柱建物跡

## S B01 (第41図、第3表、写真図版4)

検出位置は北区E 2 グリッドである。本建物跡はPit02・07～09・18・19の6基が検出されている。Pit07～09はSD01により切られ、一方でPit02・07はSX01を切り込んでいる。さらに南側及び西側は調査区外に延びるため全容は把握できない。平面規格は東西2間以上、南北1間以上の総柱建物跡である。規模は現存値で東西長3.9m以上、南北長2.2m以上となる。建物の傾きはN-0°を示す。各柱穴の掘り方は円形基調で、規模は長軸70～104cm、短軸64～75cm、深さ47～72cmで、平面形は整っており、底面の標高もほぼ一定している。柱間寸法は芯々で東西軸が1.7～1.8m、南北軸が1.6m前後と概ね等間隔に配置されている。埋め土は含有物の少ない黒褐色土・暗褐色土とローム土・ロームブロックを多量に含む黄褐色土・にぶい黄褐色土が互層堆積し、しまりを持つ。Pit18では径22cmで黒褐色土を主体とした柱痕跡が検出面から底面まで認められるものの、Pit07・08・19では層が乱れ明瞭な柱痕跡を確認することができないことから、柱の抜き取りが行われた可能性がある。Pit02・09では抜き取り後人為的に埋め戻された痕跡が認められた。底部硬化面が確認できる柱穴は見当たらない。

遺物はPit02・07・09から出土したが、いずれも小破片で図示できるものはなく、遺物から時期を推定するには不十分である。SD01、SX01との重複関係から見れば、時期は8～9世紀代の範疇であろう。

## 第2節 検出された遺構と遺物



### Pit02

1. 黄褐色土 10YR5/3 黒色ブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量。ロームブロック (Φ 3 ~ 15mm) を密に含む。縦りやや強。粘性有。
2. 黒褐色土 10YR3/2 ローム細少量。ロームブロック (Φ 3 ~ 15mm) 微量含む。縦りやや弱。粘性弱。
3. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。斑状の黒褐色土 (10YR3/2) 少量含む。縦り強。粘性有。
4. 黑褐色土 10YR3/1 ローム細中量。ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 中量含む。縦り有。粘性やや弱。
5. にぶい黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 多量 (40%) 含む。縦り有。粘性有。

### Pit07

1. 黑褐色土 10YR3/2 ローム細量含む。縦り有。粘性弱。
2. にぶい黄褐色土 10YR4/2 ローム細少量。縦り有。粘性弱。
3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム細少量。斑状の黒褐色土 (10YR3/2) を主部に含む。縦り有。粘性弱。
4. 粘褐色土 10YR5/4 ローム細量含む。縦り有。粘性弱。
5. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土混入。縦り有。粘性やや弱。
6. にぶい黄褐色土 10YR4/2 ローム細量含む。縦り有。粘性やや弱。
7. 黑褐色土 10YR3/1 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 微量含む。縦り有。粘性弱。

### Pit08

1. にぶい黄褐色土 10YR4/2 ローム粒少量。ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。縦り有。粘性有。
2. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。にぶい黄褐色土 (10YR3/3) 多量 (20%) 含む。1. にぶい黄褐色土 10YR4/3 にぶい黄褐色土 10YR3/2 ローム細量含む。縦り有。粘性弱。
3. 粘褐色土 10YR3/3 ローム細量含む。縦り有。粘性弱。
4. にぶい黄褐色土 10YR4/2 ローム細少量。ローム細量。黑色土ブロック (Φ 3 ~ 20mm) 多量 (20%) 含む。2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 多量含む。縦り有。粘性弱。
5. 黑褐色土 10YR3/2 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 稀量含む。縦り有。粘性弱。
6. 増褐色土 10YR3/3 ローム細少量。ロームブロック (Φ 3 ~ 20mm) 多量 (20%) 含む。6. 増褐色土 10YR3/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 多量 (20%) 含む。縦り有。粘性有。

### Pit09

1. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土混入。縦り有。粘性やや有。
2. 黑褐色土 10YR3/2 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 30mm) 少量含む。縦り有。粘性弱。
3. 増褐色土 10YR3/3 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 15mm) 少量含む。縦り有。粘性弱。
4. にぶい黄褐色土 10YR4/2 ローム細少量。ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。縦り有。粘性有。
5. 黑褐色土 10YR3/1 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 30mm) 少量含む。縦り有。粘性弱。
6. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム細量含む。縦り有。粘性有。

### Pit10

1. 黑褐色土 10YR3/2 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 少量含む。縦りやや弱。粘性弱。
2. 黑褐色土 10YR3/2 ローム土混入。縦り有。粘性やや有。
3. 黑褐色土 10YR3/1 ローム土上に黒褐色土 (10YR2/1) の層。縦り有。粘性やや有。
4. 黑褐色土 10YR3/2 ローム土上に黒褐色土 (10YR2/1) の層。縦り有。粘性やや有。
5. 黑褐色土 10YR3/1 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 中量。黒色土 (10YR2/1) ブロック (Φ 3 ~ 20mm) 少量含む。
6. 增褐色土 10YR3/3 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 多量 (20%) 含む。縦り有。粘性弱。

### Pit11

7. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土混入。縦りやや強。粘性やや有。
8. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム土上にロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 含む。縦り有。粘性弱。
9. 黑褐色土 10YR3/2 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 中量含む。縦り有。粘性弱。
10. 黑褐色土 10YR3/1 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 中量含む。縦り有。粘性弱。
11. にぶい黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。黒褐色土 (10YR3/1) 少量含む。縦り有。粘性弱。

### Pit12

12. 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒少量。ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 稀量含む。縦り有。粘性弱。
13. 黑褐色土 10YR3/2 ローム土上に、にぶい黄褐色土 (10YR3/3) 多量 (20%) 含む。1. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 20mm) 多量 (20%) 含む。縦り有。粘性弱。
14. 黑褐色土 10YR3/1 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 多量含む。縦り有。粘性弱。
15. 黑褐色土 10YR3/1 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 中量含む。縦り有。粘性弱。
16. 增褐色土 10YR3/3 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 多量 (20%) 含む。縦り有。粘性有。
7. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土混入。縦りやや強。粘性やや有。
8. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム土上にロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 含む。縦り有。粘性弱。
9. 黑褐色土 10YR3/2 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 中量含む。縦り有。粘性弱。
10. 黑褐色土 10YR3/1 ローム細量。ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 中量含む。縦り有。粘性弱。
11. にぶい黄褐色土 10YR5/6 ローム粒少量。ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 稀量含む。縦り有。粘性弱。

第41図 SB01

### 第3章 調査の成果

第3表 SB01

| 遺構名<br>(グリッド) | 位置<br>(グリッド) | 形状   | 規模(cm) |      |    | 重複・覆土・特徴・出土遺物・その他             | 出土遺物           |
|---------------|--------------|------|--------|------|----|-------------------------------|----------------|
|               |              |      | 長軸     | 短軸   | 深さ |                               |                |
| Pit02         | E2           | 円形   | 88     | 70   | 66 | SD01を切ら。5層。上部は埋め戻しが、下部で柱痕確認。  | 土師器優ん、灰窓器外2・裏1 |
| Pit07         | E2           | 円形   | 80     | 75   | 60 | SD01に切られる。12層                 | 土師器優3          |
| Pit08         | E2           | 円形   | 77     | 72   | 67 | SD01に切られる。8層                  | なし             |
| Pit09         | E2           | (円形) | 104    | (72) | 72 | SD01に切られる。西側わずかに調査区外。6層。柱痕あり。 | 土師器優1          |
| Pit18         | E2           | 円形   | 72     | 64   | 52 | 8層。柱痕跡あり。                     | なし             |
| Pit19         | E2           | 円形   | 70     | (49) | 47 | 7層。柱痕跡あり。南側調査区外。              | なし             |

S B 0 2 (第42図、第4表、写真図版5)

検出位置は南区H2、I2グリッドにまたがる。本建物跡はPit21・22・31・34・64・69・76の7基が検出されている。Pit22はSI16に、Pit64はSD02に、Pit76はSI14のカマド構築時にそれぞれ切られている。また、東側が調査区外になるため全容は把握できないが、本来の平面規格は側柱構造の建物跡で、桁行3間、梁行2間の南北棟と考えられる。規模は桁行長6.60m(約22尺)、梁行長4.20m(約14尺)となり、面積は27.72m<sup>2</sup>を計測する。建物の傾きはN-10°-Wを示す。各柱穴の掘り方は梢円形基調で、梁行側の柱穴は南北軸に、梁行の軸は東西軸に向いており、隅のPit21・64・76は若干「ハ」の字状に傾いている。規模は長軸71~90cm、短軸41~58cm、深さ25~44cmで、平面形は比較的整っており、底面の標高もほぼ一定している。底部硬化面に基づく柱間寸法は梁行が約2.15mと等間隔であるが、桁行は2.00~2.30mでPit31・34間が狭くなっている。埋め土は黒褐色土、にぶい黄褐色土が混在し、各層にはローム土・ロームブロックが多く含まれている。Pit22でのみ黒褐色土を主体とした径22cmの柱痕跡を確認したが、底部硬化面は全ての柱穴で認められる。

遺物はPit21・31・34・64から出土したが、いずれも小破片で図示できるものはなく、遺物から時期を推定するには不十分である。ただし、SI14・16との重複関係から見れば、10世紀第1四半期以前には構築されていたと考えられる。

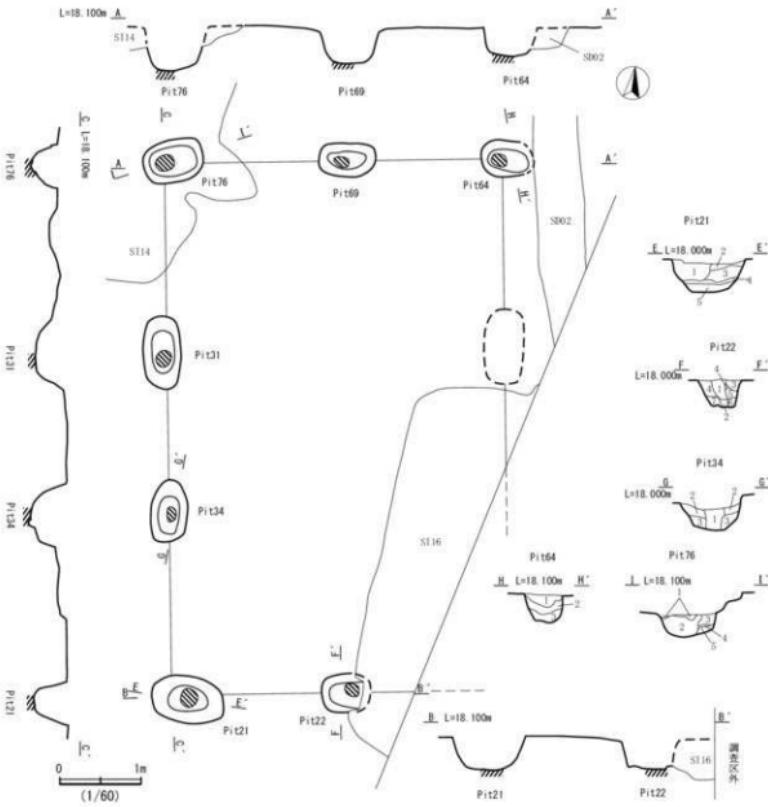
第4表 SB02

| 遺構名<br>(グリッド) | 位置<br>(グリッド) | 形状  | 規模(cm) |    |    | 重複・覆土・特徴・出土遺物・その他       | 出土遺物                |
|---------------|--------------|-----|--------|----|----|-------------------------|---------------------|
|               |              |     | 長軸     | 短軸 | 深さ |                         |                     |
| Pit21         | I2           | 梢円形 | 90     | 36 | 40 | 5層                      | 土師器優ん、灰窓器優1、石製品(瓦石) |
| Pit22         | I2           | 梢円形 | (55)   | 47 | 34 | 7層。柱痕跡あり。               | なし                  |
| Pit31         | H2           | 梢円形 | 90     | 46 | 35 | 5層。柱痕跡あり。Pit22・34に切られる。 | 土師器優1               |
| Pit34         | H2           | 梢円形 | 75     | 46 | 44 | 4層。柱痕跡あり。               | 土師器優1、灰窓器1・裏2       |
| Pit46         | H2           | 梢円形 | (39)   | 44 | 36 | SD02に切られる。3層            | 土師器優1、灰窓器1          |
| Pit59         | H2           | 梢円形 | 71     | 41 | 25 | 当初Pit27・58にした重複遺構が該当。   | なし                  |
| Pit76         | H2           | 梢円形 | 75     | 51 | 31 | SD14に切られる。5層            | なし                  |

S B 0 3 (第43図、第5表、写真図版5)

検出位置は南区G1・2グリッドにまたがる。本建物跡はPit43・44・48・50・51・52・56・89・90・92の10基で構成される。SI13カマドの一部をPit56が、同北壁をPit92が切り込んで構築されている。西側は調査区外でPit48・50がかかるものの、平面規格は側柱構造の建物跡で、桁行3間、梁行2間の南北棟と判断される。規模は桁行長4.50m(約15尺)、梁行長3.45m(約11.5尺)となり、面積は15.53m<sup>2</sup>を計測する。建物の傾きはN-10°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で、規模は長軸48~80cm、短軸47~69cm、深さ30~78cmを測る。平面形はやや不規則で、底面の標高も一定していない。柱間寸法は、芯々で桁行が1.50mの等間隔であるのに対し、梁行は1.60~1.80mとばらついている。埋め土は黒褐色土、暗褐色土とにぶい黄褐色土がほぼ互層に堆積し、各層にはローム土・ロームブロックが多く含まれている。柱痕跡はPit43・44・51・56・90・92で確認

## 第2節 検出された遺構と遺物



### Pit 21

- 黒褐色土 10YR3/2 ローム粘少量。ロームブロック ( $\Phi 3 \sim 5\text{mm}$ ) 程度含む。縦り有、粘性弱。
- 黒褐色土 10YR3/1 ローム粘微量含む。縦り有、粘性弱。
- 暗褐色土 10YR3/2 ローム粘少量。ロームブロック ( $\Phi 3 \sim 5\text{mm}$ ) 程度含。底炭の黒褐色土 (10YR2/1) を全体に含む。縦り有、粘性やや有。
- 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック ( $\Phi 3 \sim 7\text{mm}$ ) 多量 (30 ~ 40%) 含む。縦り有、粘性有。
- 黒褐色土 10YR3/1 ローム上・ロームブロック ( $\Phi 3 \sim 10\text{mm}$ ) 多量 (20%) 含む。縦り有、粘性有。

### Pit 22

- 黒褐色土 10YR3/1 ローム粘微量含む。縦り有、粘性弱。
- 暗褐色土 10YR3/2 ロームブロック ( $\Phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) 多量 (40%) 含む。縦り有、粘性やや有。

3. にぶい・黄褐色土 10YR4/3 ローム粘微量含む。縦り有、粘性弱。

4. 暗褐色土 10YR3/2 ロームブロック ( $\Phi 3 \sim 7\text{mm}$ ) 少量含む。縦り有、粘性弱。

5. 黑褐色土 10YR3/2 ローム粘・ロームブロック ( $\Phi 3 \sim 5\text{mm}$ ) 程度含む。縦り有、粘性弱。

6. 黑褐色土 10YR3/1 ローム粘・ロームブロック ( $\Phi 3 \sim 10\text{mm}$ ) 多量 (20%) 含む。縦り有、粘性やや弱。

7. 褐色土 10YR4/4 ローム上・ロームブロック ( $\Phi 5 \sim 10\text{mm}$ ) 多量 (30 ~ 40%) 含む。縦り有、粘性有。

Pit 21  
第 44 図参照 Pit 132・33 と合わせて観察。

### Pit 34

- 黒褐色土 10YR3/2 ローム粘少量。ロームブロック ( $\Phi 3 \sim 5\text{mm}$ ) 程度含む。縦り有、粘性弱。
- 黒褐色土 10YR4/4 ローム粘微量。直状の褐色土 (10YR4/4) をまばらに含む。縦り有、粘性弱。
- にぶい・黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック ( $\Phi 3 \sim 5\text{mm}$ ) 中量含む。縦り有、粘性やや有。

### Pit 16

- 暗褐色土 10YR3/3 ローム粘中量。ロームブロック ( $\Phi 3 \sim 10\text{mm}$ ) 程度。地土上ブロック ( $\Phi 3 \sim 10\text{mm}$ ) 程度含む。縦り有、粘性弱。
- 黒褐色土 10YR3/1 ローム粘少量。黒色粘物微量含む。縦り有、粘性弱。
- 暗褐色土 10YR3/4 ローム粘・地土上ブロック ( $\Phi 3 \sim 5\text{mm}$ ) 中量。地土ブロック ( $\Phi 10\text{mm}$ ) 程度含む。縦り有、粘性弱。

### Pit 16

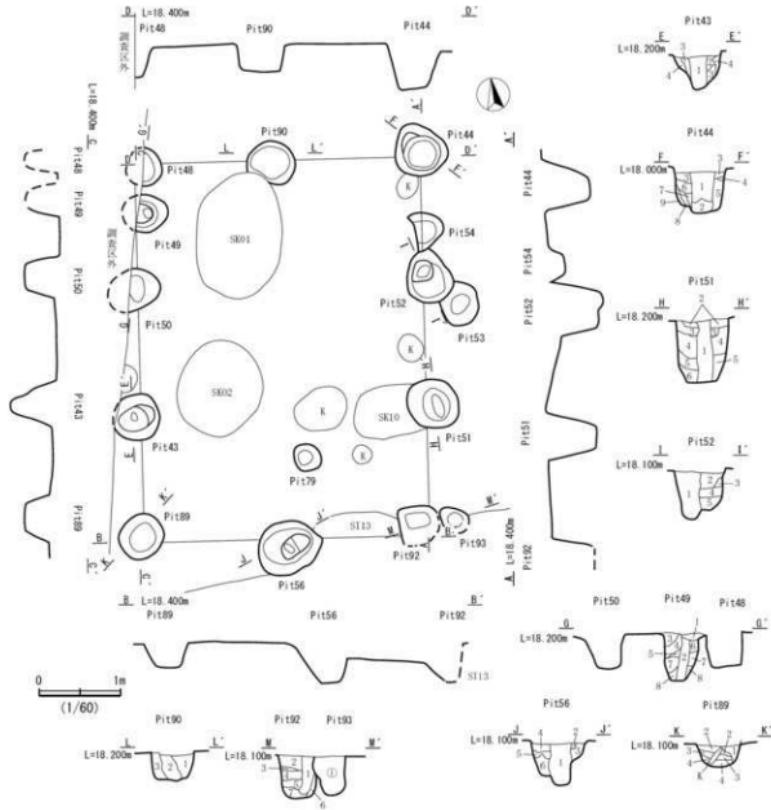
- 暗褐色土 7.5YR3/6 黄褐色 (10YR8/6) 地上・地土上ブロック ( $\Phi 3 \sim 7\text{mm}$ )、地土塊 ( $\Phi 3 \sim 5\text{mm}$ ) 程度含む。縦り有、粘性弱。
- 黒褐色土 7.5YR3/2 ロームブロック ( $\Phi 3 \sim 5\text{mm}$ ) 多量 (20%)、炭化物塊 ( $\Phi 3 \sim 10\text{mm}$ ) 少量。地土ブロック ( $\Phi 3\text{mm}$ ) 程度含む。縦り有、粘性やや弱。

- 黒褐色土 10YR3/1 ローム上・ロームブロック ( $\Phi 3 \sim 7\text{mm}$ ) 多量 (30 ~ 40%) 炭化物塊少量含む。縦り有、粘性やや有。

- 黑色土 10YR1/7/1 炭化物塊。縦りやや弱、粘性弱。
- にぶい・黄褐色土 10YR5/4 ローム上と黑色土 (10YR2/1) の隙上。縦り有、粘性やや有。

第 42 図 SB02

### 第3章 調査の成果



#### Pit 43

1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粘・ロームブロック ( $\Phi 3\sim5\text{mm}$ ) 少量。繊り有。粘性弱。
2. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック ( $\Phi 3\sim20\text{mm}$ ) を密に含む。繊り有。粘性有。
3. 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック ( $\Phi 3\sim7\text{mm}$ ) 中量含む。繊り有。粘性やや有。
4. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック ( $\Phi 3\sim5\text{mm}$ ) 多量 (20%) 含む。繊り有。粘性やや有。
5. 黑褐色土 10YR3/3 ローム土少量。繊りやや弱。粘性弱。
6. にぶい黄褐色土 10YR3/0 ロームブロック ( $\Phi 3\sim7\text{mm}$ ) 多量 (20%) 含む。繊り有。粘性弱。
7. 黒褐色土 10YR2/2 ロームブロック ( $\Phi 3\sim10\text{mm}$ ) 中量含む。繊り有。粘性やや有。
8. にぶい黄褐色土 10YR5/4 クラゲ状構造有。粘性有。
9. にぶい黄褐色土 10YR4/3 深部の黒褐色土 ( $\Phi 10YR3/1$ ) を全体に含む。繊り有。粘性有。

#### Pit 44

1. 黄褐色土 10YR4/2 ローム粘少量。ロームブロック ( $\Phi 3\sim7\text{mm}$ ) 稍量含む。繊り有。粘性弱。
2. 黑褐色土 10YR3/2 ローム粘中量。ロームブロック ( $\Phi 3\sim5\text{mm}$ ) 少量含む。繊り有。粘性弱。
3. 黄褐色土 10YR5/4 ローム土主体。黒色の根糸含む。繊りやや強。粘性有。
4. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土・ロームブロック ( $\Phi 3\sim5\text{mm}$ ) を密に含む。黒色の根糸含む。繊りやや強。粘性有。
5. 増強色土 10YR3/3 ローム土多量。ロームブロック ( $\Phi 3\sim5\text{mm}$ ) 多量 (20%) 含む。繊り有。粘性やや有。
6. 黑褐色土 10YR3/2 ローム土多量 (20%)。ローム粘多量 (20%) 含む。繊り有。粘性やや有。
7. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粘多量 (20%)。ロームブロック ( $\Phi 3\sim5\text{mm}$ ) 中量含む。繊り有。粘性やや有。
8. 増強色土 10YR3/3 ローム粘無。ロームブロック ( $\Phi 3\sim5\text{mm}$ ) 稍量含む。繊り有。粘性弱。
9. 黑褐色土 10YR3/2 ローム粘中量。ロームブロック ( $\Phi 3\sim7\text{mm}$ ) 稍量含む。繊り有。粘性弱。
10. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粘少量。ロームブロック ( $\Phi 5\sim20\text{mm}$ ) 中量含む。繊り有。粘性弱。
11. 增強色土 10YR3/3 ロームブロック ( $\Phi 3\sim10\text{mm}$ ) 多量 (20%) 含む。繊り有。粘性弱。
12. 黑褐色土 10YR3/1 ローム土多量。繊り有。粘性有。
13. 増強色土 10YR3/2 繊り有。粘性有。
14. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体。増強色土 (10YR3/3) 少量含む。繊り強。粘性有。

第43図 SB03

され、径 16 ~ 30 cm の黒褐色土を主体としている。底部硬化面は Pit51 でのみ認められる。

遺物は Pit44・51・90 から出土したが、いずれも小破片で図示できるものではなく、遺物から時期を推定するには不十分である。ただし、SI13・SD02 との重複関係から見れば、9世紀代に構築されたと考えられる

## Pit52

- 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 多量 (40%)、炭化物塊 (Φ 3 ~ 5mm) 含む。縦りや中空、粘性有。
- 暗褐色土 10YR3/3 ローム土、ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) を巻む。縦りや中空、粘性有。
- にぶい黄褐色土 10YR5/2 ローム粒、ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 縱量含む。縦り有、粘性有。
- 黄褐色土 10YR5/6 ローム土上体、暗褐色土 (10YR3/3) 少量含む。縦り有、粘性有。1. 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒 (Φ 3 ~ 5mm) 縱量含む。
- 黒褐色土 10YR5/1 ロームブロック (Φ 10 ~ 20mm) 多量 (30 ~ 40%) 含む。縦り有、粘性有。

## Pit56

- 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 縱量、底上。3. 緩褐色土 10YR5/3 ローム粒、ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 縱量含む。縦り有、粘性有。
- にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土上部で、ブロック状に巻れる。縦り有、粘性有。4. にぶい黄褐色土 10YR5/5 ローム粒、ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 縱量含む。縦り有、粘性有。
- 緩褐色土 10YR5/2 ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 縱量含む。縦り有、粘性有。
- 緩褐色土 10YR5/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 縱量含む。縦り有、粘性有。
- にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 多量 (20%) 含む。縦り有、粘性有。
- 黒褐色土 10YR4/1 ロームブロック (Φ 3 ~ 7mm) 多量 (20%) 含む。縦り有、粘性有。

## Pit59

- 黒褐色土 10YR3/3 ローム粒少額、ロームブロック (Φ 2 ~ 5mm) 縱量含む。縦りや中空、粘性有。
- 灰褐色土 10YR4/2 ローム土上部、ローム粒、ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。
- 暗褐色土 10YR5/3 ローム土上部、ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 少量含む。
- 褐色土 10YR4/6 現状の暗褐色土 (10YR3/3) を全体に含む。縦り有、粘性や中空。

## Pit50

- 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主体、黒褐色土 (10YR3/2) 少量。黒色粘土含む。縦り有、粘性有。
- 黒褐色土 10YR3/1 ローム土上部で、ローム粒 (Φ 3 ~ 5mm) 縱量含む。縦り有、粘性有。
- 黒褐色土 10YR3/2 ローム土多量 (40%) 黒色粘土含む。縦り有、粘性弱。

## Pit52

- にぶい黄褐色土 10YR4/4 ローム粒少量 (20%)、ロームブロック (Φ 3 ~ 10mm) 多量 (20%) 含む。縦り有、粘性弱。
- にぶい黄褐色土 10YR4/5 ローム粒、ロームブロック (Φ 3 ~ 5mm) 多量 (20%) 含む。縦り有、粘性弱。

## Pit53

- 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、黒色粘土 (10YR3/2) の混土。

縦りや中空、粘性や中空、粘性有。

- 緩褐色土 10YR3/1 ローム粒 (Φ 3 ~ 10mm) 多量 (20 ~ 30%) 含む。縦り有、粘性有。

縦りや中空、粘性や中空、粘性弱。

- にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土混土、黒色粘土含む。縦り有、粘性や中空。

縦り有、粘性有。

第5表 SB03

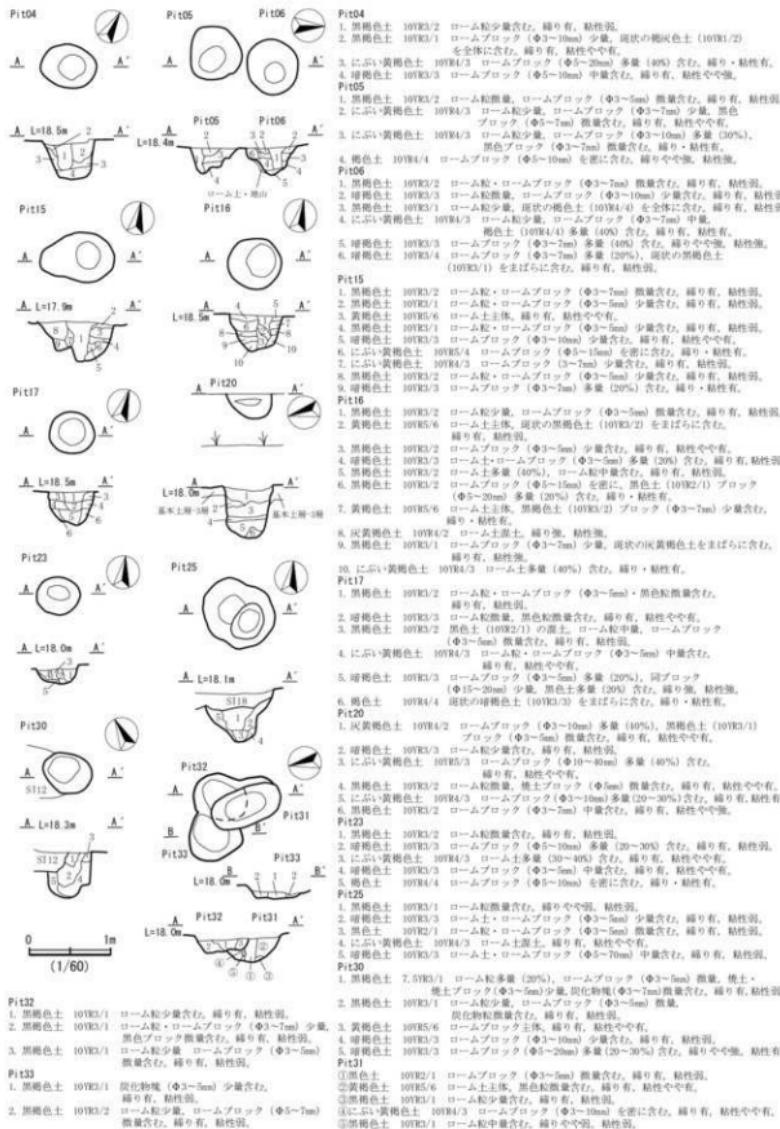
| 遺構名   | 位置<br>(グリッド) | 形狀      | 層相(cm)  |    |                  | 重複・覆土・特徴・出土遺物・その他                         | 出土遺物       |
|-------|--------------|---------|---------|----|------------------|---|------------|
|       |              |         | 長軸      | 短軸 | 厚さ               |   |            |
| Pit43 | G1           | 円形      | 57      | 58 | 46               | 4層、柱筋跡あり。                                 | なし         |
| Pit44 | G2           | 円形      | 66      | 69 | 55               | 9層、柱筋跡あり。                                 | 土師器盤2、灰堀追跡 |
| Pit48 | G1 (円形)      | 48 (24) | 45      | 51 | 45 ~ 45.5        | 5層、柱筋跡あり。10YR4/3L ~ 5L 黄褐色土、ローム土、ロームブロック多 | なし         |
| Pit50 | G1 (円形)      | C30     | 53      | 44 | 44               | 單層、10YR4/3L 黄褐色土、ローム土、ローム砂中に              | なし         |
| Pit51 | G2           | 円形      | 61      | 66 | 78               | 6層、柱筋跡あり。                                 | 土師器盤2、灰堀追跡 |
| Pit52 | G2           | 円形      | 66      | 56 | 61               | 5層、柱筋跡あり。                                 | 灰、高台跡      |
| Pit56 | G2           | 円形      | 80      | 69 | 55               | SI13を切る6層、柱筋跡あり。                          | なし         |
| Pit59 | G1           | 円形      | 56      | 56 | 30               | 4層  | なし         |
| Pit90 | G2           | 円形      | 58 (48) | 35 | 35               | 柱筋跡あり。                                    | 土師器盤1      |
| Pit92 | G2           | (円形)    | 48      | 57 | SI13を切る7層、柱筋跡あり。 | なし  |            |

## (3) ピット (第44 ~ 46図、第6・8表、写真図版12)

ピットは掘立柱建物跡3棟を構成する柱穴を除き72基を検出した。その配置を見ると、そのほとんどが掘立柱建物跡と SI13・14周辺に集中している。特に SB03周辺のピットは建て替え等の柱穴が想定されたが、把握することはできなかった。SI14周辺のピットは掘立柱建物跡が検出される可能性もあったが、柱筋などを確認することができなかった。一方、SI13周辺のピットはPit10 ~ 14がSI13造り替えのため人為的に埋め戻した部分に並列して検出されており、SI13作事の際の関連性がうかがえる。Pit01は規模的にピットとしたが、非常に浅く柱穴とはなり得ない形態である。

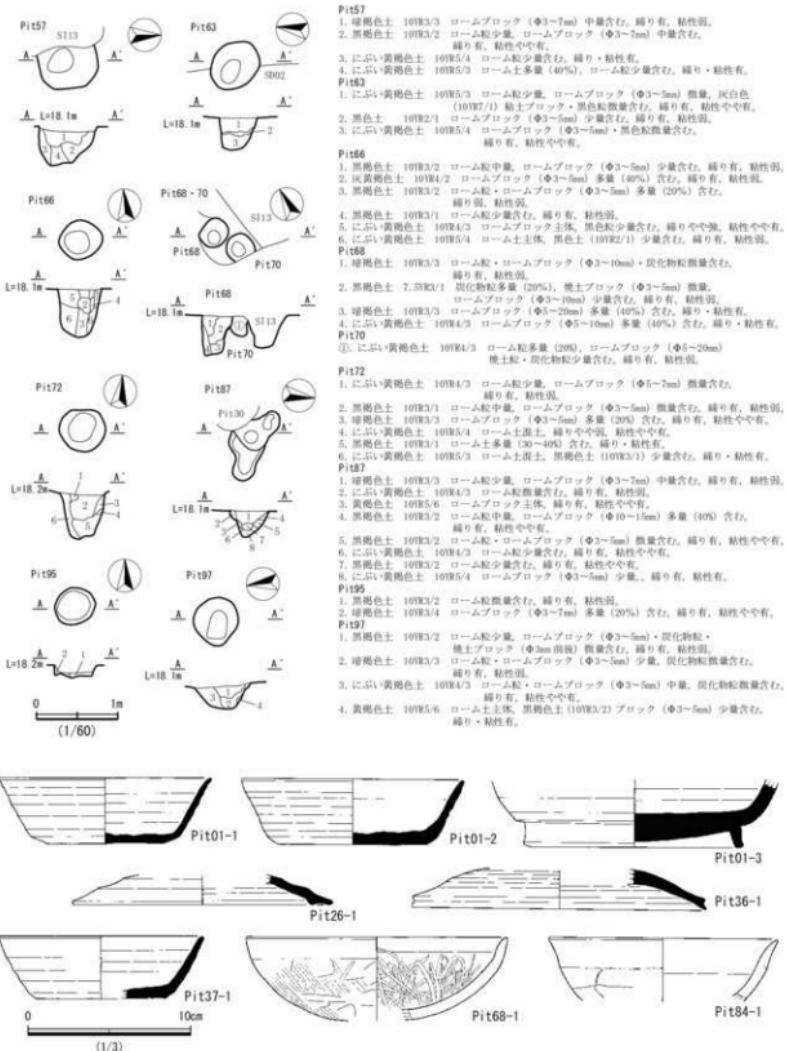
遺物は、最も多く出土したのは前述したPit01からで、貯蔵穴的な遺構なのかもしれない。Pit26・27・68・72・75・84からは非クロコ系の土師器壺が、Pit26からは内面にかえりを有する須恵器蓋、Pit36からは形態的に7世紀末~8世紀初頭の所産と思われる古相を示す破片が認められ、本地点の堅穴建物跡の時期より古いと考えられる。他のピットからは破片のみの出土で時期の特定には至らないが、SI14周辺のピットは建物跡が構築された際にほとんどが切られていることから、9世紀代のピットが主体である可能性が高い。

第3章 調査の成果

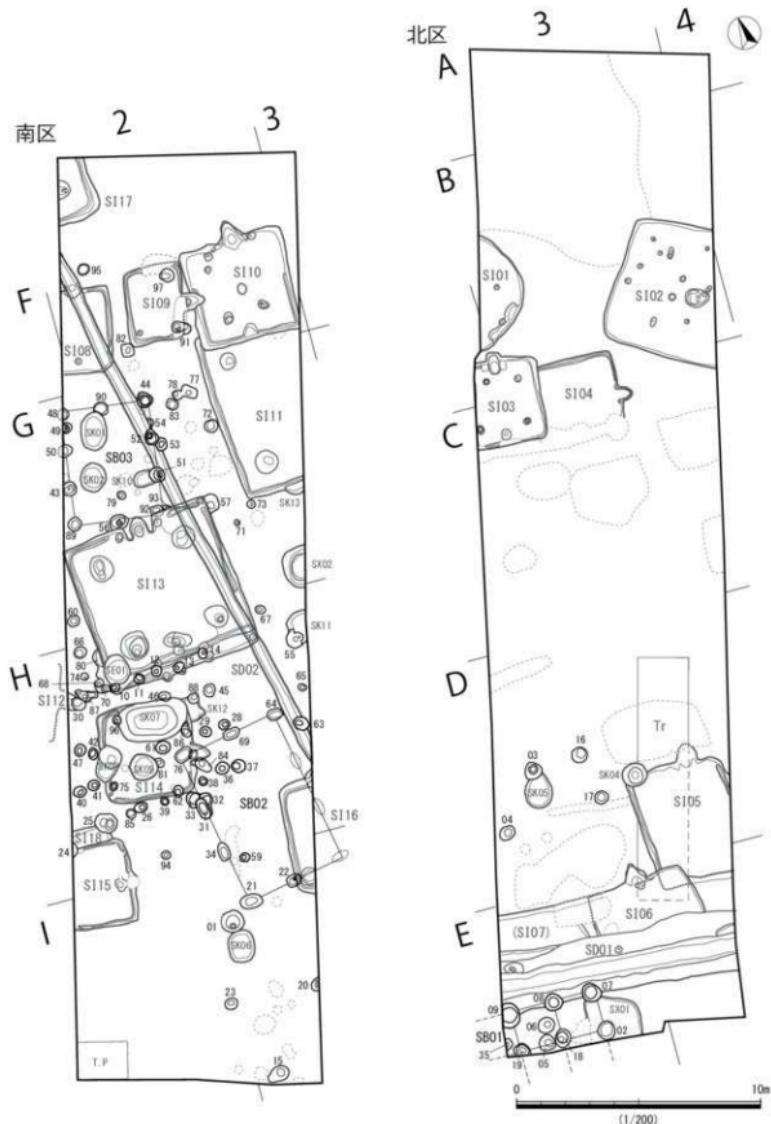


第44図 ピット(1)

## 第2節 検出された遺構と遺物



第45図 ピット(2)・同出土遺物



第46図 ピット配置図

第6表 柱穴・ピット一覧表

| 遺構名   | 位置<br>(グリッド) | 形狀   | 規模(cm) |     |    | 重複・覆土・特徴・出土遺物・その他                                  | 出土遺物               |
|-------|--------------|------|--------|-----|----|--|--------------------|
|       |              |      | 長軸     | 短軸  | 深さ |  |                    |
| Pit01 | I2           | 円形   | 95     | 92  | 48 | 単層(第4回)。遺物や瓦をまとめて出土。生存率の高い須恵器あり。南側に小ピットあり。         | 土・堆3, 瓦・F3-5・高台環・東 |
| Pit02 | D2           | 円形   | 73     | 68  | 50 | SK05-5切ら・8層(第4回)。                                  | なし                 |
| Pit04 | D2           | 楕円形  | 68     | 54  | 49 | 4層。柱痕跡あり。  | なし                 |
| Pit05 | E2           | 円形   | 71     | 63  | 32 | 4層。柱痕跡なし。  | なし                 |
| Pit06 | E2           | 円形   | 70     | 62  | 34 | 6層。柱痕跡なし。  | なし                 |
| Pit10 | H1           | 円形   | 40     | 34  | 36 | SI13-5切ら。SK03-2切られる。単層。10YR4/2/1黄褐色土。ローム粒・ロームブロック少 | 土・堆3<br>瓦・环        |
| Pit11 | H1           | 円形   | 43     | 40  | 19 | SI13-5切ら。単層。10YR4/2/1-2/1黄褐色土。ローム粒・ロームブロック少        | なし                 |
| Pit12 | H2           | 円形   | 44     | 42  | 22 | SI13-5切ら。単層。10YR4/2/1-2/1黄褐色土。ロームブロック多             | なし                 |
| Pit13 | H2           | 楕円形  | 47     | 37  | 24 | SI13-5切ら。単層。10YR4/2/1黄褐色土。ローム粒・ロームブロック少            | なし                 |
| Pit14 | H2           | 円形?  | 45     | 36  | 37 | SI13-5切ら。単層。10YR4/2/1黄褐色土。ローム粒・ロームブロック少            | なし                 |
| Pit15 | I2           | 楕円形  | 92     | 62  | 44 | 9層。柱痕跡なし。  | なし                 |
| Pit16 | D2           | 円形   | 65     | 62  | 10 | 10層。柱痕跡なし。   | なし                 |
| Pit17 | D2           | 円形   | 56     | 51  | 40 | 6層。  | 瓦・环1               |
| Pit20 | I2           | (円形) | 70     | C30 | 62 | 6層。  | 土・堆1               |
| Pit23 | H1           | 円形   | 55     | 45  | 28 | 5層。  | 第3・堆1              |
| Pit24 | H1           | (円形) | 60     | 47  | 7  | 9層。10YR3/3/0-2/0黄褐色土。ローム粒少。ロームブロック少                | なし                 |
| Pit25 | H1           | 円形   | 92     | 82  | 63 | SI13-5切ら。6層。                                       | 土・堆4               |
| Pit26 | H2           | 楕円形  | 56     | 40  | 70 | SI13-5切ら。10YR3/1黑褐色土。ロームブロック多。黑色土ブロック少             | 土・堆1, 瓦・F3・西?      |
| Pit27 | 次番           |      |        |     |    | F609(第6回)。   |                    |
| Pit28 | H2           | 円形   | 45     | 41  | 48 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒多。炭化物粒・焼土粒少                   | 土・堆16・441, 瓦・西?    |
| Pit29 | H2           | 円形   | 47     | 42  | 33 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒少。炭化物粒・焼土粒少                   | 土・堆6, 瓦・点施塗        |
| Pit30 | H1           | 円形   | 60     | 50  | 56 | SI12-2/3/0に切ら。5層。                                  | 土・堆1, 第3・堆1        |
| Pit32 | H2           | (円形) | 60     | 46  | 24 | 3層。P31(5H2)・4H2・4H3。重複するが新旧關係不明。                   | 土・堆2               |
| Pit33 | H2           | (円形) | 67     | 50  | 36 | P31(5H2)・4H2・4H3。重複するが新旧關係不明。                      | なし                 |
| Pit35 | E2           | 円形?  | 45     | 30  | 24 | 単層。10YR3/2/0黄褐色土。ローム粒・ロームブロック少                     | なし                 |
| Pit36 | E2           | 円形   | 58     | 50  | 32 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒少。土・堆少                        | 土・堆18, 瓦・西?        |
| Pit37 | H2           | 円形   | 57     | 54  | 54 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒少。ロームブロック少                    | 土・堆4, 瓦・环1         |
| Pit38 | H2           | 円形   | 38     | 35  | 30 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒少。土・堆少                        | 土・堆4, 瓦・环1         |
| Pit39 | H1           | 円形   | 35     | 32  | 49 | 単層。10YR3/1/0黄褐色土。ローム粒少                             | なし                 |
| Pit40 | H1           | 円形   | 55     | 44  | 37 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒中。黑色土ブロック少                    | なし                 |
| Pit41 | H1           | 円形   | 50     | 47  | 30 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒多。黑色土ブロック少                    | なし                 |
| Pit42 | H1           | 楕円形  | 50     | 39  | 33 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒少。土・堆少                        | 土・堆1, 瓦・西?         |
| Pit45 | H2           | 楕円形  | 54     | 44  | 49 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒中。燒土粒少                        | 土・堆5               |
| Pit46 | H2           | 楕円形  | 50     | 38  | 56 | SI13-5切ら。9層。10YR2/2開発柱跡。ローム粒少                      | なし                 |
| Pit47 | H1           | 円形   | 50     | 47  | 27 | 単層。10YR3/1黑褐色土。ローム土層。                              | なし                 |
| Pit48 | G1           | (円形) | 36     | 45  | 60 | 8層。柱痕跡なし(第4回)。                                     | なし                 |
| Pit53 | G2           | 円形   | 53     | 47  | 49 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒少。ロームブロック多                    | なし                 |
| Pit54 | G2           | 半円形  | 35     | 47  | 23 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒・ロームブロック少                     | なし                 |
| Pit55 | H2           | 円形   | 75     | 70  | 57 | SK11-6切ら。10H2(第6回)。                                | なし                 |
| Pit57 | G2           | 円形   | 63     | 52  | 47 | SI13-5切ら。4層  | なし                 |
| Pit58 | 次番           |      |        |     |    | F609(第6回)に重複。                                      | なし                 |
| Pit59 | I2           | 円形   | 40     | 38  | 23 | 単層。10YR3/1黑褐色土。ローム粒・ロームブロック少                       | なし                 |
| Pit60 | G1           | 円形   | 50     | 43  | 35 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒少。ロームブロック少                    | なし                 |
| Pit61 | H1-2         | 円形   | 66     | 54  | 21 | SI14-5切ら。単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒・土・堆少                | 土・堆1               |
| Pit62 | H1-2         | 円形   | 45     | 42  | 44 | SI14-5重複。研1-3回。試掘確認後續。単層。10YR3/2/0ローム粒少            | 土・堆2               |
| Pit63 | H2           | 楕円形  | 68     | 54  | 42 | SD06-2/2/0切ら。3層                                    | なし                 |
| Pit65 | H2           | 豊量形  | 55     | 34  | 31 | 単層。10YR3/2/0黄褐色土。ローム粒・ロームブロック少                     | なし                 |
| Pit66 | H1           | 円形   | 53     | 48  | 72 | 6層。  | なし                 |
| Pit67 | H2           | 楕円形  | 43     | 33  | 44 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ロームブロック多。黑色土ブロック少                 | なし                 |
| Pit68 | H1           | 円形   | 35     | 31  | 50 | TF609(第6回)。  | なし                 |
| Pit70 | H1           | 円形   | 35     | 30  | 23 | 単層。10YR4/2/0黄褐色土。ローム粒少                             | なし                 |
| Pit71 | G2           | 円形   | 25     | 22  | 23 | 単層。10YR3/1黑褐色土。ローム粒・ロームブロック少                       | なし                 |
| Pit72 | G2           | 円形   | 55     | 54  | 61 | 6層。  | 土・堆1-1, 壁1         |
| Pit73 | G2           | 円形   | 34     | 33  | 30 | 単層。10YR3/2黑褐色土。ローム粒・ロームブロック多。黑色土ブロック少              | なし                 |
| Pit74 | H1           | 円形   | 32     | 28  | 40 | 単層。10YR4/6/0土上。ローム粒・ロームブロック多                       | 第3・堆1              |
| Pit75 | H1           | 楕円形  | 46     | 30  | 61 | SI14-5切ら。単層。10YR3/2/0黄褐色土。ローム粒・ロームブロック少。黑色土ブロック少   | 土・堆1               |
| Pit77 | G2           | 不規形  | 57     | 45  | 49 | 単層。10YR3/2/0黄褐色土。ローム粒多。ローム粒・ロームブロック少               | 土・堆2               |
| Pit78 | G2           | 円形   | 47     | 40  | 48 | 単層。10YR3/1黑褐色土。ローム粒・ロームブロック少。黑色土ブロック少              | なし                 |
| Pit79 | G2           | 円形   | 38     | 35  | 25 | TF609(第6回)。  | なし                 |
| Pit80 | H1           | (円形) | 72     | 28  | 40 | SI13-5切ら。単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒・ロームブロック少。炭化物粒・焼土粒少  | なし                 |
| Pit81 | H1           | 楕円形  | 45     | 30  | 17 | SI14-5切ら。単層。10YR4/2/0黄褐色土。ローム粒・土・堆少                | なし                 |
| Pit82 | F2           | 楕円形  | 33     | 50  | 40 | 単層。10YR3/2/0黄褐色土。ローム粒上。ローム粒・ロームブロック少。黑色土ブロック少      | なし                 |
| Pit83 | G2           | 円形   | 50     | 44  | 57 | 10YR3/1/0黄褐色土。ローム粒・ロームブロック少。黑色土ブロック少               | なし                 |
| Pit84 | H2           | 楕円形  | 77     | 45  | 63 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒多。ローム粒・ロームブロック少               | 土・堆5, 壁4           |
| Pit85 | H1           | 円形   | 40     | 40  | 7  | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ローム粒多。ローム粒・ロームブロック少               | 土・堆1               |
| Pit86 | H2           | 豊量形  | 62     | 35  | 31 | 単層。10YR3/3/0黄褐色土。ロームブロック中。無土粒無                     | 土・堆1               |
| Pit87 | H1           | 豊量形  | 55     | 35  | 32 | 8層。  | なし                 |
| Pit88 | H2           | 円形   | 45     | 45  | 28 | SK12-2重複。4層。柱痕跡あり(第6回)。                            | 土・堆3               |
| Pit91 | F2           | 楕円形  | 26     | 46  | 50 | SI09-2重複。研1-2回。單層。10YR3/2/0黄褐色土。ローム粒・ロームブロック少      | なし                 |
| Pit93 | G2           | (円形) | 29     | 26  | 55 | SI13-5切ら。単層(第4回)。                                  | なし                 |
| Pit94 | H1           | 円形   | 47     | 44  | 26 | 単層。10YR3/2/0黄褐色土。ローム粒・黑色土ブロック少。燒土粒微                | なし                 |
| Pit95 | F2           | 円形   | 52     | 45  | 17 | 2層。  | なし                 |
| Pit96 | H1           | 円形   | 36     | 35  | 31 | 単層。10YR3/2/0黄褐色土。ローム粒少                             | なし                 |
| Pit97 | F2           | 円形   | 56     | 51  | 28 | SI09-2切ら。4層。SI09-3出当初期窓穴判明。                        | なし                 |

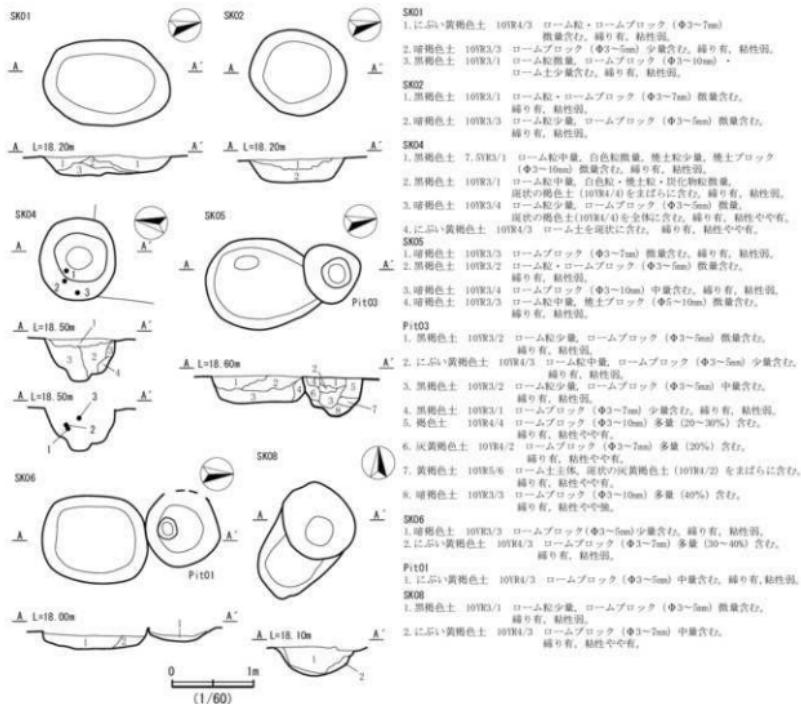
土・石師器 瓦・瓦器部 草木・葉器 面積後の数字は照片枚数を表す。

※部分は緑色枠の状態である。※形状の( )は残存部の寸法の推定である。※埋幅の( )は現存幅を表す。※主な出土遺物の数字は点数を表す。

## (4) 土坑 (第47・48図、第7・8表、写真図版5・12)

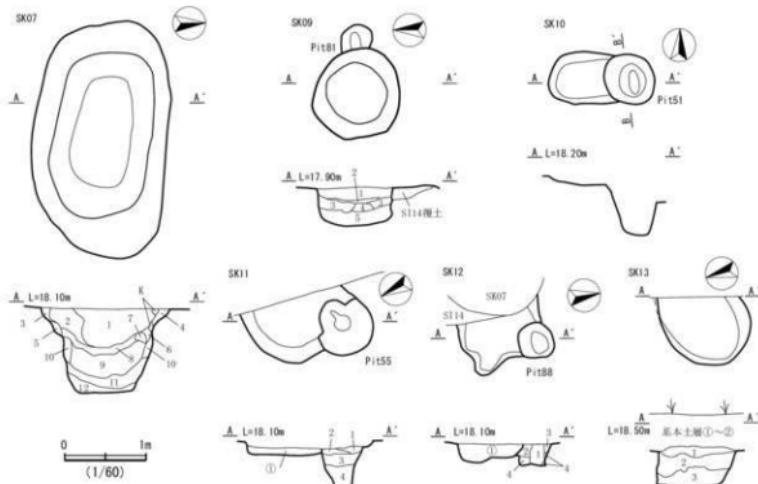
土坑は12基を検出した。SK03は後の調査で井戸跡であることが判明したためここでは除外し後述する。土坑の形態は、円形又は楕円形で、規模は平面形が0.86～0.93m又は1.05～1.58mの範囲に収まり、深さ10～29cm程度の浅いものと33～50cmのものが認められる。その中にあって、SK07は長軸2.89m、短軸1.66m、深さ102cmで、この1基に限って大型である。覆土はほとんどが自然堆積と考えられるが、SK04は柱が抜き取られたような痕跡があり、土坑ではなく柱穴の可能性がある。また、SK09は中間に炭化物が多量に含まれる層が認められ、人為的な堆積を呈している。

遺物は、SK10・11の浅い土坑を除き出土した。SK04では、底部底面が未調整の小皿の部類に入る土師器壺1～3がやまとまって認められ、10世紀後半以降と考えられる。SK07・09では土師器壺・椀を主体として出土し、10世紀代前半に位置づけられるSI14とほぼ同時期であるが、重複関係から10世紀後半以降の所産であろう。それ以外の土坑では小破片のみの出土で時期の特定には至らないが、他の遺構との重複関係がある土坑を見ると、SK08はSK07・09同様SI14の床面を切つて構築されていることから10世紀後半以降に掘り込まれたと考えられる。SK13はSI11を切り、さらに近世陶磁器の小破片が出土していることから、かなり新しい時期の掘り込みと思われる。



第47図 土坑(1)

## 第2節 検出された遺構と遺物



### SK07

1. 黒褐色土 10TR1/2 ローム粒少量。ロームブロック（Φ3~10mm）少量含む。

2. 黒褐色土 10TR1/1 ロームブロック（Φ3~7mm）少量。炭化物塊（Φ5~20mm）中量含む。繊り有。粘性弱。

3. 黒褐色土 10TR1/1 ローム粒少量。ロームブロック（Φ3~5mm）微量含む。繊り有。粘性弱。

4. にぶい黄褐色土 10TR1/3 ロームブロック（Φ5~15mm）中量含む。

5. 緑褐色土 10TR1/3 ロームブロック（Φ3~5mm）多量（20%）含む。

6. 緑褐色土 10TR1/3 ロームブロック（Φ3~5mm）少量含む。

7. 緑褐色土 10TR1/1 灰白色（10TR1/1）粘土層上。繊り有。粘性有。

8. にぶい黄褐色土 10TR1/3 ローム粒少量。ロームブロック（Φ3~15mm）多量含む。繊り有。粘性やや有。

9. 緑褐色土 10TR1/3 ロームブロック（Φ3~5mm）微量含む。繊り有。粘性やや有。

10. 黒褐色土 10TR3/2 ローム粒・ロームブロック（Φ3~10mm）中量含む。

11. 黒褐色土 10TR3/3 ロームブロック（Φ5~15mm）少量含む。繊り有。粘性やや有。

12. 黄褐色土 10TR4/4 ローム粒・ロームブロック（Φ3~10mm）微量含む。繊り有。粘性やや有。

13. 黄褐色土 10TR4/4 黄褐色土（10TR4/3）ロームブロック（Φ3~10mm）微量含む。繊り有。粘性有。

14. 黄褐色土 10TR4/4 ローム土上層。繊り有。粘性有。

15. 黄褐色土 10TR5/2 地盤（10TR5/1）粘土層上・ロームブロック（Φ20~60mm）・

ロームブロック（Φ10~30mm）多量（20%）含む。繊り有。粘性有。

### SK09

1. にぶい黄褐色土 10TR5/4 ローム土上層。繊り有。粘性やや有。

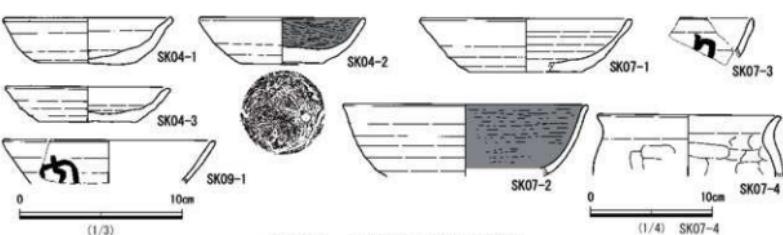
2. 黒褐色土 10TR2/1 灰白色（10TR2/1）粘土層上。繊り有。粘性弱。

3. にぶい黄褐色土 10TR2/3 ローム土上層。繊り有。粘性弱。

4. にぶい黄褐色土 10TR3/4 ローム土上層。繊り有。粘性やや有。

5. 黄褐色土 10TR5/2 地盤（10TR5/1）粘土層上・ロームブロック（Φ20~60mm）・

ロームブロック（Φ10~30mm）多量（20%）含む。繊り有。粘性有。



第48図 土坑(2)・同出土遺物

第7表 土坑一覧表

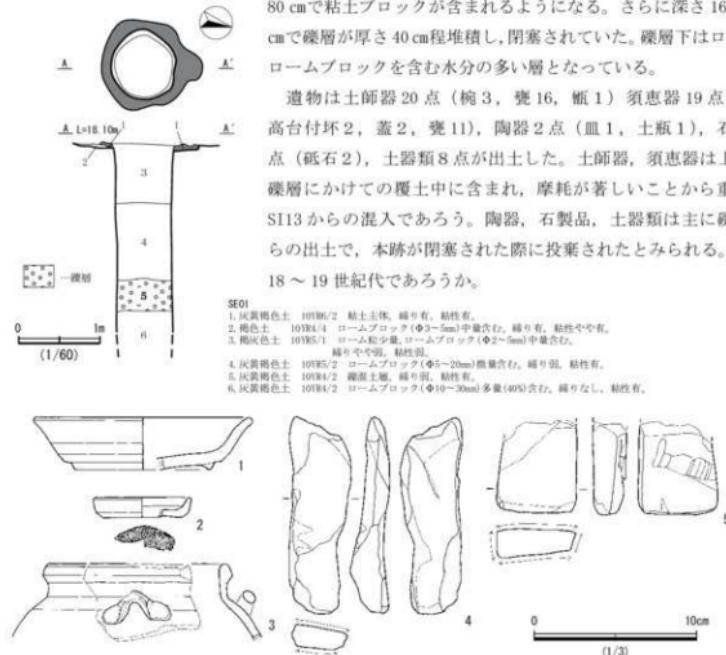
| 遺構名  | 位置<br>(グリッド) | 形状   | 長軸<br>方向 | 規模(cm)  |     |      | 重複・覆土・特徴・その他 | 主な出土遺物            | 備考   |
|------|--------------|--|----------|---------|-----|------|--------------|-------------------|--|
|      |              |  |          | 平面      | 断面  | 長軸   | 切軸           | 深さ                |  |
| SK01 | G1・2         | 円内形  | 楕円状      | N~13°-E | 150 | 105  | 23           | 3層。               | [なし]   |
| SK02 | G1・2         | 円形   | 楕円状      | N~13°-E | 119 | 105  | 29           | 2層。               | [なし]   |
| SK03 | 矢張           | 当SI30として調査し、その後SI01に変更。詳細は第3章第2節(5)SI01参照。 |          |         |     |      |              |                   |  |
| SK04 | D3           | 円形   | 楕円状      | N~90°-E | 105 | 94   | 59           | 4層、ビーハウ           | [土:坪4, 墓1, 墓:坪5]                                   |
| SK05 | D2           | 円内形  | 楕円状      | N~14°-E | 140 | 112  | 33           | Pn03に切られる、4層。     | [土:坪1, 墓:坪2, 高台坪1, 石製品1]                           |
| SK06 | I2           | 開丸方形                                       | 楕円状      | N~7°-E  | 132 | 108  | 25           | 2層、浅い。            | [土:坪1-4, 墓1, 墓:坪5]                                 |
| SK07 | H1-2         | 開丸方形                                       | 楕円状      | N~23°-E | 259 | 166  | 107          | SI14を切る、12層。大型。   | [土:坪17, 墓4, 墓15, 枝2, 墓:坪6, 高台坪3, 石製品1]             |
| SK08 | H1           | 円内形  | 半円状      | N~7°-E  | 144 | 86   | 36           | SI14を切る、2層。       | [土:坪1, 墓1, 墓:坪1]                                   |
| SK09 | H2           | 円形   | 楕円状      | N~24°-W | 115 | 107  | 47           | SI14を切る、5層。炭化層あり。 | [土:坪5, 墓2, 墓:坪1]                                   |
| SK10 | G2           | 円内形  | 楕円状      | N~94°-E | 160 | 62   | 12           | Pn51に切られる、单層。浅い。  | [なし]   |
| SK11 | H2           | (円形)                                       | 楕円状      | N~10°-E | 130 | (75) | 10           | Pn51に切れる、单層。浅い。   | [なし]   |
| SK12 | H2           | 不整形  | 不整形      | N~14°-W | 106 | 65.0 | 22           | Pn88を切る。单層。木棺か。   | [土:墓1]   |
| SK13 | G2           | 円形   | 楕円状      | —       | —   | 93   | (78)         | SI11を切る、4層。       | [土:坪1, 墓10, 墓:坪11, 墓1, 墓2, 陶器類5, 石製品1, 燃製品1, 十字相1] |

## (5) 井戸跡

## SE01 (第49図, 第8・11表, 写真図版5・12)

井戸跡はH1グリッドで検出される。当初、土坑SK03としていたが、調査途中で井戸跡と判明した。SI13の南西隅を切り込み構築されている。形態は円筒形で、規模は径0.87mを測り、深さ230cmまで達した時点で、安全上の問題から掘り下げを断念した。開口部の周囲には、幅15~30cm、厚さ10cm前後の粘土が貼り巡らされていた。覆土は灰黄褐色土主体の含有物の少ない層で、深さ70~80cmで粘土ブロックが含まれるようになる。さらに深さ160~170cmで礫層が厚さ40cm程堆積し、閉塞されていた。礫層下はローム土・ロームブロックを含む水分の多い層となっている。

遺物は土師器20点(椀3, 壺16, 壺1)須恵器19点(坪4, 高台付坪2, 蓋2, 壺11), 陶器2点(皿1, 土瓶1), 石製品2点(砥石2), 土器類8点が出土した。土師器, 須恵器は上層から礫層にかけての覆土中に含まれ、摩耗が著しいことから重複するSI13からの混入であろう。陶器, 石製品, 土器類は主に礫層中からの出土で、本跡が閉塞された際に投棄されたとみられる。時期は18~19世紀代であろう。



第49図 SE01・同出土遺物

## (6) 溝跡

S D O 1 (第 50・51 図, 第 8・10 表,

写真図版 5・12)

検出位置は北区 E 2・3 グリッドで調査区を横断し、東西ともに調査区外に延びている。SI05・06 の南側を切って掘り込まれている。掘り方は底幅が狭く、断面形は V 字状に近い形態である。南壁が底面から上端に向かって 60°～70° の角度で立ち上がるのに対し、北壁は、中断から 30°～40° の角度で緩やかに立ち上がる。当初 SI07 としていたテラス状の平坦面が西壁寄りで検出されたが、隣接地の調査によって堅穴建物跡ではないこ

## SD01 (A-A')

1. 黒褐色土 10YR3/1 ゴミ含む砂層。灰色度がやや強い。繊り有。粘性なし。
2. 黑褐色土 10YR3/2 ローム粘少量。既述の灰黃褐色土 (10YR4/2) をまばらに含む。
3. 灰黃褐色土 10YR4/2 ローム粘少量。繊り有。粘性なし。
4. 黑褐色土 10YR3/2 ローム粘少量。ロームブロック ( $\Phi$ 5～10mm) 少量。
5. 黑褐色土 10YR3/2 ローム粘少量。ロームブロック ( $\Phi$ 3m 前後) 少量含む。
6. 灰褐色土 10YR3/1 ローム粘少量含む。繊り有。粘性なし。
7. 灰黃褐色土 10YR4/2 ローム粘少量。繊り有。粘性弱。
8. 从黃褐色土 10YR4/2 ローム粘少量。既述の褐色土 (10YR4/4) まばらに含む。
9. 褐褐色土 10YR4/1 ローム粘少量。ロームブロック ( $\Phi$ 5～15mm) 中量含む。
10. 黑褐色土 10YR3/1 ローム粘・ロームブロック ( $\Phi$ 5～30mm) 少量含む。
11. 黑褐色土 10YR2/1 ローム粘多量 (10%)。ロームブロック ( $\Phi$ 5～7mm) 少量含む。
12. 黑褐色土 10YR3/1 ローム粘少量。ロームブロック ( $\Phi$ 5～10mm) 中量含む。
13. 黑褐色土 10YR3/2 ローム粘少量。ロームブロック ( $\Phi$ 3～10mm) 中量含む。
14. 塗褐色土 10YR3/1 ローム粘・ロームブロック ( $\Phi$ 3～7mm) 中量含む。
15. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粘・ロームブロック ( $\Phi$ 5～10mm) 多量 (20%) 含む。
16. 黑褐色土 10YR2/2 ローム粘少量。黄色土少量含む。繊りや少弱。粘性有。
17. にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粘・ロームブロック ( $\Phi$ 5～15mm) 多量 (20～30%) 含む。
18. にぶい黄褐色土 10YR5/1 ローム土混入。黄色土・同ブロック ( $\Phi$ 3～10mm) 多量 (10%) 含む。繊り弱。粘性有。
19. 黑褐色土 10YR3/2 ローム粘中量。ロームブロック ( $\Phi$ 3～7mm) 少量含む。
20. 既述の褐色土 (10YR4/4) を全体に含む。繊り有。粘性弱。

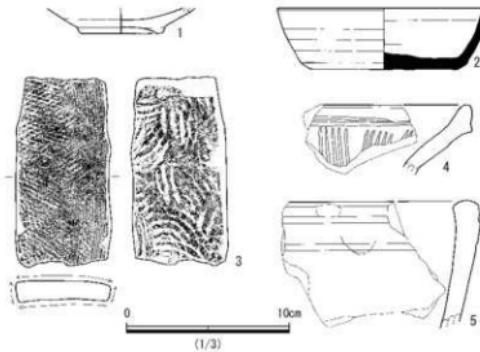
## SD01 (B-B')

1. 黑褐色土 10YR3/1 ローム粘少量。既述の灰黃褐色土 (10YR4/2) まばらに含む。繊り有。粘性弱。
2. 黑褐色土 10YR3/2 ローム粘少量含む。繊り有。粘性なし。
3. 黄褐色土 10YR3/2 ローム粘少量含む。繊り有。粘性なし。
4. 黑褐色土 10YR2/2 ローム粘少量。既述の灰黃褐色土 (10YR4/2) 全量に含む。繊り有。粘性弱。
5. 黑褐色土 10YR3/2 ローム粘・ロームブロック ( $\Phi$ 3～10mm) 少量含む。
6. 褐色土 10YR4/2 白い砂粘少量。灰黃褐色土 (10YR4/2) 多量 (40%) 含む。繊り弱。粘性弱。
7. 黑褐色土 10YR3/1 ローム粘少量。ロームブロック ( $\Phi$ 3～5mm) 略含む。繊り有。粘性弱。
8. にぶい黄褐色土 10YR4/3 灰黃褐色土 (10YR4/2) 混入。ロームブロック ( $\Phi$ 3～7mm) 少量含む。繊り有。粘性弱。
9. 黑褐色土 10YR2/1 ローム粘・ロームブロック ( $\Phi$ 3～7mm) 少量含む。
10. 黑褐色土 10YR3/1 ローム粘中量。ロームブロック ( $\Phi$ 3～7mm) 少量含む。繊り有。粘性弱。
11. 塗褐色土 10YR3/1 ロームブロック ( $\Phi$ 3～15mm) 多量 (10%) 含む。
12. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ローム粘・ロームブロック ( $\Phi$ 3～15mm) 多量 (10%) 含む。
13. 黑褐色土 10YR5/6 ローム土主張。褐色土少量含む。繊りや少弱。粘性有。
14. にぶい黄褐色土 10YR5/3 ローム粘・ロームブロック ( $\Phi$ 3～20mm) 多量 (20～30%) 含む。繊り弱。粘性弱。
15. 黄褐色土 10YR5/6 ローム土主張。灰黃褐色土 (10YR4/2) ブロック ( $\Phi$ 3～5mm) 少量含む。繊りや少弱。粘性弱。
16. にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム土主張。黄色土・同ブロック ( $\Phi$ 3～10mm) 多量 (10%) 含む。繊り弱。粘性弱。

第 50 図 SD01

とが判明している。規模は現存値の長さが 9.92 m, 上端部の最大幅 4.22 m, 下端の最大幅 0.50 m, 深さ 132 ~ 138 cm である。走行方向は N - 85° - W を示す。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積を呈し、両壁際及び底直上付近はローム土やロームブロックを多量に含むしまりの弱い層が堆積していた。

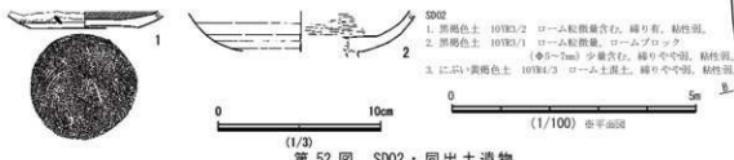
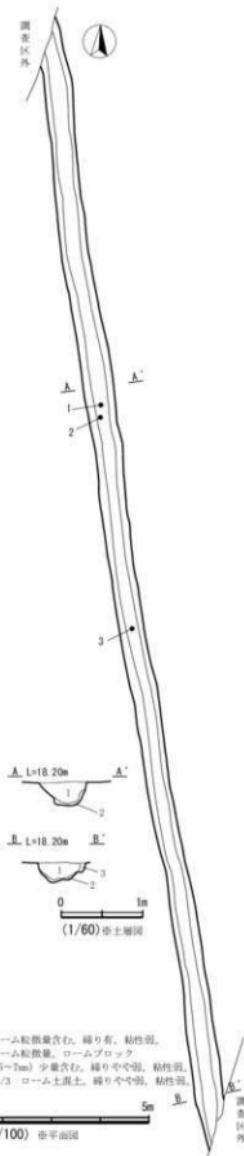
遺物は土師器 29 点（坪 4, 楠 3, 壺 16, 鉢 6）, 須恵器 77 点（坪 33, 高台付坪 6, 盆 2, 蓋 3, 壺 23, 鉢 4, 壺・瓶類 4, 高坪 2）, 陶器 1 点（擂鉢 1）, 土器類 2 点（火鉢 1, 焙烙 1）が出土した。遺物のほとんどは上層部からの出土で新旧遺物が混在している。時期は, SI05 や隣接地調査における SD02 の重複関係から 10 世紀代後半以降の構築であると考えられる。



第 51 図 SD01 出土遺物

## SD02 (第 52 図, 第 8 表, 写真図版 12)

検出位置は北区 F 2, G 2, H 2 グリッドにまたがる。北西側及び南東側ともに調査区外に延びている。SI08・13・16 を切って掘り込まれている。掘り方は断面形が半円状である。規模は現存値の長さが 22.50 m, 上端部の最大幅 0.46 m, 下端の最大幅 0.28 m, 深さ 24 ~ 28 cm である。走行方向は N - 10° - W を示し、覆土は黒褐色土を主体とするが、底直上はローム土を多量に含むしまりのやや弱い層が認められた。



第 52 図 SD02・同出土遺物

遺物は、土師器 25 点（壺 2、楕 3、甕 20）、須恵器 24 点（壺 7、高台付壺 4、盤 1、甕 8、壺・瓶類 2、高壺 2）が出土した。須恵器は小破片のみで、ほとんどが SI13 を切った地点で認められるため、混入した可能性がある。1 の手部底面が回転糸切り後未調整の土師器壺、2 の高台部が内側に付く楕、さらに重複遺構の新旧関係から、時期は 10 世紀第 3 四半期以降と考えられる。

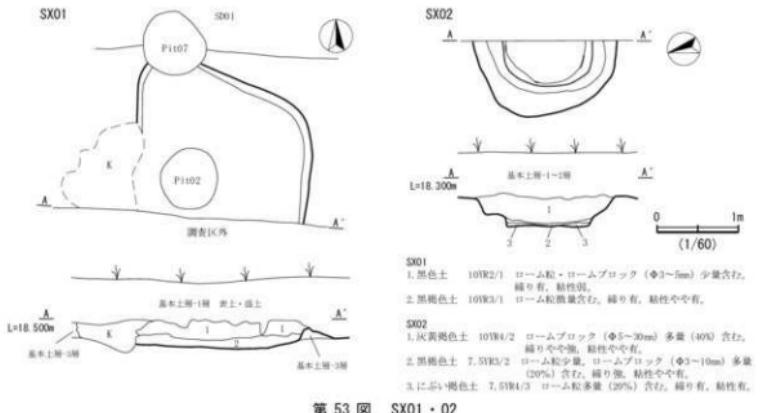
#### （7）性格不明遺構

##### SX01 (第 53 図、写真図版 4)

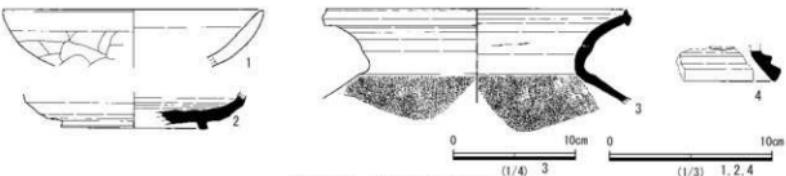
検出位置は E 2 グリッドである。SB01・Pit02・07 に切られ、南側は調査区外になるため全容は不明である。形態は不整形で、規模は東西軸が 2.16 m、南北軸が現存値で 1.87 m、深さは 15 cm 程の堅穴状遺構である。覆土は黒色土の単層である。遺物は、土師器 7 点（甕 7）、須恵器 3 点（壺 2、甕 1）、土製品 1 点（支柱 1）が出土した。いずれも小破片のため時期は不明瞭であるが、SB01 より古い 8 世紀代以前と考えられる。

##### SX02 (第 53 図、写真図版 5)

検出位置は G 2 グリッドである。東側半分が調査区外になるため全容は不明であるが、形態は円形で規模は径 1.75 cm 前後とみられる。深さは 34 cm で擂鉢状の断面形態をとり、底面直上では垂直に掘り込まれ、円筒状を呈する。壁際の一部で硬化面が検出されており、覆土は灰黄褐色土が主体で、底面では黒褐色土、褐色土が互層に薄く堆積する。遺物は出土せず、時期は判然としない。（高野）



第 53 図 SX01・02



第 54 図 遺構外出土遺物

### 第3章 調査の成果

第8表 出土遺物観察表（土器）

| 遺物番号 | 図面番号 | 種類<br>器種 | 口径<br>深さ<br>底径        | 部位・残存率・製作技法・その他の特徴  | 粘土                | 色調<br>(外底・内面)                   | 焼成       | 備考                    |
|------|------|----------|-----------------------|---|-------------------|---------------------------------|----------|-----------------------|
| SI01 | 1    | 弥生<br>縦  | (2.5)<br>—            | 口縁部片、複合口縁。口部に圓文を施文。複合部下端を指頭押<br>圧。頭部付加条第1種圓文(1R+2R)を施文。   | 透明砂粒、砂粒、針状物       | 7.5YR4/4にぶい青<br>7.5YR4/2H褐色     | 普通       |                       |
| SI01 | 2    | 弥生<br>縦  | (1.7)<br>—            | 口縁部片、複合口縁。口部に圓文を施文。複合部下端を指頭押<br>圧。  | 砂粒、針状物            | 5W4/3にぶい赤褐色                     | 普通       |                       |
| SI01 | 3    | 弥生<br>縦  | (2.1)<br>—            | 頭部片。2本単位の施文により波状文を施す。   | 砂粒多、針状物           | 3W4/6赤褐色<br>7.5YR4/4褐色          | 普通       | 後期後半                  |
| SI01 | 4    | 弥生<br>縦  | (1.7)<br>—            | 頭部片。2本単位の施文により、下向き（底の位置が下辺にある）の連弧文と横文。  | 透明砂粒              | 10YR2/2黒褐色                      | 普通       |                       |
| SI01 | 5    | 弥生<br>縦  | (2.6)<br>—            | 頭部片。2本単位の施文による横文、縦文。下辺には竹<br>管文を模方向に施す。   | 白色砂粒、針状物          | 7.5YR4/2H褐色                     | 普通       |                       |
| SI01 | 6    | 弥生<br>縦  | (2.4)<br>—            | 頭部片。2本単位の施文による縦区画文。   | 白色砂粒、砂纖           | 7.5YR7/6褐色<br>10YR6/3にぶい黃褐色     | 普通       |                       |
| SI01 | 7    | 弥生<br>縦  | (2.5)<br>—            | 口縁部片。口部に圓文を施文。口縁部底面下に指頭押圧を加えた<br>隆脊を模様させる。頭部は細巻状工具による波状文。   | 砂粒多、砂纖            | 5W5/6明赤褐色                       | 普通       |                       |
| SI01 | 8    | 弥生<br>縦  | (2.1)<br>—            | 頭部片、細巻状工具により縦方向の文様を施す。  | 透明砂粒、砂纖           | 5W3/1黒褐色<br>5W5/6赤褐色            | 普通       |                       |
| SI01 | 9    | 弥生<br>縦  | (5.3)<br>—            | 頭部～頭部片。頭部は2本単位の細巻状工具による波状の網目文<br>を模様。頭部は付加条第1種圓文(1R+2R)を施文。   | 透明砂粒、針状物          | 7.5YR3/1黒褐色<br>7.5YR3/2黒褐色      | 普通       | 後期後半<br>植木方面の<br>購入品か |
| SI01 | 10   | 弥生<br>縦  | (2.5)<br>—            | 頭部片、無鉛、圓文を施文。   | 砂粒、黑色粒            | 5W5/4にぶい赤褐色<br>5W5/6赤褐色         | やや<br>良好 |                       |
| SI01 | 11   | 弥生<br>縦  | (3.8)<br>—            | 頭部片、付加条第1種圓文(1R+2R)を施文。   | 白色砂纖多             | 5W5/3にぶい赤褐色<br>5W3/1黒褐色         | 普通       |                       |
| SI01 | 12   | 弥生<br>縦  | (3.6)<br>—            | 頭部片、付加条文(区のZ巻・輪不明)を施文。  | 透明砂粒、砂粒、針状物<br>微  | 5W4/3にぶい黒褐色<br>7.5YR5/3にぶい褐色    | 普通       |                       |
| SI01 | 13   | 弥生<br>縦  | (5.3)<br>—            | 頭部片、付加条第1種圓文(1R+2R)を施文。   | 藍母、白色砂纖、針状物<br>多  | 7.5YR5/6明褐色<br>5W5/6赤褐色         | 普通       |                       |
| SI01 | 14   | 弥生<br>縦  | (2.4)<br>—            | 頭部片、付加条第2種圓文が区のS巻・輪不明跡を施文。  | 透明砂粒、砂粒           | 7.5YR3/1黒褐色                     | 普通       | 後期後半                  |
| SI01 | 15   | 弥生<br>縦  | (7.0)<br>7.0          | 頭部～底部片。頭部は付加条第1種圓文(1R+2R)を施文。底部底<br>面に布目紋。  | 砂粒、砂纖多            | 7.5YR2/2黒褐色<br>7.5YR5/4にぶい褐色    | 普通       |                       |
| SI01 | 16   | 弥生<br>縦  | (2.7)<br>(8.0)        | 頭部～底部片。頭部は平筋圓文で下端は無文。底部底面は木葉<br>紋。  | 白色砂粒、砂纖、針状物       | 7.5YR4/2黒褐色<br>5W5/4にぶい赤褐色      | 普通       |                       |
| SI01 | 17   | 弥生<br>縦  | (2.5)<br>(7.0)        | 頭部～底部片。頭部は付加条第2種(1R+1R)を施文。下端は無文。<br>底部底面は木葉紋。  | 砂粒、透明砂纖少          | 5W5/6明赤褐色<br>7.5YR2/1黑褐色        | 普通       | 後期後半                  |
| SI02 | 1    | 弥生<br>縦  | (15.0)<br>(10.0)<br>— | 口縫部～頭部片(=20%弱)。口縫部は複合口縫。口縫部は2本単位の<br>圓文を施文。複合口縫1端を押す。頭部は2本単位の施文により下<br>向(底の位置が下辺にくる)の連弧文。頭部は付加条第1種圓<br>文(1R+2R)を施文。 | 透明砂粒、白色粒、針状物      | 7.5YR5/3にぶい褐色<br>7.5YR3/1黒褐色    | 普通       |                       |
| SI02 | 2    | 弥生<br>縦  | (8.0)<br>—            | 口縫～頭部片。複合口縫。口縫部に無鉛Rを施文。複合口縫<br>R端は頭部押圧。頭部2本単位の施文による波状文。   | 白色粒、角閃石、碧玉粒       | 7.5YR6/4にぶい褐色<br>7.5YR6/4にぶい黃褐色 | 普通       |                       |
| SI02 | 3    | 弥生<br>縦  | (13.0)<br>(10.0)<br>— | 口縫部～頭部片。複合口縫。口縫部に無鉛Rを施文。複合口縫<br>R端は頭部押圧。頭部2本単位の施文による波状文。  | 透明砂粒、砂纖少、針状物<br>多 | 5W4/4にぶい赤褐色<br>10YR5/4にぶい黃褐色    | 普通       |                       |
| SI02 | 4    | 弥生<br>高环 | (17.0)<br>(1.0)<br>—  | 口縫部～頭部片。複合口縫。口縫部はヘラ式工具による細かい牛<br>乳頭を施す。複合口縫下端は指頭押圧。頭部は無文。   | 白色粒、赤色スコリア微<br>粒  | 10YR5/3にぶい黃褐色                   | 普通       |                       |
| SI02 | 5    | 弥生<br>縦  | (—)<br>(3.3)          | 口縫部～頭部片。複合口縫。口縫部は無筋圓文を施文。複合部<br>下端は無筋圓文を施文。   | 透明砂粒、砂纖           | 5W2/1黒褐色<br>7.5YR4/2褐色          | 普通       |                       |
| SI02 | 6    | 弥生<br>縦  | (—)<br>(2.6)          | 口縫部片、複合口縫。口縫部は無筋圓文を施文。複合部   | 透明砂粒、砂粒           | 5W3/4にぶい黃褐色                     | 普通       |                       |
| SI02 | 7    | 弥生<br>縦  | (—)<br>(3.7)          | 口縫～頭部片。複合口縫。口縫部は無筋圓文を施文。複合部下<br>端は指頭押圧。頭部は單頭圓文を施文。  | 透明砂粒、砂粒           | 7.5YR4/2H褐色                     | 普通       |                       |
| SI02 | 8    | 弥生<br>縦  | (—)<br>(3.1)          | 口縫～頭部片。複合口縫。口縫部は2本単位の圓文を施文。口縫部底<br>下に指頭押圧を施した隆脊を施す。頭部は付加条第1種圓文<br>(1R+2R)を施文。                                       | 藍母、砂纖、針状物         | 10YR4/2黒褐色<br>7.5YR4/3褐色        | 普通       |                       |
| SI02 | 9    | 弥生<br>縦  | (—)<br>(3.6)          | 口縫～頭部片。複合口縫。口縫部は無筋圓文を施文。口縫部底<br>下に指頭押圧を施した隆脊を施す。頭部は付加条第1種圓文<br>(1R+2R)を施文。  | 透明砂粒、砂纖、針状物       | 7.5YR4/2H褐色<br>7.5YR3/2H褐色      | 普通       |                       |

## 第2節 検出された遺構と遺物

| 遺構番号 | 画面番号 | 種類<br>記述 | 口縁<br>深さ<br>底径   | 部位・残存率・製作技術・その他特徴   | 胎土                    | 色調<br>(外面/内面)                  | 焼成       | 備考 |
|------|------|----------|------------------|---|-----------------------|--------------------------------|----------|----|
| S102 | 10   | 先生<br>皿  | —<br>(1, 7)      | 口縁部。複合口縁。口唇部から口縁部にかけて單刃R彫文を施文。  | 透明砂粒、砂粒多              | SIYK3/24#赤褐色<br>SIYK1/黒褐色      | 普通       |    |
| S102 | 11   | 先生<br>皿  | (2, 4)<br>—      | 側面部。2本単位の施文具による施文状。   | 砂粒、針状物                | 10YR5/4にぶい黄褐色<br>10YR1/黒褐色     | 普通       |    |
| S102 | 12   | 先生<br>皿  | (3, 4)<br>—      | 側面部。3本単位の施文具による下向き（弦の位置が下に向く）の施文状。  | 透明砂粒、針状物多             | 7.5YR4/24K褐色<br>7.5YR3/1黒褐色    | 普通       |    |
| S102 | 13   | 先生<br>皿  | (3, 9)<br>—      | 側面部。上部は2本単位の施文具による波状文と模様文、下部は单刃R彫文を施文。  | 砂粒多、白色粒               | 10YR5/3にぶい黄褐色<br>10YR4/24K褐色   | 普通       |    |
| S102 | 14   | 先生<br>皿  | (4, 0)<br>—      | 側面部。3本単位の施文具により縱走文を施文後、左上～右下～右上～左下の順で格子状文を施文。   | 砂粒、白色粒少               | 10YR8/4にぶい黄褐色                  | 普通       |    |
| S102 | 15   | 先生<br>皿  | (3, 6)<br>—      | 側面部。3本単位の施文具により横走文を施文後、左上～右下～右上～左下の順で格子状文を施文。   | 砂粒                    | 10YR7/3にぶい黄褐色<br>10YR6/3にぶい黄褐色 | 普通       |    |
| S102 | 16   | 先生<br>皿  | (4, 9)<br>—      | 側面部。2本単位の施文具により横走文と縱走文。縦走文上部重複文化施文。縱走文端部で竹管文を施文。全体に尋常の底筋あり。   | 砂粒、白色粒                | 7.5YR3/3にぶい褐色<br>7.5YR5/6明褐色   | やや<br>良好 |    |
| S102 | 17   | 先生<br>皿  | (3, 3)<br>—      | 側面部。3本単位の施文具により左上～右下～右上～左下を交互に左方向へ順に施文。   | 白色粒                   | 7.5YR3/2黒褐色                    | 普通       |    |
| S102 | 18   | 先生<br>皿  | (11, 8)<br>—     | 側面部。3本単位の施文具により横走文を施文後、上向き（弦の位置が上に向く）と下向き（弦の位置が下に向く）の施文状。外付側を折りせる。側面部は上部を無頭R彫文、中段以下を付加第1種彫文(1R-1)を施文。               | 雲母、砂粒多、白色砂<br>粒、針状物多  | SIYR4/6赤褐色                     | 普通       |    |
| S102 | 19   | 先生<br>皿  | (9, 6)<br>—      | 側面部。側面部。上部は3本単位の施文具により横走文で区画後、上部は波状文。下部は单刃R彫文を施文。   | 砂粒、砂礫、白色粒             | 10YR6/3にぶい黄褐色<br>10YR6/3にぶい黄褐色 | 普通       |    |
| S102 | 20   | 先生<br>皿  | (12, 6)<br>—     | 側面部。3本単位の施文具により横走文で区画後。上部は波状文を施した後下向き（弦の位置が下に向く）の内側部を横走文し、下部は付加第1種彫文(1R-2R)を施文後、上部の施文状をほぼ側面部の最大径付近まで削り下させたものを4単位施す。 | 雲母、白色砂粒、針状物多          | 7.5YR4/24K褐色<br>7.5YR7/6褐色     | 普通       |    |
| S102 | 21   | 先生<br>皿  | (17, 6)<br>—     | 側面部。付加第1種彫文(1R-2R)を施文。  | 透明砂粒、白色粒、砂礫           | 10YR1/1黒褐色<br>7.5YR6/6褐色       | 普通       |    |
| S102 | 22   | 先生<br>皿  | (13, 6)<br>—     | 側面部。付加第1種彫文(1R-2R)を施文。  | 砂粒、针状物                | 2.5YR4/4にぶい赤褐色<br>7.5YR4/24K褐色 | 普通       |    |
| S102 | 23   | 先生<br>皿  | (6, 8)<br>—      | 側面部。單刃R彫文を施文後、3本単位の施文具により横走文で区画し、上部にはスリット状の網状文を施す。  | 砂粒、白色粒、针状物            | 10YR4/3にぶい黄褐色                  | 普通       |    |
| S102 | 24   | 先生<br>皿  | (14, 4)<br>13, 4 | 側面部～底部片。側面部は付加第1種彫文(1R-2R)を施文。底部底面は木葉痕。   | 雲母、砂粒、白色粒、砂<br>礫、针状物多 | SIYR4/6赤褐色<br>10YR6/4にぶい黄褐色    | 普通       |    |
| S102 | 25   | 先生<br>皿  | (16, 2)<br>8, 6  | 側面部～底部片。側面部は付加第1種彫文(1R-2R)を多方向に施文。底部底面は底気泡で底面は木葉痕。  | 雲母、砂粒多、砂礫、针状物         | SIYR5/4にぶい赤褐色<br>SIYR5/4にぶい赤褐色 | 普通       |    |
| S102 | 26   | 先生<br>皿  | (10, 5)<br>11, 0 | 側面部～底部片。側面部は付加第1種彫文(1R-2R)を施文。底部底面は目皿。  | 砂礫多                   | SIYR4/6赤褐色                     | 普通       |    |
| S102 | 27   | 先生<br>皿  | (7, 6)<br>8, 0   | 側面部～底部片。側面部は付加第1種彫文(1R-2R)を施文。底部底面は木葉痕。   | 雲母微、白色粒、砂粒            | SIYR5/4にぶい赤褐色<br>10YR3/2黒褐色    | 普通       |    |
| S102 | 28   | 先生<br>皿  | (4, 5)<br>7, 0   | 側面部～底部片。側面部は付加第1種彫文(1R-2R)を施文。底部底面は木葉痕。   | 砂粒多、砂礫                | 10YR6/3にぶい黄褐色<br>10YR5/4にぶい黄褐色 | 普通       |    |
| S102 | 29   | 先生<br>皿  | (9, 5)<br>7, 0   | 側面部～底部片。側面部は付加第1種彫文(1R-2R)を施文。底部底面は木葉痕。   | 白色粒、针状物微              | SIYR4/6赤褐色<br>10YR6/3にぶい黄褐色    | 普通       |    |
| S102 | 30   | 先生<br>皿  | (5, 0)<br>7, 5   | 側面部～底部片。側面部は施文される彫文原体が不明瞭であるが、下端部は付加第1種彫文(1R-2R)を施文。底部底面は木葉痕。   | 白色粒、砂粒多、针状物<br>微      | SIYR5/4にぶい赤褐色<br>SIYR1/8赤褐色    | 普通       |    |
| S102 | 31   | 先生<br>皿  | (3, 5)<br>6, 6   | 側面部～底部片。側面部は付加第1種彫文(1R-2R)を施文。側面部下端は底部と接合後ナメ。底部底面は木葉痕。  | 砂粒、针状物                | SIYR5/4にぶい赤褐色<br>SIYR5/4明赤褐色   | 普通       |    |
| S102 | 32   | 先生<br>皿  | (5, 9)<br>(6, 0) | 側面部～底部片。側面部は付加第1種彫文(0.2×1.2)を施文。底部底面は木葉痕。   | 白色粒、角閃石、鈣长石           | 7.5YR6/6明褐色<br>7.5YR5/4にぶい赤褐色  | 普通       |    |
| S102 | 33   | 先生<br>皿  | (4, 6)<br>(6, 0) | 側面部～底部片。側面部は付加第1種彫文(0.2×1.2)を施文。底部底面は木葉痕。   | 透明砂粒、砂礫少、针状<br>物微     | SIYR3/1黒褐色<br>SIYR2/1黒褐色       | 普通       |    |
| S102 | 34   | 先生<br>皿  | (2, 7)<br>(7, 0) | 側面部～底部片。側面部は3本単位の施文具により側面部下端は横方に向く後腹版方向に施文。底部底面は木葉痕。  | 透明砂粒、白色粒              | 2.5YR4/6赤褐色<br>10YR5/4にぶい黄褐色   | 普通       |    |

### 第3章 調査の成果

| 遺構番号 | 図面番号 | 種類<br>器種    | 口径<br>底径             | 部位・残存率・製作方法・その特徴   | 胎土                   | 色調<br>(外側/内面)                    | 焼成       | 備考 |
|------|------|-------------|----------------------|--|----------------------|----------------------------------|----------|----|
| SI02 | 35   | 弥生<br>壺     | —<br>(6.5)<br>7.0    | 脚部～底面部、脚部は付加条第1種調文(左記)で、施文後に脚部中央部まで3本同時に施文具による網状文が重ねず。底部底面は本垂型。  | 黄母少、砂粒多、針状物多         | 2. SYB6/4にぶい赤褐色<br>SYB5/6灰褐色     | 普通       |    |
| SI02 | 36   | 弥生<br>壺     | (3.5)<br>9.0         | 脚部～底面部、脚部は付加条第1種調文(左記)で、施文。脚部下端は單把網調文を施文後ヨコナザ、底部底面は布目模。          | 砂粒、白色粒               | 10YR6/4にぶい黄褐色<br>7. SYB6/4にぶい黄褐色 | 普通       |    |
| SI03 | 1    | 須恵器<br>壺    | (13.2)<br>5.0<br>8.0 | 70%存、ロクロ成形、底部底面は回転ヘタ切り後ナデで、直線状のヘタ書き。二次底面部あり。                     | チャート、白色粒、黑色粒、針状物     | 2. SYB8/1黄灰<br>SYB6/1灰           | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 2    | 須恵器<br>壺    | (2.6)<br>8.0         | 20%存、底部底面はラフ状工具によるナデ後、棒状工具によるまばらなミガキ、墨書き「正朱」あり。                  | チャート、白色砂礫、透明白砂粒、針状物  | 2. SYT/1黄白<br>SYB6/2灰オーラープ       | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 3    | 須恵器<br>壺    | (3.0)<br>7.4         | 60%存、全体～底部、底部底面は回転ヘタケズリ。   | 砂粒、白色・透明白砂粒          | 2. SYB8/1灰白                      | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 4    | 須恵器<br>壺    | (12.0)<br>4.4<br>8.2 | 40~50%存、ロクロ成形、底部底面はラフ状工具によるナデ後、棒状工具によるまばらなミガキ、二次底面部あり。           | チャート、白色砂礫、黑色粒、针状物    | SYB5/1灰<br>SYB6/1灰               | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 5    | 須恵器<br>壺    | (1.6)<br>(9.0)       | 全体～底面部、ロクロ成形、底部底面は回転ヘタケズリ。                                       | 白色粒、黑色粒              | 2. SYB5/1黄灰<br>2. SYB6/1黄灰       | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 6    | 須恵器<br>高台付壺 | (19.6)<br>(5.7)      | 口縁部～底面部、ロクロ成形、外面全体に自然輪がかかる。                                      | チャート、白色砂礫、黑色粒多       | SYB5/2灰オーラープ<br>SYB6/1灰          | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 7    | 須恵器<br>高台付壺 | (4.0)<br>(9.6)       | 20~30%存、全体～底面部、ロクロ成形、底部底面は回転ヘタケズリ、高台部は貼り付け後ナデ。                   | チャート、白色砂礫、针状物        | SYB1/2オーラープ黒<br>NS/1灰            | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 8    | 須恵器<br>高台付壺 | (3.2)<br>9.0         | 90~60%存、ロクロ成形、体表面外輪は自然輪がかかる。底部底面はロクロナザ、他成形後「X」のヘタ書き。高台部は貼り付け後ナデ。 | チャート、白色砂礫多、黑色粒、针状物   | SYB1/2オーラープ黒<br>NS/1灰            | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 9    | 須恵器<br>高台付壺 | 11.2<br>(5.0)<br>7.4 | 80~90%存、ロクロ成形、体表面外輪は自然輪がかかる。底部底面は回転ヘタ切り後、未焼成、高台部は貼り付け後ナデ。        | チャート、白色粒、白色砂粒、针状物    | SYB1/2オーラープ黒<br>10YR5/1灰灰        | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 10   | 須恵器<br>高台付壺 | —<br>(3.5)<br>6.8    | 50~60%存、全体～底面部、ロクロ成形、体表面外輪一部自然輪がかかる。底部底面はロクロナザ、他成形後貼り付け後ナデ。      | チャート、白色砂礫、针状物        | NA/<br>NS/<br>NS/1灰              | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 11   | 須恵器<br>高台付壺 | —<br>(3.2)<br>7.0    | 50~60%存、全体～底面部、ロクロ成形、体表面外輪一部自然輪がかかる。底部底面はロクロナザ、高台部は貼り付け後ナデ。      | チャート、白色砂礫、黑色粒多、针状物少  | NA/<br>NS/<br>NS/1灰              | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 12   | 須恵器<br>壺    | (19.0)<br>(3.20)     | 天井部～ロ縁部分、ロクロ成形、天井部は回転ヘタケズリ。ロ縁部は下方へ垂させナデ。                         | チャート少、白色砂礫、黑色粒、针状物少  | 10YR6/1灰                         | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 13   | 須恵器<br>壺    | (17.0)<br>(2.4)<br>— | 体縁部～ロ縁部分、ロクロ成形、天井部は回転ヘタケズリ。ロ縁部は下方へ垂させナデ。                         | 白色砂礫、针状物             | NS/<br>NS/<br>NS/1灰              | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 14   | 須恵器<br>高杯   | —<br>(9.6)<br>(15.0) | 脚部、ロクロ成形、透かしあり。後縁部は下方へ垂させナデ。                                     | 白色粒、白色砂礫、针状物         | NA/<br>NS/<br>NS/1灰              | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 15   | 須恵器<br>高杯   | —<br>(2.0)<br>(15.6) | 脚部片、ロクロ成形、透かしあり。後縁部は下方へ垂させナデ。                                    | 白色砂礫、针状物             | 10YR5/1灰                         | 良好<br>堅膜 |    |
| SI03 | 16   | 土師器<br>壺    | (23.8)<br>(5.5)<br>— | 口縁部～脚部内面、外輪ともにヨコナザ。脚部には輪縁模様が残る。脚部は外輪がナダ、内面がヘタ。                   | 雪母、白色・透明白砂粒          | 10YR6/3にぶい黄褐色<br>10YR6/4にぶい黄褐色   | 普通       |    |
| SI03 | 17   | 土師器<br>壺    | (25.0)<br>(9.1)<br>— | 口縁部～脚部内面、外輪ともにヨコナザで輪縁模様の段が残る。脚部は内外輪ともにナダ。                        | 白色砂粒、针状物             | 5YR4/8赤褐色<br>5YR4/6赤褐色           | やや<br>良好 |    |
| SI04 | 1    | 土師器<br>壺    | (11.0)<br>2.4<br>6.0 | 80%存、ロクロ成形、底部底面は回転ヘタ切り後調整。内面は盛状の付着物が多量に残る。                       | 砂粒多、白色粒、白色砂礫、针状物少    | 10YR6/4にぶい黄褐色<br>10YR4/2灰黄褐色     | 普通       |    |
| SI04 | 2    | 土師器<br>壺    | (13.7)<br>(3.0)<br>— | 20%存、口縁～脚部、ロクロ成形。  | 白色砂礫、灰白色砂礫、角閃石・輝石・鈍石 | 10YR7/4にぶい黄褐色<br>10YR6/3にぶい黄褐色   | 普通       |    |
| SI04 | 3    | 土師器<br>壺    | —<br>(3.2)<br>7.0    | —  | 透明砂粒、灰白色砂粒、针状物       | 5YR5/3にぶい赤褐色                     | 普通       |    |
| SI05 | 1    | 土師器<br>壺    | (12.0)<br>(2.2)<br>— | 口縁部片、ロクロ成形、内面は黒色処理後横方向の密なミガキ。内面方向は不鮮明。                           | 白色砂粒、灰白色砂粒多          | 7. SYB7/3にぶい相                    | 普通       |    |
| SI05 | 2    | 土師器<br>壺    | —<br>(1.6)<br>(6.6)  | 体縁部～底面部、ロクロ成形、底部底面はナダ。   | 白色砂粒、透明白砂粒、赤色スコリア    | 7. SYB6/3にぶい相                    | やや<br>良好 |    |
| SI05 | 3    | 土師器<br>壺    | —<br>(1.6)<br>(8.0)  | 脚部～底面部、ロクロ成形、脚部下端に墨書き「口」あり。底部底面はナダが、内面は黒色処理で剥離観。                 | 白色砂粒、灰白色砂粒           | 10YR8/4浅黃褐色                      | 普通       |    |

## 第2節 検出された遺構と遺物

| 遺構番号 | 画面番号 | 種類<br>記録         | 口径<br>器高<br>底径         | 部位・残存率・製作技法・その他特徴  | 粘土                         | 色調<br>(外面/内面)                | 焼成       | 備考 |
|------|------|------------------|------------------------|--|----------------------------|------------------------------|----------|----|
| S105 | 4    | 土師器<br>甕         | (19.0)<br>(16.5)       | 口縁部～胴部片。口縁部は外外面ともにヨコナダ。胴部は外面上半が横方向のヘラケヅリ。下半がヘラケヅリ、内面がハナダ。                              | 白色砂礫、濃灰色砂礫、針状物微            | 101R7/4にぶら、黄褐<br>7.5R7/3にぶら  | やや<br>良好 |    |
| S105 | 5    | 土師器<br>甕         | (3.4)<br>(16.6)        | 胴部～底盤片。胴部は外面がヘラケヅリ。内面がナダ。底盤部はナダ。   | 透明砂粒、白色砂礫、濃<br>灰色砂礫、赤土スコリ等 | 7.5R7/4にぶら<br>7.5R8/4底黄褐     | やや<br>良好 |    |
| S106 | 1    | 直窓器<br>甕         | (13.0)<br>5.2<br>(7.2) | 40～50%存。ロクロ成形。底盤底面は回転ヘラ切り後ナダ。  | 白色粘多、白色砂礫多、<br>針状物         | 101RA/1底灰                    | 良好<br>堅硬 |    |
| S106 | 2    | 直窓器<br>甕         | (2.8)<br>(7.8)         | 体部～底盤片。ロクロ成形。底盤底面は回転ヘラ切り後ナダ。   | チャート、白色砂礫、針<br>状物          | 7.5R5/1灰                     | 良好<br>堅硬 |    |
| S106 | 3    | 直窓器<br>甕         | (1.4)<br>(6.8)         | 底盤片。ロクロ成形。底盤底面は回転ヘラ切り後ナダ。ヘラ<br>書きあり。   | チャート砂礫、針状物                 | 2.5R6/2R黄                    | 良好<br>堅硬 |    |
| S106 | 4    | 直窓器<br>甕         | (10.0)<br>(2.2)        | ロクロ片。ロクロ成形。口縁部は下方へ垂下させナダ。内面は全<br>て自然輪がかかる。   | チャート、白色砂礫                  | 2.5R5/1黄褐<br>5.5/2Rオリーブ      | 良好<br>堅硬 |    |
| S106 | 5    | 土師器<br>甕         | (18.8)<br>(14.8)       | 20～30%存。口縁部～胴部片。口縁部は外外面ともにヨコナダ。<br>胴部は外表面がナダ。内面が横方向のヘラケヅリ。                             | 雲母多、白色砂礫                   | 5W5/4にぶら、赤褐<br>7.5R6/4にぶら    | 普通       |    |
| S106 | 6    | 土師器<br>甕         | (22.0)<br>(4.1)        | 口縁～胴部片。口縁部は外外面ともにヨコナダ。胴部は外表面がナ<br>ダ。内面が横方向のヘラケヅリ。                                      | 雲母、白色砂礫                    | 7.5R5/3にぶら<br>7.5R6/6明褐色     | 普通       |    |
| S106 | 7    | 土師器<br>甕         | (3.5)<br>(7.6)         | 胴部～底盤片。胴部は外面が横方向のミガキ。内面がヘラナダ。<br>底盤底面は木製底。   | 雲母、白色砂礫多                   | 7.5R6/4にぶら、赤褐<br>5W4/4にぶら、赤褐 | 普通       |    |
| S106 | 8    | 直窓器<br>甕         | (2.6)<br>(14.0)        | 胴部～底盤片。胴部は下端がヘラナダ。内面はヘラナダ。底盤底<br>面はナダ。   | 白色砂礫、针状物                   | 5W5/2Rオリーブ<br>5W6/2Rオリーブ     | 良好<br>堅硬 |    |
| S108 | 1    | 土師器<br>甕         | (—)<br>(3.2)           | 50～60%存。体部～底盤。ロクロ成形。外表面は摩耗跡。体部下端<br>(回転ヘラケヅリ)。内面は黑色処理。泥なみガキ(体部横方向、底<br>部1方向)。          | 白色粘、灰色粘、砂礫                 | 7.5R6/6灰                     | 普通       |    |
| S108 | 2    | 土師器<br>甕         | (3.9)<br>(7.0)         | 29～30%存。体部～底盤。ロクロ成形。体部下端は回転ヘラケ<br>ヅリ。底盤底面は擦耗跡で網状不明。内面は黑色処理。泥なみガ<br>キ(体部横方向、底部1方向)。     | 透明砂粒、黑色粘                   | 101R6/4にぶら、黄褐                | 普通       |    |
| S108 | 3    | 土師器<br>甕         | (2.2)<br>(7.0)         | 体部～底盤片。ロクロ成形。体部下端から底盤底面にかけて回転<br>ヘラケヅリ。内面は黑色処理。泥なみガキ(体部横方向、底部1方<br>向)。                 | 透明砂粒、针状物多                  | 7.5R5/4にぶら                   | 普通       |    |
| S108 | 4    | 直窓器<br>甕         | 13.4<br>4.5<br>5.8     | 30～50%存。ロクロ成形。底盤底面は回転ヘラ切り後ヘラナダ。<br>内面底盤に溝と思われる染みがある。                                   | チャート、白色砂礫、针<br>状物          | 5W5/1灰                       | 良好<br>堅硬 |    |
| S108 | 5    | 直窓器<br>甕         | (12.6)<br>4.8<br>(6.4) | 20～30%存。口縁～底盤。ロクロ成形。全体に溝と思われる染み<br>があり。  | チャート、白色粘、白色<br>砂礫少、针状物微    | 7.5R6/1灰                     | 良好<br>堅硬 |    |
| S108 | 6    | 直窓器<br>甕<br>高台付皿 | 16.0<br>2.7<br>6.8     | 30～40%存。ロクロ成形。底盤底面はロクロナダで、蓋端のハ<br>ラ書きあり。高台部は貼り付けナダ。                                    | チャート、白色砂礫、针<br>状物微         | 101S5/1灰                     | 良好<br>堅硬 |    |
| S108 | 7    | 土師器<br>甕         | (21.0)<br>(12.6)<br>—  | 口縁部～胴部片。口縁部は外外面ともにヨコナダ。胴部は外外面<br>ともにロクロナダ。   | 雲母、白色、透明砂礫多、<br>灰色砂礫       | 5W5/1灰<br>7.5R6/4にぶら         | 普通       |    |
| S108 | 8    | 土師器<br>甕         | (19.8)<br>9.7          | 口縁部～胴部片。口縁部は外外面ともにヨコナダで外表面には輪<br>積模の痕が残る。胴部は内外面ともにナダ。                                  | 雲母、白色砂礫                    | 5W4/4にぶら、赤褐<br>5W3/2壁赤褐      | 普通       |    |
| S108 | 9    | 土師器<br>甕         | (24.0)<br>(7.6)<br>—   | 口縁部～胴部片。口縁部は外外面ともにヨコナダ。胴部は内外面<br>ともにナダ。  | 雲母、白色、透明砂礫                 | 5W4/3にぶら、赤褐<br>5W3/3壁赤褐      | 普通       |    |
| S108 | 10   | 土師器<br>甕         | (12.5)                 | 胴部片。外面上半は平行タタキ。下半は横方向のヘラケヅリ。内<br>面は横方向のヘラナダ。   | 雲母、淡灰色砂粒、白色<br>粘           | 5W4/3にぶら、赤褐                  | やや<br>良好 |    |
| S109 | 1    | 土師器<br>甕         | 16.0<br>5.8<br>7.0     | 90%存。ロクロ成形。底盤底面は回転ヘラ切り後未調整。内面は黑<br>色処理。泥なみガキ(体部横方向、底部1方向)。                             | 透明砂粒、濃灰色<br>砂粒、针状物微        | 7.5R4/2灰褐                    | 普通       |    |
| S109 | 2    | 土師器<br>甕         | (11.8)<br>4.1          | 40～50%存。口縁部～底盤。ロクロ成形。底盤底面は手造りヘラ<br>ケヅリ。底盤底面は回転ヘラ切り後未調整。内面は黑色処理。泥な<br>みガキ(体部横方向、底盤1方向)。 | 透明砂粒、淡灰色砂粒、<br>白色砂粒        | 101R6/4にぶら、黄褐                | 普通       |    |
| S109 | 3    | 土師器<br>甕         | 10.4<br>3.0<br>6.0     | (ほぼ)完全。口縁部の一部を欠失。ロクロ成形。底盤底面は回転ヘ<br>ラケヅリ。内面は黑色処理。泥なみガキ(体部横方向、底盤1方向)。                    | 透明砂粒、白色砂粒、灰<br>色砂粒、针状物微    | 101R4/2R黄褐                   | 普通       |    |
| S109 | 4    | 土師器<br>甕         | 14.8<br>(5.2)<br>—     | 20～30%存。口縁部～底盤。ロクロ成形。体下端は回転ヘラケ<br>ヅリ。内面は黑色処理。泥なみガキ(体部横～斜方向)。                           | 透明砂粒、白色砂粒、灰<br>色砂粒、针状物微    | 7.5R6/2R灰褐                   | 普通       |    |
| S109 | 5    | 土師器<br>甕         | (15.0)<br>(4.2)<br>—   | 口縁部～体部片。ロクロ成形。内面は黑色処理。泥なみガキ(体部<br>横方向)。  | 透明粘、白色粘、黃白色<br>粘、针状物       | 7.5R7/6灰                     | 普通       |    |

### 第3章 調査の成果

| 遺構番号 | 画面番号 | 種類<br>器種         | 口径<br>部高<br>底径         | 部位・残存率・製作方法・その他の特徴  | 胎土                       | 色調<br>(外側／内側)                | 機成        | 備考 |
|------|------|------------------|------------------------|---|--------------------------|------------------------------|-----------|----|
| SI09 | 6    | 土師器<br>甕         | —<br>(2.6)<br>0.4      | 底部片、底部底面は回転へラ切り後未調査。高台部は貼り付け後ナデ。内面は黒色処理・施なごマキ(底部)1方向。                                     | 透明粘、灰色粘、黄白色粘、針状物         | 7.SYB5/3にぶい機<br>7.SYB5/3にぶい機 | やや<br>良好  |    |
| SI09 | 7    | 土師器<br>甕         | —<br>(9.6)<br>(17.8)   | 脚部片、クロコ成形、接地面部は底面きさヨコナギ。  | 黄白色粘、白色・透明砂<br>織、針状物     | SYB4/4にぶい機<br>SYB4/6にぶい機     | やや<br>良好  |    |
| SI09 | 8    | 土師器<br>甕         | (19.8)<br>(18.0)       | 20~30%存、口縁部へ脚部、口縁部は外側面とともにヨコナギ、脚部は外側面と上半がナギ、下半が横方向へタケヅリ、内面は横、斜方向のハナナギ、上半は脚部からなる部分が施墨。     | 透明粘、萬古色粘、白色砂<br>織少       | 7.SYB6/4にぶい機<br>7.SYB5/4にぶい機 | やや<br>良好  |    |
| SI09 | 9    | 土師器<br>甕         | (21.8)<br>(17.6)<br>—  | 20~40%存、脚部へ脚部、口縁部は外側面とともにヨコナギ、脚部は外側上半がナギ、脚部外側部は施墨する。下半が横方向へタケヅリ、内面は横方向のナデナデ、下半はやや斜方向にこなる。 | 透明粘、黄白色粘、濃灰<br>色粘、白色砂織少  | SYB4/6にぶい機<br>SYB5/6にぶい機     | やや<br>良好  |    |
| SI10 | 1    | 土師器<br>甕         | 14.1<br>4.6<br>7.0     | 99%存、クロコ成形、体下部から底部底面にかけて回転へタケヅ<br>リ、内面は黒色処理・施なごマキ(体部模様方向、底部)1方向。                          | 透明粘、萬古色粘、針状物             | 7.SYB7/6機                    | やや<br>良好  |    |
| SI10 | 2    | 土師器<br>甕         | (15.0)<br>4.6<br>(7.0) | 20~40%存、口縁部へ底面、ロクロ成形、体底部下端から底部底面にかけて脚部へタケヅリ、内面は黒色処理が一部剥落、施なごマ<br>キ(体部模様へ斜方向、底部)1方向。       | 透明粘、白色粘、灰色粘、<br>針状物      | SYB6/6機                      | やや<br>良好  |    |
| SI10 | 3    | 土師器<br>甕         | (3.1)<br>—             | 口縁部片、ロクロ成形、外側に墨書き「大」あり、内面は黒色処理・<br>施なごマキ(底部模様方向)  | 灰粘、白色粘多、白色砂<br>織、針状物     | 7.SYB6/4にぶい機                 | やや<br>良好  |    |
| SI10 | 4    | 土師器<br>甕         | (16.0)<br>5.3<br>9.0   | 70~80%存、ロクロ成形、体下端から底部底面にかけて回転へタケ<br>ヅリ、内面は黒色処理・施なごマキ(体部模様・横方向、脚部模<br>様1方向)。               | 透明粘、濃灰色粘、針<br>状物         | 7.SYB5/4にぶい機                 | やや<br>良好  |    |
| SI10 | 5    | 土師器<br>甕<br>高台付皿 | (13.0)<br>5.0<br>7.1   | 20~40%存、ロクロ成形、体底部下端から底部底面にかけて回転へタ<br>ケヅリ、高台部は貼り付け後ナデ、内面は黒色処理1方向の施<br>なごマキ。                | 透明粘、萬古色粘、白色<br>粘、針状物多    | 10WT/3にぶい機                   | やや<br>良好  |    |
| SI10 | 6    | 須恵器<br>甕         | 14.3<br>5.5<br>7.6     | 80%存、ロクロ成形、体底部下端は手持ちへタケヅリ、底部底面は<br>ハナナギ。  | チャート、白色砂織、黑<br>色粘、針状物    | SYB5/1機                      | 良好<br>堅韌  |    |
| SI10 | 7    | 須恵器<br>甕         | (14.2)<br>5.5<br>7.0   | 70~80%存、ロクロ成形、底部底面は回転へラ切り後ナデ。   | チャート、白色砂織多、<br>黑色粘多、針状物  | SYB6/1機                      | 良好<br>堅韌  |    |
| SI10 | 8    | 須恵器<br>甕         | 13.9<br>5.6<br>7.0     | 60~70%存、ロクロ成形、体底部下端は手持ちへタケヅリ、底部底<br>面は回転へラ切り後ナデ。  | チャート、白色砂織多、<br>黑色粘多、針状物少 | SYB5/1機                      | 良好<br>堅韌  |    |
| SI10 | 9    | 須恵器<br>甕         | (13.0)<br>4.8<br>(6.0) | 30~40%存、ロクロ成形、ロクロ成形、底部底面は回転へラ切<br>り後ナデ。   | チャート、白色砂織多、<br>黑色粘少、針状物  | SYB6/1機                      | 良好<br>堅韌  |    |
| SI10 | 10   | 須恵器<br>甕         | (13.4)<br>4.7<br>7.0   | 30~40%存、ロクロ成形、底部底面は回転へラ切<br>り後ナデ。   | チャート、白色砂織、針<br>状物        | SYB5/1機                      | 良好<br>堅韌  |    |
| SI10 | 11   | 須恵器<br>甕         | (13.0)<br>4.8<br>7.0   | 40~50%存、口縁部へ底面、ロクロ成形、体底部下端は手持ちへタ<br>ケヅリ、底部底面はヘナナギ。  | チャート、白色砂織、針<br>状物        | 2.SY7/2火黄                    | 普通        |    |
| SI10 | 12   | 須恵器<br>甕         | —<br>(3.7)<br>(6.0)    | 体縁へ底面、ロクロ成形、体縁へ墨書き「大木」あり、底部底面は<br>ハナナギ。   | チャート、白色砂織多、<br>針状物       | SYB5/1機                      | 良好<br>堅韌  |    |
| SI10 | 13   | 須恵器<br>甕         | 10.3<br>4.0<br>5.0     | ほぼ完存、口縁部の一端欠失、ロクロ成形、体底部下端から底部底<br>面にかけてヘナナギで無い目立たる板根が残る。                                  | チャート、白色砂織、針<br>状物        | 2.SY4/1萬火                    | 良好<br>堅韌  |    |
| SI10 | 14   | 須恵器<br>高台付皿      | (15.0)<br>6.1<br>9.3   | 30~40%存、口縁部へ底面、底部底面は回転へラケ<br>ヅリ、高台部は貼り付け後ナデ、内面に墨と思われるぬき込みあり。<br>針状物微                      | 白色砂織、砂織、黑色粘、<br>针状物微     | SYB6/1機                      | 良好<br>堅韌  |    |
| SI10 | 15   | 須恵器<br>高台付皿      | 13.0<br>2.5<br>6.8     | ほぼ完存、口縁部の一端欠失、ロクロ成形、底部底面は回転へラ<br>ケヅリで、底部底面へハナナギあり、高台部は貼り付け後ナデ。                            | チャート、白色砂織多、<br>白色粘、針状物少  | SYA4/1機<br>2.SY4/1萬火         | 良好<br>堅韌  |    |
| SI10 | 16   | 須恵器<br>高台付皿      | (14.7)<br>2.8<br>7.6   | 60~70%存、ロクロ成形、底部底面は回転へラケヅリ、高台部は<br>貼り付け後ナデ。   | チャート、白色砂織、針<br>状物        | SYB6/1機<br>10WT/3機           | 良好<br>堅韌  |    |
| SI10 | 17   | 須恵器<br>高台付皿      | 13.8<br>3.1<br>7.3     | 50~60%存、ロクロ成形、底部底面はヘナナギで、「升」のヘタ<br>書きあり、高台部は貼り付け後ナデ。                                      | チャート、砂織、針状物<br>微         | 2.SY6/2火黄<br>2.SY5/2火灰       | 良好        |    |
| SI10 | 18   | 土師器<br>甕         | (21.0)<br>(10.5)<br>—  | ロクロ成形片、外面全體に磁方向の平行タケヅリで、口縁部はそ<br>の後内外面ともにヨコナギ。  | 透明粘、砂織、白色砂<br>織、針状物少     | SYB4/3にぶい機                   | 普通        |    |
| SI10 | 19   | 須恵器<br>甕         | —<br>(5.5)<br>—        | ロ縁部へ脚部片、外面全體に磁方向の平行タケヅリで、口縁部はそ<br>の後内外面ともにヨコナギ。   | 白雲母多、白色砂織多               | 2.SY3/1黑柄                    | 普通<br>新出土 |    |
| SI10 | 20   | 土師器<br>甕         | (19.0)<br>(7.0)<br>—   | ロ縁部へ脚部片、ロクロ成形、体部は下半が横方向へタケヅ<br>リ、内面は下半が横方向のミガキ。   | 透明粘、白色粘、砂織、針<br>状物多      | SYB6/6機<br>SYB5/4にぶい機        | やや<br>良好  |    |
| SI11 | 1    | 須恵器<br>甕         | (13.0)<br>5.1<br>8.6   | 50%存、ロクロ成形、底部底面は回転へラ切り後、回転へラケ<br>ヅリ、内面の一端にスス刷着。   | チャート、白色粘、黑色<br>粘、針状物少    | SYT7/29白                     | 良好        |    |

## 第2節 検出された遺構と遺物

| 遺構番号 | 画面番号 | 種類<br>分類    | 口径<br>底径                | 部位・残存率・製作技法・その他特徴   | 粘土                                  | 色調<br>(外面/内面)            | 他成       | 備考      |
|------|------|-------------|-------------------------|---|-------------------------------------|--------------------------|----------|---------|
| SI11 | 2    | 直窓器<br>环    | (13.6)<br>5.0<br>8.5    | 69~70%存. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラ切り後ナダ. 沖縄<br>部へラケズリ.   | チャート. 黒色粘. 白色<br>砂礫. 粗状物            | 2.53K/2灰黄                | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 3    | 直窓器<br>环    | 12.8<br>4.8<br>8.0      | 69~70%存. ロクロ成形. 底部底面はナダ.  | チャート. 白色砂礫. 粗<br>状物                 | 2.53K/1黄灰                | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 4    | 直窓器<br>环    | (12.2)<br>4.5<br>8.4    | 59~60%存. ロクロ成形. 底部底面はナダで. 切り離し部をヘラ<br>ケズリ.  | チャート. 白色粘. 黑色<br>粘. 白色砂礫. 粗状物       | 2.53K/1黄灰                | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 5    | 直窓器<br>环    | (14.29)<br>4.1<br>8.7   | 40~50%存. ロクロ成形. 回転ヘラ切り後ナダ. 赤<br>線状ヘラ書きと細い鉛筆状工具による数箇の筋があり.   | チャート. 白色砂礫. 黑<br>色粘. 粗状物            | 0.55/1灰                  | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 6    | 直窓器<br>环    | (13.2)<br>4.7<br>8.8    | 70%存. ロクロ成形. 底部底面は回転型. 中央の切り離し部を<br>ヘラケズリ. 外面に2箇と想われる瘤物でコーティングか. 内面は<br>底部から底部にかけて未選光.                | チャート. 白色砂礫少.<br>鉛筆状物                | 2.53K/2灰黄<br>7.53B/6灰    | 普通       |         |
| SI11 | 7    | 直窓器<br>环    | 10.8<br>4.0<br>6.8      | 60~70%存. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラケズリ.   | チャート. 白色砂礫. 黑<br>色粘少. 粗状物           | 2.53K/1黄灰                | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 8    | 直窓器<br>高台付环 | (13.8)<br>5.8<br>8.8    | 30~40%存. 口縁部へ底部. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラケ<br>ズリ. 高台部は貼り付け後ナダ.  | チャート. 白色砂礫. 粗<br>状物                 | 0.55/2Kオリーブ              | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 9    | 直窓器<br>高台付环 | (14.7)<br>4.9<br>7.2    | 69~70%存. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラケズリ. 高台部は<br>貼り付け後ナダ. 外面一部に自然軸がある.   | 白色砂礫. 黑色粘多. 粗<br>状物少                | 5.54/1灰<br>2.53K/1黄灰     | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 10   | 直窓器<br>高台付环 | (11.8)<br>4.6<br>7.6    | 50%存. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラケズリで. 高台部のヘ<br>ラ書きが平行にあり. 高台部は貼り付け後ナダ.  | チャート. 白色砂礫. 黑<br>色粘. 粗状物少           | ME/ 灰                    | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 11   | 直窓器<br>高台付环 | 10.8<br>4.5<br>7.2      | 11.5%存. 口縁部の穴を火炎. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘ<br>ラケズリ. 底部底面は回転ヘラケズリで. 高台部の隙間部分に糞便で「O」<br>と描かれる. 外面の縁と内面全体に自然軸がある. | チャート. 白色砂礫. 黑<br>色粘多. 粗状物微<br>鉛筆状物  | NS/ 灰<br>7.53A/2Kオリーブ    | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 12   | 直窓器<br>盤    | (19.8)<br>4.5<br>11.6   | 70~80%存. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラケズリ. 高台部は<br>貼り付け後ナダ. ロ縁部に自然軸がある.  | チャート少. 白色砂礫.<br>黑色粘多. 粗状物少          | 2.53K/2K黄                | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 13   | 直窓器<br>盤    | (22.7)<br>(3.4)         | 20%存. 口縁部へ底部. 高台部欠け. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘ<br>ラケズリ. 高台部は貼り付け後ナダ.  | 白色砂礫. 黑色粘. 粗状<br>物少                 | 2.53K/1黄灰                | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 14   | 直窓器<br>盤    | (21.6)<br>4.0<br>(14.8) | 20%存. 口縁部へ底部. 高台部欠け. 内面わざで自然軸がある.   | チャート少. 白色砂礫.<br>黑色粘多. 粗状物微<br>鉛筆状物少 | NS/ 灰<br>10.75/1灰        | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 15   | 直窓器<br>盤    | —<br>(2.8)              | 天井部片. ロクロ成形. 縦径2.4cm. 箱高1.8cm. 外面全体に自然軸<br>がある.   | チャート少. 白色砂礫.<br>黑色粘多. 粗状物微<br>鉛筆状物少 | BN/1灰                    | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 16   | 直窓器<br>盤    | —<br>(3.5)              | 天井部. ロクロ成形. 縦径3.0cm. 箱高1.8cm. 天井部は凹凸. ヘラケ<br>ズリ.  | チャート少. 白色粘. 黑<br>色粘. 粗状物少           | BN/1灰                    | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 17   | 直窓器<br>盤    | (17.2)<br>(2.5)         | 30~40%存. 天井部へ口縁部. 天井部は回転ヘラケズリ. 口縁部<br>は下の方へ垂下せすナダ.  | チャート少. 白色砂礫. 粗<br>状物少               | 0.55/1灰                  | 良好       |         |
| SI11 | 18   | 直窓器<br>盤    | (12.8)<br>(1.7)         | 20%存. 天井部へ口縁部. 粗矢穴. ロクロ成形. 天井部は回転ヘラ<br>ケズリ. 口縁部は下方に懸下せナダ. 口縁部外縁から内面にか<br>けて自然軸がある.                    | 白色砂礫少. 白色粘. 黑<br>色粘. 粗状物少           | 2.53T/1灰白<br>0.55/2Kオリーブ | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 19   | 直窓器<br>盤    | (18.2)<br>(3.0)         | 10~20%存. 天井部へ口縁部. 天井部は回転ヘラケズリ. 口縁部<br>は下方に懸下せナダ. 口縁部外縁から内面にかけて自然軸<br>がある.                             | 白色砂礫. 黑色粘. 粗<br>状物微                 | 2.53T/1灰白<br>2.53V/1灰黄   | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 20   | 直窓器<br>盤    | (12.2)<br>(3.4)<br>—    | 40%存. ロクロ成形. 外面全体に自然軸がある. 口縁部厚2.7<br>cm. 箱底面とみられる.  | チャート少. 白色粘. 黑色<br>粘多. 粗状物少          | 5.54/2Kオリーブ<br>2.53K/1黄灰 | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 21   | 直窓器<br>高环   | (25.0)<br>(12.3)        | 40~50%存. 环部へ脚部. ロクロ成形. 环部口縁部は屈曲. 中央部<br>刺繡. 外面全体に自然軸がある. 脚部は四方透し.                                     | 白色砂礫. 白色粘. 黑<br>色粘多. 粗状物微           | 0.56/2Kオリーブ<br>2.53T/2K黄 | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 22   | 直窓器<br>短脚直  | (16.4)<br>(9.0)<br>—    | ロ縁部へ脚部片. ロクロ成形. 脚部長2.7cm. 外面の一部に自然軸<br>がある.   | 白色砂礫. 白色粘. 粗<br>状物微                 | 2.53B/1赤灰<br>2.53E/1暗青灰  | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 23   | 直窓器<br>短脚直  | (7.0)<br>(5.0)          | 20~30%存. 口縁部へ脚部. ロクロ成形. 脚部長2.3cm. 全体に自<br>然軸がある.  | 白色砂礫少. 黑色粘多                         | 0.57/3灰黄<br>2.53T/2K黄    | 良好<br>堅韌 |         |
| SI11 | 24   | 直窓器<br>コップ型 | (8.4)<br>(4.5)<br>—     | 20~30%存. 口縁部へ体部. ロクロ成形. 外面に自然軸がある.  | 白色砂礫. 黑色粘多. 粗<br>状物少                | 0.56/2Kオリーブ<br>2.53T/1灰白 | 良好<br>堅韌 | 25と同一個体 |
| SI11 | 25   | 直窓器<br>コップ型 | —<br>(3.0)<br>(7.0)     | 体部へ底部片. ロクロ成形. 底部底面はナダ.   | 白色砂礫. 黑色粘多. 粗<br>状物少                | 2.53T/1灰白                | 良好<br>堅韌 | 24と同一個体 |
| SI12 | 1    | 土師器<br>盤    | (19.8)<br>(9.4)<br>—    | 口縁部へ脚部片. 口縁部は外周上にもコナダ. 脚部は外周が<br>ナダで輪郭が残る. 内面がヘラナダ.   | 白色. 透明砂礫多                           | 0.56/4/1灰<br>7.53B/4/1灰白 | 普通       |         |

### 第3章 調査の成果

| 遺構番号 | 画面番号 | 種類・特徴       | 口径・底面形状                     | 調査・残存率・製作技術・その他特徴   | 胎土                         | 色調(外面/内面)                | 焼成       | 備考 |
|------|------|-------------|-----------------------------|---|----------------------------|--------------------------|----------|----|
| SI13 | 1    | 須恵器<br>环    | 14.5<br>4.5<br>8.5          | 70%存. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラ切り後ナダ.  | チャート, 白色砂綿, 黒色粒, 粒状物       | 5V6/1灰<br>5V6/1灰         | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 2    | 須恵器<br>环    | 12.6<br>4.7<br>7.6          | 70%存. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラ切り後, 周縁部をナダ.  | チャート, 白色砂綿多, 粒状物           | 10V5/1灰<br>10V6/1灰       | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 3    | 須恵器<br>环    | 13.7<br>5.8<br>7.5          | 90%存. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラ切り後, 周縁部をナダ.<br>外縁の一辺に自然縫がかかる。                                | チャート, 白色砂綿, 白色砂綿, 粒状物      | 10V4/1灰<br>10V5/1灰       | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 4    | 須恵器<br>环    | 13.7<br>4.8<br>7.5          | 90%存. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラ切り後ナダ.  | チャート少, 白色砂綿多, 粒状物          | N/灰                      | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 5    | 須恵器<br>环    | 12.5<br>4.5<br>6.8          | 80~90%存. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラ切り後ナダ.<br>「墨」のへり書きあり. 体部外縁に墨と思われる染みあり.                     | チャート, 白色砂綿, 粒状物            | 10V5/1灰<br>10V4/1灰       | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 6    | 須恵器<br>高台付环 | 16.1<br>7.8<br>9.8          | 60%存. ロクロ成形. 底部底面はナダ. 高台部は貼り付けナダ.   | チャート, 白色砂綿, 粒状物            | 5V6/1灰<br>5V6/2灰オーラブ     | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 7    | 須恵器<br>高台付环 | 16.2<br>6.6<br>10.5         | 90%存. 低部中央のみ矢矢. 底部底面は回転ヘラケズリ. 高台部は貼り付けナダ.   | チャート, 白色砂綿, 白色砂綿, 黒色粒, 粒状物 | 5V5/1灰<br>2.5V6/1黄灰      | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 8    | 須恵器<br>高台付环 | 15.8<br>5.3<br>10.9         | 60~70%存. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラケズリ. 高台部は貼り付けナダ.   | 白色砂綿, 白色砂綿, 粒状物            | 7.5V5/1灰<br>7.5V6/2灰オーラブ | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 9    | 須恵器<br>高台付环 | 14.4<br>(4.5)<br>—          | 90%存. 高部中央矢矢. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラ切り後ナダ.<br>高台部は貼り付けナダ. 外縁に墨と思われる染みあり.                  | チャート, 白色砂綿, 黑色粒, 粒状物少      | 5V5/1灰<br>5V6/2灰オーラブ     | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 10   | 須恵器<br>高台付环 | 10.8<br>4.6<br>7.0          | 60~70%存. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラ切り後, 高台部を貼り付けナダ. ロクロ成形. 外縁部外縁に自然縫がかかる。                     | チャート, 白色砂綿, 黑色粒, 粒状物少      | 10V6/1灰<br>2.5V6/2灰黄     | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 11   | 須恵器<br>盤    | (16.0)<br>3.7<br>(8.9)      | 40~50%存. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラケズリ. 高台部は貼り付けナダ.   | チャート, 白色砂綿, 黑色粒, 粒状物微      | N/灰                      | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 12   | 須恵器<br>盤    | (21.7)<br>3.8<br>(12.0)     | 20%存. 口縁部へ底部. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラケズリ. 高台部は貼り付けナダ. 外縁から内面口縁部にかけて自然縫<br>がかかる。            | チャート, 黑色粒多, 粒状物微           | 10V6/1灰<br>10V6/1灰灰      | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 13   | 須恵器<br>盤    | (16.0)<br>3.7<br>(11.0)     | 20%存. 口縁部へ底部. ロクロ成形. 高台部は貼り付けナダ. 外縁から内面口縁部にかけて自然縫がかかる。                              | チャート, 黑色粒多, 粒状物微           | N/灰<br>2.5V6/1黄灰         | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 14   | 須恵器<br>蓋    | 16.0<br>4.0                 | 50~60%存. ロクロ成形. 縦径5.0cm. 程高1.1cm. 天井部は回転ヘラケズリ. 口縁部は下方へ垂下せナダ.                        | 白色砂綿, 粒状物多                 | 5V6/2灰オーラブ               | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 15   | 須恵器<br>蓋    | 14.9<br>3.4<br>—            | 80%存. ロクロ成形. 縦径5.0cm. 程高1.1cm. 天井部は回転ヘラケズリ. 口縁部は下方へ垂下せナダ.                           | 白色砂綿, 砂綿, 粒状物              | N/灰                      | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 16   | 須恵器<br>蓋    | (15.0)<br>4.6<br>—          | 40~50%存. 天井部へ底端. 縦径2.5cm. 程高1.1cm. 天井部は回転ヘラケズリ. 口縁部は下方へ垂下せナダ.                       | チャート, 白色砂綿, 黑色粒, 粒状物微      | 10V5/1灰                  | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 17   | 須恵器<br>蓋    | (16.3)<br>4.3<br>—          | 50%存. ロクロ成形. 縦径5.0cm. 程高1.1cm. 天井部は回転ヘラケズリ. 口縁部は下方へ垂下せナダ.                           | 白色砂綿, 砂綿, 黑色粒, 粒状物         | 5V5/2灰オーラブ               | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 18   | 土器器<br>甕    | (21.8)<br>(10.5)<br>—       | 口縁部へ胸突片. 口縁部は内外両面ともにコヨナダ. 胸突部は外縁の上半がナダ. 下半が横方向のヘラケズリ. 内面はヘラナダ.                      | 透明粘. 透明砂綿, 白色砂綿少           | 7.5V5/2灰                 | 普通       |    |
| SI13 | 19   | 土器器<br>甕    | (22.0)<br>(7.0)<br>—        | 口縁部へ胸突片. 口縁部は内外両面ともにコヨナダ. 胸突部は外縁がナダ. 内面がヘラナダ.                                       | 透明粘. 白色砂綿多                 | 5V6/6灰<br>7.5V6/6灰       | やや<br>良好 |    |
| SI13 | 20   | 土器器<br>甕    | (29.0)<br>(9.0)<br>—        | 口縁部へ胸突片. 口縁部は内外両面ともにコヨナダ. 胸突部は外縁が斜向のヘラケズリ. 内面が横方向のヘラケズリ. 手部は貼り付け後ヘラナダ.              | 透明粘. 黄白色粒. 粒状物             | 7.5V5/3灰.5灰<br>5V4/6赤褐   | 良好       |    |
| SI13 | 21   | 須恵器<br>瓶    | C33.5<br>26.5<br>(16.2)     | 20%存. 口縁部へ底部. 胸突部は外縁が斜向のヘラケズリ. 内面が横方向のヘラケズリ. 手部は貼り付け後ヘラナダ.                          | チャート, 白色砂綿, 粒状物            | 7.5V5/1灰<br>2.5V6/2灰黄    | 良好<br>堅緻 |    |
| SI13 | 22   | 須恵器<br>円筒   | (3.0)<br>—                  | 脚跳片. ロクロ成形. 方形状の透かし. 透かしの間の脚中央に擬方<br>向の切り込み. 下位突起は三角形. 便器部は外縁へ彎曲. 内面に<br>深い自然縫がかかる。 | 白色砂綿少. 黑色粒, 粒状物            | N/灰<br>10V4/2オーラブ灰       | 良好<br>堅緻 |    |
| SI14 | 1    | 土器器<br>甕    | (12.5)<br>3.1<br>(5.0)<br>— | 20%存. 口縁部へ底部. ロクロ成形. 体部下端から底部底面は平<br>滑持ヘラケズリ.                                       | 白色粘, 灰色粘, 角石粉, 角石粉少, 粒状物   | 7.5V6/4灰.5灰<br>5V6/6灰    | 普通       |    |
| SI14 | 2    | 土器器<br>甕    | (2.5)<br>(7.4)<br>—         | 体部へ底端片. ロクロ成形. 底部底面は回転ヘラケズリ.  | 白色粘, 灰色粘, 透明粘, 粒状物微        | 7.5V6/6灰                 | 良好       |    |
| SI14 | 3    | 土器器<br>甕    | (0.7)<br>—                  | 底端片. 底部底面は回転ヘラケズリで, 塗書「匁」あり. 内面は<br>黒色処理. 黒色粘, 粒状物微                                 | 白色粘, 黑色粘, 粒状物微             | 7.5V6/4灰.5灰<br>N/灰       | やや<br>良好 |    |

## 第2節 検出された遺構と遺物

| 遺構番号 | 画面番号 | 種類<br>基準    | 口径<br>底径               | 部位・残存率・製作技法・その他特徴  | 胎土                              | 色調<br>(外壺/内面)                      | 機能       | 備考   |
|------|------|-------------|------------------------|--|---------------------------------|------------------------------------|----------|------|
| SI14 | 4    | 土師器<br>环又是壺 | (15.8)<br>(4.0)        | 口縁部～体部片、ロクロ成形、内面は密なミガキ(横～斜方向)。   | 白色粘、濃灰色粘、灰色<br>砂礫、針状物           | 7.5TBG/6壁                          | 良好       |      |
| SI14 | 5    | 土師器<br>壺    | 15.5<br>6.4<br>8.4     | 90%存、ロクロ成形、底面底面は回転～ハタ切り後未調整、高台部<br>(はたけ付)青ナゲ、内面は黑色処理、密なミガキ(体部横方向、底<br>部1方向)。         | 白色粘、灰色粘、白色砂<br>礫、灰色砂礫、針状物       | 7.5TBG/3C-5C-4W<br>7.5TBG/3C-5C-4W | やや<br>良好 |      |
| SI14 | 6    | 土師器<br>壺    | (3.3)<br>9.6           | 30～40%存、底部、底部底面は回転～ハタ切り後ナゲ、高台部は貼<br>り付け後ナゲ、内面は密なミガキ。                                 | 白色粘多、灰色粘多、青<br>閃石、輝石類、針状物微<br>少 | 5TBG/8歩鉢                           | 良好       |      |
| SI14 | 7    | 灰釉陶器<br>壺   | (3.1)<br>(9.0)         | 体部～底部片、底面底面は回転～ハタケリ、高台部は貼り付け後<br>ナゲ、全体に箱がかかる。  | 白色粘微、白色粘                        | 2.5TBG/3C-5C-4W<br>7.5TBG/2Cオーリーブ  | 良好<br>寒暖 |      |
| SI15 | 1    | 土師器<br>环    | (1.8)<br>(7.6)         | 体部～底部片、ロクロ成形、底部底面は回転未切後未調整。  | 白色粘、濃灰色粘、透明<br>粘、针状物            | 5TBG/6壁                            | 良好       |      |
| SI15 | 2    | 土師器<br>环    | (3.0)                  | 口縁部片、ロクロ成形、墨書き「□」あり。   | 白色粘、灰色粘                         | 10TBG/4Cにぶい黄<br>10TBG/4C           | やや<br>良好 |      |
| SI15 | 3    | 土師器<br>壺    | (16.2)<br>(5.9)<br>—   | 70%存、高台部欠け。ロクロ成形、体部下端から底面底面は回転<br>～ハタケリ、高台部は貼り付け後ナゲ、内面は黑色処理、密な<br>ミガキ(体部横方向、底部一定方向)。 | 白色粘多、砂礫、针状物<br>少                | 10TBG/2C黄褐色                        | 普通       |      |
| SI15 | 4    | 土師器<br>环    | 10.3<br>2.5<br>6.0     | (注)底面、口縁部及び体部の一部を欠け。ロクロ成形、底面底面<br>は回転、口縁部は後未調整。                                      | 白色粘、白色砂礫、灰色<br>砂礫、针状物           | 5TBG/4C非鉢                          | 普通       |      |
| SI15 | 5    | 土師器<br>壺    | (20.0)<br>(24.0)       | 30～40%存、口縁部～胴部、口縁部は内外面ともにヨコナゲ、胴<br>部は底面の上半が斜方向のハタケリ、下部が横方向のハタケ<br>リ、内面がナゲ(輪縞目)で整理する。 | 透明粘、白色粘、砂粘<br>少                 | 5TBG/4Cにぶい黄<br>5TBG/1黒褐色土          | 普通       |      |
| SI16 | 1    | 土師器<br>环又是壺 | (13.8)<br>(3.3)<br>—   | 口縁部～体部片、ロクロ成形、内面は黑色処理、密なミガキ(横<br>～斜方向)。  | 白色粘、灰色粘、青閃石、<br>輝石類             | 10TBG/4Cにぶい黄褐色                     | 普通       |      |
| SI16 | 2    | 土師器<br>环    | (2.2)<br>(8.0)         | 体部下端～底面片、ロクロ成形、外面調整は摩剥磨刷で不明、内<br>面は黑色処理、密なミガキ(体部横方向、底部一定方向)。                         | 透明粘、灰色粘多、角閃石、<br>輝石類、针状物        | 7.5TBG/4Cにぶい黄                      | 普通       |      |
| SI17 | 1    | 灰窓器<br>环    | (14.0)<br>(4.6)<br>—   | 口縁部片、ロクロ成形。  | チャート、白色粘、针状物                    | 2.5TBG/2C黄                         | 良好<br>寒暖 |      |
| SI17 | 2    | 灰窓器<br>环    | (0.9)<br>(8.0)         | 底面片、ロクロ成形、底面底面は回転～ハタ切り後ナゲで、切り離<br>し痕が複数。   | チャート、白色砂礫、灰<br>色粘、针状物           | 2.5TBG/3C-5C-4W<br>10TBG/4C-5C-4W  | やや<br>良好 |      |
| SI17 | 3    | 灰窓器<br>环    | (1.4)<br>(8.0)         | 底面片、底面底面は回転～ハタ切り後ナゲ。   | 白色砂礫、针状物                        | 5TBG/1K                            | 良好<br>寒暖 |      |
| SI17 | 4    | 土師器<br>壺    | (1.7)<br>(7.6)         | 底面片、底面底面は本堀底。  | 透明砂粘、白色砂礫多、<br>针状物微             | 5TBG/6壁非鉢<br>7.5TBG/3C-5C-4W       | 良好<br>寒暖 |      |
| SI18 | 1    | 土師器<br>环    | 10.0<br>2.8<br>6.6     | (注)完全存、口縁部の一部を欠け。ロクロ成形、底面底面は回転～<br>切り離し縫合ナゲ。   | 白色粘、濃灰色粘、灰色<br>砂礫、针状物           | 7.5TBG/6壁                          | 良好       |      |
| P101 | 1    | 灰窓器<br>环    | (3.0)<br>4.0<br>7.0    | 50%存、ロクロ成形、底面底面は回転～ハタケリ。   | チャート少、白色砂礫、<br>针状物              | 5TBG/1K                            | 良好<br>寒暖 |      |
| P101 | 2    | 灰窓器<br>环    | (3.5)<br>4.0<br>(9.0)  | 40～45%存、ロクロ成形、体部下端～底面底面にかけて回転～<br>ハタケリ、内面に自然縫合がある。                                   | 白色粘多、灰色粘、白色<br>砂礫               | 7.5TBG/1K<br>5TBG/1K               | 良好<br>寒暖 |      |
| P101 | 3    | 灰窓器<br>高台付环 | (4.2)<br>13.5          | 50%存、体部～底面、ロクロ成形、底面底面は回転～ハタケリ、高<br>台部は貼り付け後ナゲ。                                       | チャート少、白色砂礫、<br>白色粘、针状物          | NL/暗灰<br>10TBG/1K                  | 良好<br>寒暖 |      |
| P102 | 1    | 灰窓器<br>壺    | (16.0)<br>(1.8)        | 天井部～口縁部片、口縁部は内面にかかりを持つ。  | 窓母、白色砂礫多、砂粘<br>多                | 2.5TBG/2C黄                         | 普通       | 新治削鉢 |
| P102 | 1    | 灰窓器<br>壺    | (16.0)<br>(2.4)        | 天井部～口縁部片、天井部は回転～ハタケリ、口縁部は先端部を<br>つまみ出しナゲ。  | チャート、白色砂礫少、<br>针状物微             | 2.5TBG/3C黄                         | 良好<br>寒暖 |      |
| P103 | 1    | 灰窓器<br>壺    | (12.5)<br>3.8<br>(8.0) | 口縁部～底部片。ロクロ成形、底部底面は回転～ハタ切。   | チャート、白色砂礫、针<br>状物               | 7.5TBG/1K<br>5TBG/1K               | 良好<br>寒暖 |      |
| P106 | 1    | 土師器<br>环    | (15.8)<br>(5.1)<br>—   | 20%存、口縁部～体部、口縁部は外表面ともにヨコナゲ、体部は<br>外表面がハタケリ後斜方方向のミガキ、内面が不定方向の密な<br>ミガキ。               | 白色粘、针状物                         | 2.5TBG/2黒<br>2.5TBG/2B灰黄           | 普通       |      |
| P108 | 1    | 土師器<br>环    | (13.8)<br>(3.9)        | 口縁部～体部片、口縁部は外表面ともにヨコナゲ、体部は外表面が<br>横方向のハタケリ、内面はヨコナゲ。                                  | 白色粘、透明粘、针状物                     | 5TBG/6歩鉢                           | 良好       |      |
| SE01 | 1    | 圓窓<br>高台付壺  | (13.0)<br>3.2<br>(8.0) | 20～30%存、口縁部～底面、ロクロ成形、底面底面は回転～ハタ<br>ケリ、高台部は貼り付け後ナゲ、全体に無垢。                             | 黑色粘少                            | 7.5TBG/2Cオーリーブ                     | 良好       |      |

### 第3章 調査の成果

| 遺構番号 | 表面番号 | 種類<br>器種    | 口径<br>底面<br>底径         | 部位・残存率・製作技法・その他特徴  | 胎土                   | 色調<br>(外底／内底)                | 焼成       | 備考 |
|------|------|-------------|------------------------|--|----------------------|------------------------------|----------|----|
| SK01 | 2    | 土師器<br>皿    | (5.8)<br>L.3<br>(4.8)  | 30%存.ロクロ成形.小型.底面底面は回転め切り。  | 白色粘土.黑色粘土            | 7.SYR6/6相<br>2.SYR6/2灰黄      | 良好       |    |
| SK01 | 3    | 陶器<br>土瓶    | (10.6)<br>(4.7)<br>—   | 口縁部へ体部片.吊り手の受け部残存.外全体から内面口縁部にかけて数粒がかかる。  | 黑色粘土                 | 7.SYR3/2黒褐<br>2.SYR6/2灰黄     | 良好<br>堅緻 |    |
| SK04 | 1    | 土師器<br>环    | 10.2<br>2.9<br>5.0     | 80~90%存.ロクロ成形.底面底面は回転め切り後未調整。  | 黄白色粘土.灰色粘土.灰色砂       | 10FR6/3にぶい黄褐                 | やや<br>良好 |    |
| SK04 | 2    | 土師器<br>环    | 10.0<br>2.8<br>5.0     | 70~80%存.ロクロ成形.底面底面は回転め切り後未調整.  | 白色粘土.灰色粘土.针状物        | 10FR7/3にぶい黄褐                 | やや<br>良好 |    |
| SK04 | 3    | 土師器<br>环    | (10.0)<br>2.1<br>(6.0) | 30%存.ロクロ成形.底面底面は回転め切り後未調整。   | 白色粘土.针状物             | 10FR3/1灰褐<br>10FR4/2灰褐       | 普通       |    |
| SK07 | 1    | 土師器<br>环    | (13.0)<br>3.3<br>(7.0) | 20%存.ロクロ成形.底面底面はナデ。  | 白色粘土.砂粒.砂礫.针状物       | 7.SYR6/8相                    | やや<br>良好 |    |
| SK07 | 2    | 土師器<br>环    | (14.0)<br>(4.4)<br>—   | 口縁部へ体部片.ロクロ成形.内面は黒色処理.密なミガキ(体部横方向).器壁薄手。                                       | 全表面多.濃灰色粘土           | 7.SYR7/4にぶい灰褐                | やや<br>良好 |    |
| SK07 | 3    | 土師器<br>环    | —<br>(2.4)             | 口縁部へ体部片.ロクロ成形.内面は黒色処理.密なミガキ(体部横方向).体部外面に墨書き「匁」あり。                              | 白色粘土.灰色粘土            | 10FR7/3にぶい黄褐                 | やや<br>良好 |    |
| SK07 | 4    | 土師器<br>甕    | (14.0)<br>(5.0)<br>—   | 口縁部へ体部片.口縁部は内外両面ともにヨコナデ.脚部は外表面横方向へのラケタリとナデ.内面が横方向へのナナデ。                        | 透明粘土.白色粘土.黑色粘土       | 10FR4/3にぶい黄褐<br>7.SYR6/4浅黄褐  | 普通       |    |
| SK09 | 1    | 土師器<br>环    | (12.8)<br>(2.6)        | 口縁部へ体部片.ロクロ成形.体部各面に墨書き「匁」あり。   | 白色粘土.白色砂礫.针状物        | 7.SYR5/4にぶい灰褐                | 良好       |    |
| SD01 | 1    | 土師器<br>甕    | —<br>(1.6)<br>(5.0)    | 体部へ体部片.ロクロ成形.底面底面は回転めたり.高台部は幅広く脂付けナデ。  | 砂粒.白色砂礫少.针状物無        | 7.SYR6/6相<br>7.SYR5/6灰褐      | やや<br>良好 |    |
| SD01 | 2    | 須恵器<br>环    | (13.0)<br>3.8<br>(9.0) | 30~40%存.ロクロ成形.底面底面は回転めたりケズり.二次底面あり。  | 白色砂礫少.黑色粘土.针状物少      | 2.SY7/1灰白                    | 良好<br>堅緻 |    |
| SD01 | 4    | 陶器<br>搖籃    | —<br>(4.30)            | 口縁部へ体部片.口縁部は内外両面ともにヨコナデ.外表面に一段の凹部.内面は2条の沈れを造る.内面は5本単位の棒目を全体で施す.外表面全体に鉄輪がかかる。   | 白色砂礫多.灰色砂礫多.黑色粘土     | 7.SYR4/3相                    | 良好<br>堅緻 |    |
| SD01 | 5    | 瓦質土器<br>火鉢  | —<br>(7.7)             | 口縁部へ体部片.外表面に2種の凹部を造る.口縁部は外表面下に2つの沈れを造る.底面間に花文貼り付け板あり。                          | 白色粘土.砂粒              | 2.SY7/2灰黄                    | やや<br>良好 |    |
| SD02 | 1    | 土師器<br>环    | —<br>(1.6)<br>6.6      | 底面片.ロクロ成形.体部下端は手持ちヘラケタリで.墨書きがわざかに認める.底面底面は回転めたり後手持ちヘラケタリ。内面は黒色処理.密なミガキ(底面1方向)。 | 黄白色粘土.针状物            | 10FR6/4にぶい黄褐                 | 良好       |    |
| SD02 | 2    | 土師器<br>甕    | —<br>(2.5)             | 体部へ底面片.高台部大.高台部は脂付け.内面は密なミガキ(体部横方向.底面不明)。                                      | 黄白色粘土.濃灰色粘土.针状物      | 7.SYR7/4にぶい相<br>7.SYR7/4にぶい相 | やや<br>良好 |    |
| 遺構外  | 1    | 土師器<br>环    | (15.8)<br>(3.5)<br>—   | 口縁部へ体部片.口縁部は内外両面ともにヨコナデ.体部は外表面が不定方向のヘラケタリ.内面はヨコナデ。                             | 灰白色粘土.濃灰色粘土.角間石.右石右點 | 10FR6/4にぶい黄褐<br>10FR7/4にぶい黄褐 | やや<br>良好 |    |
| 遺構外  | 2    | 須恵器<br>高台付环 | —<br>(2.2)<br>(0.9)    | 体部へ底面片.ロクロ成形.底面底面は回転めたり.高台部は脂付けナデ.接続部は舟取り。                                     | チャコート.白色粘土.黑色粘土.针状物  | SYS/1灰                       | 良好<br>堅緻 |    |
| 遺構外  | 3    | 須恵器<br>甕    | (24.6)<br>(7.7)<br>—   | 口縁部へ体部片.口縁部は外表面とヨコナデ.脚部の外表面は脚部の平底タタキ.脚部が横方向へのナナデ.外表面は自然顔が剥離し.脚部でテラさに現れる。       | チャコート.白色粘土.白色砂礫少.针状物 | SL/灰<br>NA/灰                 | 良好<br>堅緻 |    |
| 遺構外  | 4    | 須恵器<br>円筒甕  | —<br>(2.1)<br>—        | 脚部片.通しあり.下位実跡は三角状.内外両面全体に自然顔がかかる。  | チャコート.白色粘土.针状物       | 7.SY4/1灰<br>2.SY7/4浅黄        | 良好<br>堅緻 |    |

第9表 出土遺物観察表(瓦)

| 出土<br>地點<br>番号 | 開闢<br>番号 | 全高<br>(cm)  | 厚さ<br>(cm)                             | 凹面直跡・溝跡                            | 凸面直跡・溝跡                | 胎土・粘土                            | 色調<br>(前面：凸面)                       | 焼成 | 備考 |
|----------------|----------|-------------|--|------------------------------------|------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|----|----|
| SH3            | 22       | 2.0~<br>2.3 | 成形:布目压痕<br>潤滑なし                        | 成形一<br>潤滑:横方向ナデ.赤端様<br>潤滑なし(ヘラケタリ) | 白色粘土.白色砂礫.角間石.脚部粘土.针状物 | 7.SYR6/6相<br>7.SYR5/6灰褐          | 丸瓦.有段式上.縁部片.拱端面及び右側面残存.右側端面取り25%。   |    |    |
| SH3            | 23       | 1.8~<br>1.9 | 成形:布目压痕.赤切<br>潤滑:横・横方向ナデ<br>潤滑:脚部ヘラケタリ | 成形一<br>潤滑:横・横方向ナデ<br>潤滑:脚部ヘラケタリ    | 白色粘土.角間石.脚部粘土.针状物      | 7.SYR5/3にぶい相<br>10FR6/4にぶい黄<br>相 | 丸瓦.拱端部片.拱端面及び右側面残存.脚部取り20%.凹面全体に赤跡。 |    |    |
| SH3            | 24       | 2.1         | 成形:布目压痕<br>潤滑なし                        | 成形:長縁タタキ<br>潤滑:脚部ヘラケタリ             | 透明粘土.白色粘土.白色砂礫         | 10FR6/6相<br>10FR5/3にぶい黄<br>相     | 平瓦.右側端面片.側面取り25%。                   |    |    |

## 第2節 検出された遺構と遺物

第10表 出土遺物観察表（土製品）

| 遺構番号 | 画面番号 | 種類・記種       | 部位・残存率・製作技法・その他特徴   | 粘土               | 色調                 | 焼成       | 備考 |
|------|------|-------------|---|------------------|--------------------|----------|----|
| S113 | 26   | 土製品<br>土瓦   | 径:2.8cm 厚さ:2.2cm 孔径:0.4cm 重量:17.2g<br>90%存。調整はヘラナシか、穿孔は焼成前。   | 砂粒多、角閃石・輝石類      | 7.5M5/4に赤い斑        | 普通       |    |
| S116 | 3    | 土製品<br>転用砥石 | 長さ:10.5cm 幅:7.8cm 厚さ:1.2~1.5cm 重量:129.0g<br>完存。表面有、吸盤有、吸盤の側面削痕を転用。外面上に鉛2条、もともとの側面片は平行タマゴ調整式。自然釉無いかから、焼成は良好堅致。 | チャート、透明粒、黒色粒、針状物 | 2.5M4/1黄灰<br>M5/1灰 | 良好<br>堅致 |    |
| SD01 | 3    | 土製品<br>転用砥石 | 長さ:11.6cm 幅:5.9cm 厚さ:1.2cm 重量:122.6g<br>吸盤有、側面削痕の側面部片を転用し、主として側面を用いる。吸盤器としては外面上に若干点のタマゴ形擦り跡を施す。内面は同心円状の当て具板。  | 白色粒、黑色粒          | 2.5M5/1黄灰<br>M5/1灰 | 良好<br>堅致 |    |

第11表 出土遺物観察表（石製品）

| 遺構番号 | 画面番号 | 種類・記種     | 部位・残存率・製作技法・その他特徴   | 備考 |
|------|------|-----------|---|----|
| S110 | 21   | 石製品<br>砥石 | 全長:19.4cm 幅:6.5cm 厚さ:0.5~2.6cm 重量:160.1g 石材:直翼<br>完存。表面有及び片面削りを使用。            |    |
| SE01 | 4    | 石製品<br>砥石 | 全長:12.0cm 幅:3.6cm 厚さ:1.3~2.2cm 重量:85.0g 石材:泥岩<br>完存。磨り面は表面2面。                 |    |
| SE01 | 5    | 石製品<br>砥石 | 全長:(5.7cm) 幅:4.9cm 厚さ:1.2~1.7cm 重量:80.0g 石材:泥岩<br>磨り面は表面裏面及び左右側面。裏面に用途不明な抉りあ。 |    |

第12表 出土遺物観察表（鉄製品）

| 遺構番号 | 画面番号 | 種類・記種     | 部位・残存率・製作技法・その他特徴  | 備考 |
|------|------|-----------|--|----|
| S110 | 22   | 鉄製品<br>刀子 | 全長:(8.8cm) 幅:(4.4cm) 高:(4.4cm) 実:1.4cm 厚:0.8~1.4cm, 厚さ:約0.1~0.5cm 実:0.2~0.3cm, 重量:15.1g<br>両刃あるとみられるが、片側は銷付着で不明。 |    |
| S111 | 26   | 鉄製品<br>刀子 | 全長:(7.1cm) 幅:(4.7cm) 高:2.4cm, 実:身1.1cm 高:0.7cm, 厚:5:約0.1~0.4cm 実:0.3~0.4cm, 重量:9.4g<br>切先欠失。銷化跡有。                |    |
| S113 | 27   | 鉄製品<br>刀子 | 全長:8.0cm, 幅:1.3cm 厚:0.9cm, 厚さ:身0.1~0.4cm 実:0.2~0.3cm, 重量:9.8g<br>銷化着で両部不明。                                       |    |
| S118 | 2    | 鉄製品<br>刀子 | 全長:(9.1cm) 幅:1.1~1.3cm, 厚さ:0.1~0.4cm, 重量:14.5g<br>身部分、切先欠失。茎側は銷化跡着で不明。   |    |
| S118 | 3    | 鉄製品<br>刀子 | 全長:8.2cm, 幅:0.8cm 厚:0.8cm, 厚さ:身0.1~0.3cm 実:0.3cm, 重量:6.0g<br>ほぼ完全か、細小。頭は認められず、銷化跡着。                              |    |

第13表 出土遺物集計表（弥生時代）

| 出土位置 | キサミ口縦<br>幅 | 複合口縦<br>幅 | 複合文<br>幅 | 複合縫合<br>縫合 | 縫合(単縫)<br>縫合 | 縫合(付加縫)<br>縫合 | 縫合(無縫)<br>縫合 | 縫合 |    | 底部(木葉)<br>底部(布) | 底部(木葉)<br>底部(布) | 縫合<br>頭部・足部<br>縫合<br>幅 | 高<br>口縦<br>幅 |
|------|------------|-----------|----------|------------|--------------|---------------|--------------|----|----|-----------------|-----------------|------------------------|--------------|
|      |            |           |          |            |              |               |              | 縫合 | 縫合 |                 |                 |                        |              |
| SM01 | 1          | 1         | 3        | 9          | 2            | 23            | 1            | 1  | 1  | 2               | 1               | 1                      | 1            |
| SM02 | 1          | 1         | 11       | 15         | 2            | 36            | 19           | 11 | 25 | 2               | 2               | 2                      | 1            |
| SM03 | 2          | 1         | 5        | 1          | 20           |               |              |    |    | 1               |                 |                        |              |
| SM04 |            |           |          |            | 1            |               |              |    |    |                 |                 |                        |              |
| SM05 |            |           |          |            | 1            |               |              |    |    |                 |                 |                        |              |
| SD01 |            |           |          |            | 1            |               |              |    |    | 1               |                 |                        |              |
| SD01 |            |           |          |            | 1            |               |              |    |    |                 |                 |                        |              |
| 合計   | 0          | 3         | 61       | 141        | 6            | 301           | 61           | 60 | 61 | 126             | 6               | 29                     | 91           |

(単) → 単縫縫合 (付) → 付加縫縫合 (無) → 無縫縫合 (木) → 木葉底 (布) → 布質底

第3章 調査の成果

第14表 出土遺物集計表（奈良・平安時代以降）

| 遺構            | 土師器    |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      | 陶器  |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
|---------------|--------|------|-------|------|---|----|---|----|---|----|-----|------|-----|---|-----|---|------|-----|----|-----|---|---|------|----|---|----|---|---|
|               | 环(縁なし) | 环(有) | 呼(内面) | 高台付鉢 | 鉢 | 盆  | 壺 | 瓶  | 杯 | 高杯 | 环   | 高台付环 | 盆   | 壺 | 瓶   | 杯 | 高台付環 | 鉢   | 盆  | 壺   | 瓶 | 杯 | 高台付環 |    |   |    |   |   |
| SI01          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SI02          | 2      | 4    | 3     |      | 1 |    |   |    |   |    | 9   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   | 5    |    |   |    |   |   |
| SI03          |        |      |       |      |   | 1  |   |    |   |    | 35  |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   | 11   |    |   |    |   |   |
| SI04          | 1      | 9    | 2     |      | 1 | 1  |   |    |   |    | 5   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   | 1    |    |   |    |   |   |
| SI05          | 6      | 4    | 3     |      | 1 |    |   |    |   |    | 4   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   | 3    |    |   |    |   |   |
| SI06          | 1      | 1    | 1     |      |   |    |   |    |   |    | 12  |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   | 6    |    |   |    |   |   |
| SI07          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SI08          |        | 1    | 2     |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      | 1  |   |    |   |   |
| SI09          | 1      | 3    | 1     | 5    |   | 1  |   |    |   |    | 22  | 1    |     | 1 | 2   |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SI10          | 3      | 1    | 8     |      | 1 | 1  | 1 |    |   |    | 176 | 1    | 1   | 4 | 74  | 7 | 3    | 4   | 4  |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SI11          | 8      |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 191 |      |     | 6 | 145 | 3 | 91   | 1   | 16 | 75  |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SI12          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 11  |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SI13          | n      |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 507 |      |     | 5 | 122 | 5 | 19   | 29  | 3  | 42  |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SI14          | 10     | 15   | 8     | 1    | 2 | 70 | 2 | 3  |   |    | 10  | 1    |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      | 1  |   |    |   |   |
| SI15          | 16     | 1    | 23    | 1    | 1 | 99 |   | 1  |   |    | 15  | 4    |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      | 2  |   |    |   |   |
| SI16          | 2      | 5    |       |      |   |    |   |    |   |    | 155 |      |     |   | 33  | 7 |      | 6   | 18 |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SI17          |        |      | 1     |      |   |    |   |    |   |    | 8   |      |     |   | 12  |   |      |     |    |     |   |   |      | 4  |   |    |   |   |
| SI18          | 1      |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz01          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 1   | 2    |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz02          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 6   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz06          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 3   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz07          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 3   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz09          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 1   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz10          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz17          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz20          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz21          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz23          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz24          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 4   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz26          | 1      |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 2   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   | 1    | 1  |   |    |   |   |
| Pz27          | 2      |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 16  |      | 1   |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      | 1  |   |    |   |   |
| Pz28          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 6   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz29          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 1   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      | 1  |   |    |   |   |
| Pz30          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 2   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz31          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 1   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz34          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 7   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   | 2    | 3  |   |    |   |   |
| Pz36          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 18  |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz37          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 3   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz38          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 9   |      | 1   |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz42          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      | 1  |   |    |   |   |
| Pz44          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 2   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz45          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 5   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz51          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 1   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz52          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz82          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 2   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz84          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 3   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      | 1  |   |    |   |   |
| Pz85          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 4   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz86          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 1   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz88          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 3   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| Pz90          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 1   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SK01          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SK02          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SK03          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| 火薬 素(SK01)に覆瓦 |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SK04          | 4      |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 1   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SK05          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 1   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SK06          |        | 1    |       |      |   |    |   |    |   |    | 1   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SK07          | 2      | 10   | 3     | 1    | 1 | 45 |   | 2  |   |    | 6   |      |     |   | 33  | 6 | 2    | 3   |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SK08          | 1      |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 4   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SK09          | 4      | 1    |       |      |   |    |   |    |   |    | 2   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SK10          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SK11          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SK12          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    |     |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SD03          | 1      |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 10  |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SD01          | 2      | 2    | 2     | 1    | 2 | 16 |   | 6  |   |    | 33  | 6    |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SD02          | 1      | 1    | 1     | 1    | 2 | 20 |   | 7  |   |    | 4   | 1    |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SE01          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 16  | 1    |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SX01          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 7   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| SX02          |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 7   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| C27ラット        |        | 1    |       |      |   |    |   |    |   |    | 3   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| D27ラット        |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 1   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| F27ラット        |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 7   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| G27ラット        |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 7   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| H17ラット        |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 1   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| H27ラット        |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 1   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| I27ラット        |        |      |       |      |   |    |   |    |   |    | 6   |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| 素             | 1      | 1    | 1     | 1    | 2 | 21 |   | 10 |   |    | 21  |      |     |   |     |   |      |     |    |     |   |   |      |    |   |    |   |   |
| 合計            | 6      | 21   | 3     | 25   | 4 | 90 | 0 | 10 | 2 | 13 | 0   | 0    | 170 | 0 | 0   | 0 | 18   | 907 | 12 | 109 | 3 | 1 | 1    | 81 | 3 | 92 | 0 | 1 |



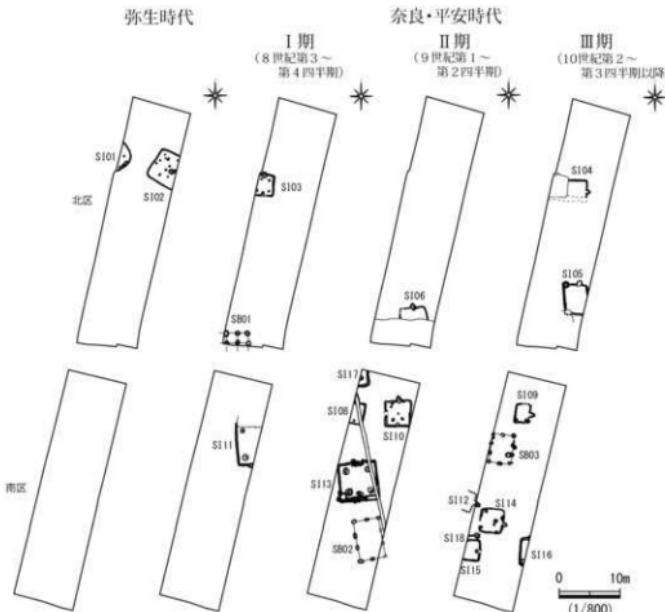
## 第4章 総括

### I. 土地利用の変遷

本地点で最初に生活の痕跡が認められるのは弥生時代からである。該期の遺構は堅穴住居跡 SI01・02が中心で、後続する古墳時代以降の遺構に混入する弥生土器の範囲を見ても、調査区の北側に偏在しており、弥生時代における生活の痕跡は台地縁辺部を中心に広がっていたと想定される。この2軒は形態及び規模に差異があり、さらに出土した弥生土器からは、小玉秀成氏による形式変化の検証を参考にして、時期的な前後関係が捉えられた。SI01は形態的に丸みを持ち、規模は5m以内とみられる。出土土器は頸部文様に2本単位の施文具が主体的に用いられており、伊勢林前式期に相当する。一方、SI02は方形又は長方形を呈し、一边が5m以上の規模を有している。出土土器は頸部文様に3本単位の施文具が主体的に用いられ、連弧文や格子状文、波状文が施されている。連弧文は同じ向きで重層化しているものや連弧文が形骸化したような波状文も認められることから、小玉氏により細分化された東中根1b式期に相当すると考えられる。いずれも後期の前半段階に位置づけられるが、土器の形式から、SI01が先行し、その後SI02が営まれたであろうということが理解された。

弥生時代に続く古墳時代では、堅穴住跡等明瞭な遺構は伴わないものの、7世紀末から8世紀初頭の所産とみられる遺物が、数基のビットや遺構外から散見されている。

奈良・平安時代になると再度集落としての発展がみられる。佐々木義則氏の須恵器における年代観



第55図 遺構変遷図

を参考に出土遺物から見た遺構の変遷は、3期にわたると考えられる。堅穴建物跡では8世紀代後半になってSI03・11が出現し、遺構規模の違いから時期差を伴っていると思われる。9世紀代前半頃まではSI06・08・10・13・17が中央部を中心に継続しているが、こちらも建物の規模に差があり、大型のSI13からSI06・10、さらにはSI08と徐々に小型化し、建物内の主柱穴も消滅していく構造に変化するようである。9世紀代後半段階には一旦空白期を迎えるものの、10世紀代になって再び集落が展開するようになる。10世紀代前半段階に位置づけられるSI05があり、カマドの配置や遺構形態からSI16も同様の時期の可能性がある。中葉段階になるとSI04・09・12・15といった東壁にカマドを有した堅穴建物跡が南区を中心として多少の時期差を伴いながらもほとんど同時に営まれていったようである。一方、掘立柱建物跡は出土遺物が乏しく詳細な年代は不明瞭であるが、他の遺構との新旧関係や主軸方向等から推測してみると、各時期に分けることができる。総柱建物跡になるとと思われるSB01は、9世紀代のSI06・17と近接することから構築時期は8世紀代後半と考えられるが、主軸方向から見ると、あるいはSI13と同時期の可能性もある。SB02は10世紀代のSI14・16、SD02に切られ、主軸方向から見ても9世紀代に構築されたと思われる。各柱穴の掘り方が方形状に近い整った形態である。SB03は9世紀代のSI13を切り、さらに主軸方向は10世紀代の堅穴建物跡と同様の方向を示している。建物跡以外では、溝跡2条が確認され、ともに奈良・平安時代の建物跡を切り込んで構築されている。その内、SD02は幅が狭く深い溝で10世紀代の遺物が出土しているが、同時期の堅穴建物跡とは主軸方向が揃わず、配置的にみても関連性はあまりうかがえない。それに対しSD01は規則的に大きく、検出当初は集落を囲繞する区画溝を想定した。しかし、SB01を一部切り込むことや、断面形状が薬研状で、箱状もしくは逆台形が一般的される官衙的な区画溝とは異なる。さらに、隣接地の調査（第8地点第4次）においてSD02より新しいことが分かり、混入したとみられる出土遺物の中には中・近世の陶器片がわずかながら含まれていることや、周辺では中世館跡が点在するなどの環境を考えると、中世以降まで下ることも否定できないが、現段階での時期は不明瞭である。

その後の集落としての痕跡は認められなかったが、近世遺物を伴う井戸跡(SE01)、土坑(SK13)が南区で検出されおり、近世以降も土地利用が継続されていったと考えられる。

## 2. 奈良・平安時代集落の性格

集落の主体となる時期は奈良・平安時代で、前述したように8世紀代後半、9世紀代前半、そして10世紀以降の3時期の変遷が理解されたが、ここではそれぞれの時期における集落としての性格を考えてみたい。

8世紀代後半から9世紀代前半にかけての集落の性格を考える上で参考となる遺物が文字関係資料の出土である。本地点からは、墨書き土器8点(SI03-2, SI05-3, SI10-3・12, SI14-3, SI15-2, SK07-3, SK09-1)と、関連する遺物として小破片ながら円面鏡2点(SI13-25, 遺構外-4)が出土している。本地点で出土した墨書き土器の中で文字として認識できるものは4点あり、その内3点は「禾」という文字が含まれている。この文字の墨書き土器を出土したのはSI03-2, SI10-3・12で、新漢語林によると「①いね(稲), ②穀物・穀類の総称, ③なえ(苗)・穀物の苗, ④わら・穀類の茎, ⑤穀物の穂が出たもの」という意味を持つ。さらに、SI03-2には「罡」(圓の俗字)が合わさっている。川崎保氏の分析によると「禾」は「アワ」と読まれた可能性を指摘し穀物全般を指す文字であること、出土例が多い下総国では現代でも穀物類の生産量が多い地域にあたるこ

とから、墨書資料と地域との関連性に注目している。東前原遺跡周辺域で墨書土器と硯の組み合わせが認められる遺跡は珍しくはなく、本遺跡が立地する同じ台地上の南東域に所在する平戸地区は平津駅家の推定地であることから、駅家の正倉遺構が想定される床束建物跡を検出した大串遺跡第7地点、古代芳賀郡芳賀郷中心地の可能性が高い梶内遺跡をはじめとした官衙的集落が点在している。それらに比べて本地点の文字資料はかなり少ないが、SB01は全容が把握されないものの縦柱建物跡になる可能性があり、倉であることも連想される。穀物類を示した墨書土器と合わせて考えると、大串遺跡、梶内遺跡などの中心的集落に関連し、補完的な役割を担った集落である可能性は十分にあり得る。

9世紀代後半には一旦途絶えていた集落の痕跡が、10世紀代になって再び認められる。多少の時期差は伴うであろうが、中葉段階ではカマドの配置から見た遺構形態や出土遺物の様相からもほぼ同時期の堅穴建物跡が一気に増加したことは明らかで、何らかの画期があったことは容易に推測することができる。折しも常陸国は親王国家としての位置づけから受領の土着化が進み、開発領主支配が強まった頃である。935年には平将門の乱が勃発した時期とも重なり、その騒乱の影響を受けた関東一円の不安定な情勢の中で、同時期の堅穴建物跡の集中は開発を一気に進めるための人力を集約する必要に迫られたと考えられる。本地点でみられるような集中した堅穴建物跡群が形成されたのではないだろうか。

そして区画溝になる可能性が高いSD01の存在である。規模から見て官衙的な公共性の強い集落を囲繞したと考えられる区画溝か、もしくは村落領主などの居宅の区画溝か、あるいは周辺に中世方形館が点在することから同様の遺構に関連する区画溝などを視野に入れなければならないであろう。しかしながら、官衙的集落については、大串遺跡第7地点で正倉遺構とされた床束建物跡を囲繞する溝跡の断面形が薬研状である点は一致するものの、本地点では倉の可能性があるSB01を切って構築されているなど疑問も残る。一方では、居宅等については区画の範囲が広大過ぎるようであり、さらに方形館については関連する遺構や出土遺物がほとんど認められることなど、いずれも確証を得られていないのが現状である。その区画した目的が何に起因するのか今次調査で解明することができなかつたが、近接地では継続的に調査が進められており、それらの成果から明らかにされていくことを期待したい。

(高野)

## 【参考・引用文献】

- 飯村 均 2001「平安期・鎌倉期の城館」『岡解・日本の中世遺跡』小野正敏編 東京大学出版会  
 小川和博・大庭牧志 2008『大串遺跡（第7地点）』水戸市埋蔵文化財調査報告第14集 水戸市教育委員会  
 横村宣行 1995『梶内遺跡 一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』  
                   茨城県教育財团文化財調査報告第100集 茨城県教育財团  
 小玉秀成 2010「東中根1式土器の細分とそれに併行する土器群」『茨城県考古学協会誌』第22号 茨城県考古学協会  
 川崎 保 2009「禾（アワ）墨書土器に関する小考」『信濃』第61巻第4号 信濃史学会  
 佐々木義則 1995「木葉下窓跡群杯A I の変化について」『堀良岐考古』第17号 堀良岐考古同人会  
 佐々木義則 2013「木葉下窓跡群座有台杯・有台杯蓋・有台蓋の編年」『堀良岐考古』第35号 堀良岐考古同人会  
 山中敏史 2003「官衙建物の遺構」『古代の官衙遺跡I 遺構編』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

# 写 真 図 版





北区全景（北から）



南区全景（南から）

図版2



SI01 全景（東から）



SI02 全景（北西から）



SI02 炉近景（北西から）



SI02 遺物出土状況（南から）



SI03 全景（南から）



SI04 全景（南から）



SI05 全景（西から）



SI06 全景（南から）



SI08 全景（南から）



SI08 遺物出土状況（南から）



SI09 全景（西から）



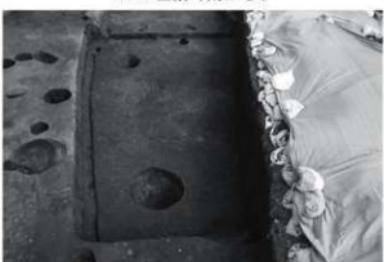
SI09 遺物出土状況（西から）



SI10 全景（南から）



SI10 カド' 遺物出土状況（南西から）



SI11 全景（南から）

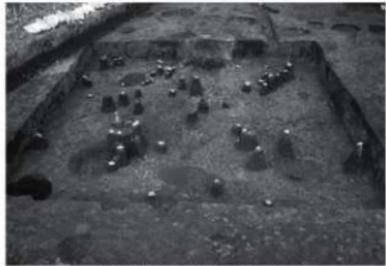


SI12 カド' 完掘全景（東から）

図版4



SI13 全景（南から）



SI13 遺物出土状況（南から）



SI14 全景（西から）



SI15・18 全景（西から）



SI16 全景（南から）



SI17 全景（南から）



SB01・SX01 全景（西から）



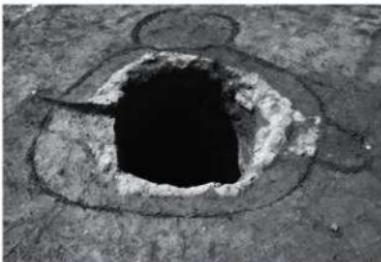
SB01・Pit18 土層断面（北から）



SB02 全景（南から）



SB03 全景（南から）



SE01 全景（東から）



SK04 土層断面・遺物出土状況（西から）



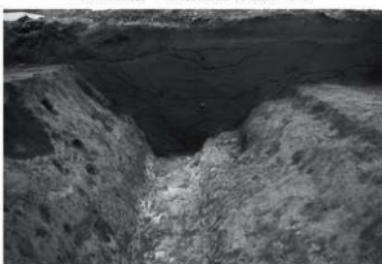
SK07 全景（東から）



SX02 全景・土層断面（西から）

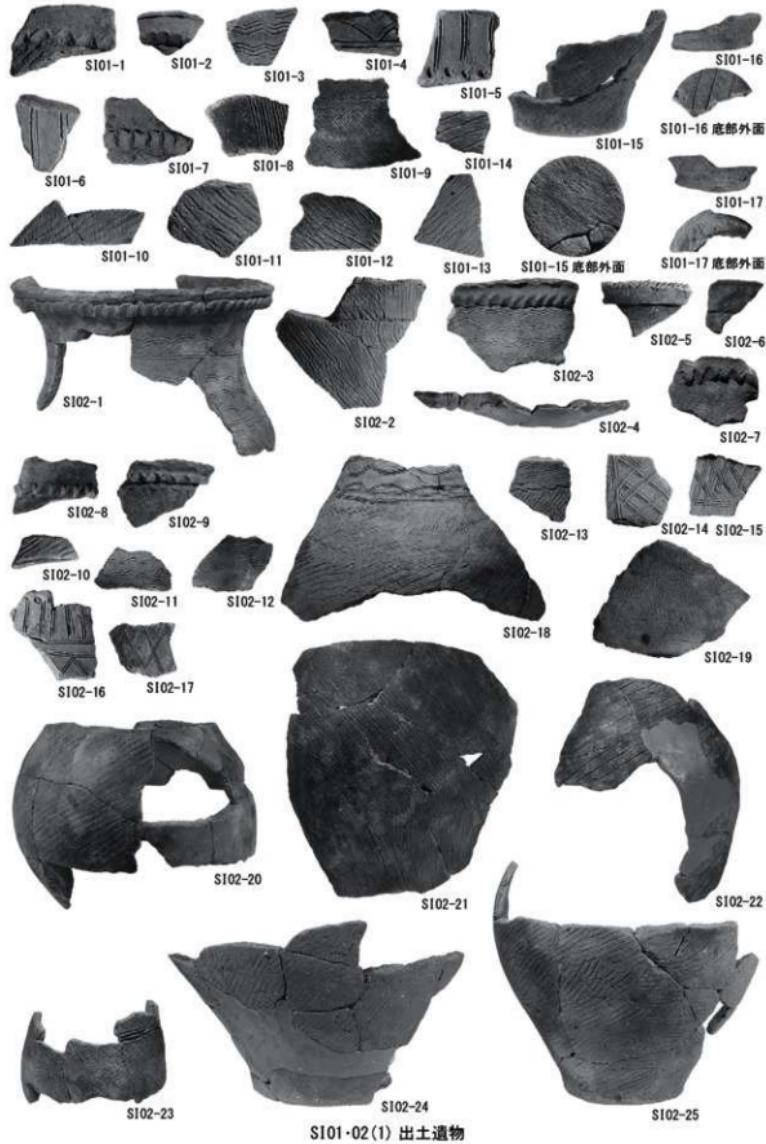


SD01 全景（東から）

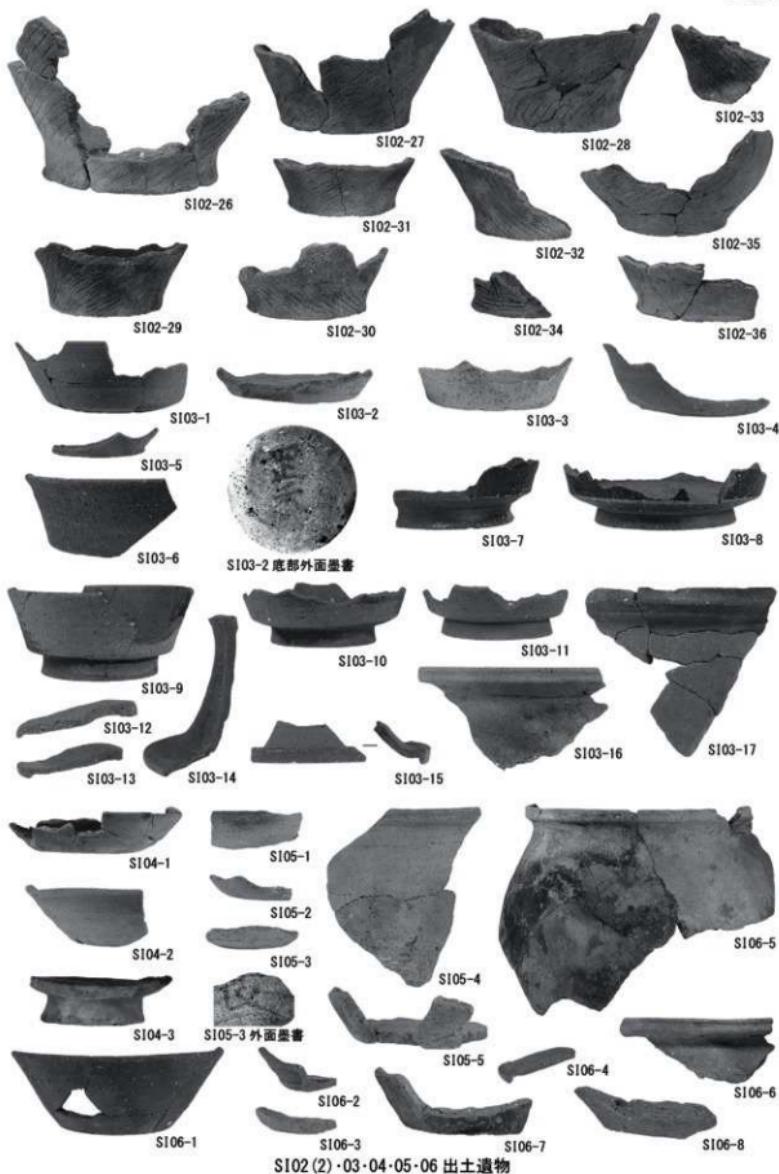


SD01 土層断面（東から）

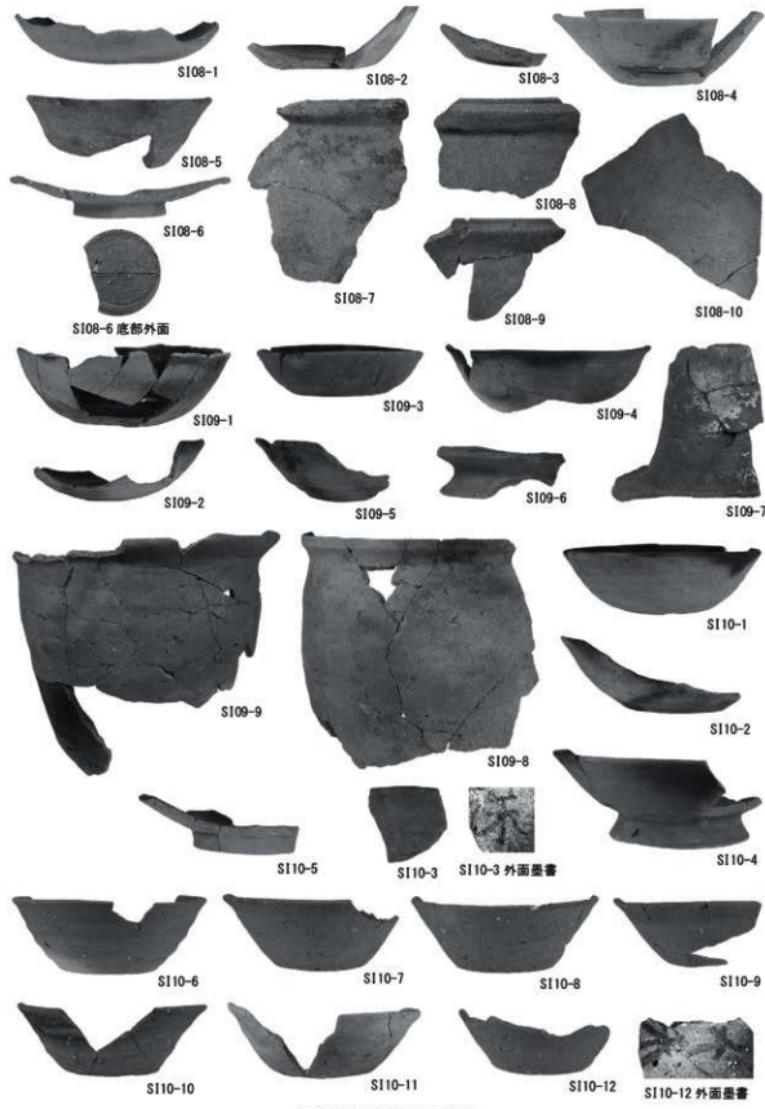
图版6



図版 7

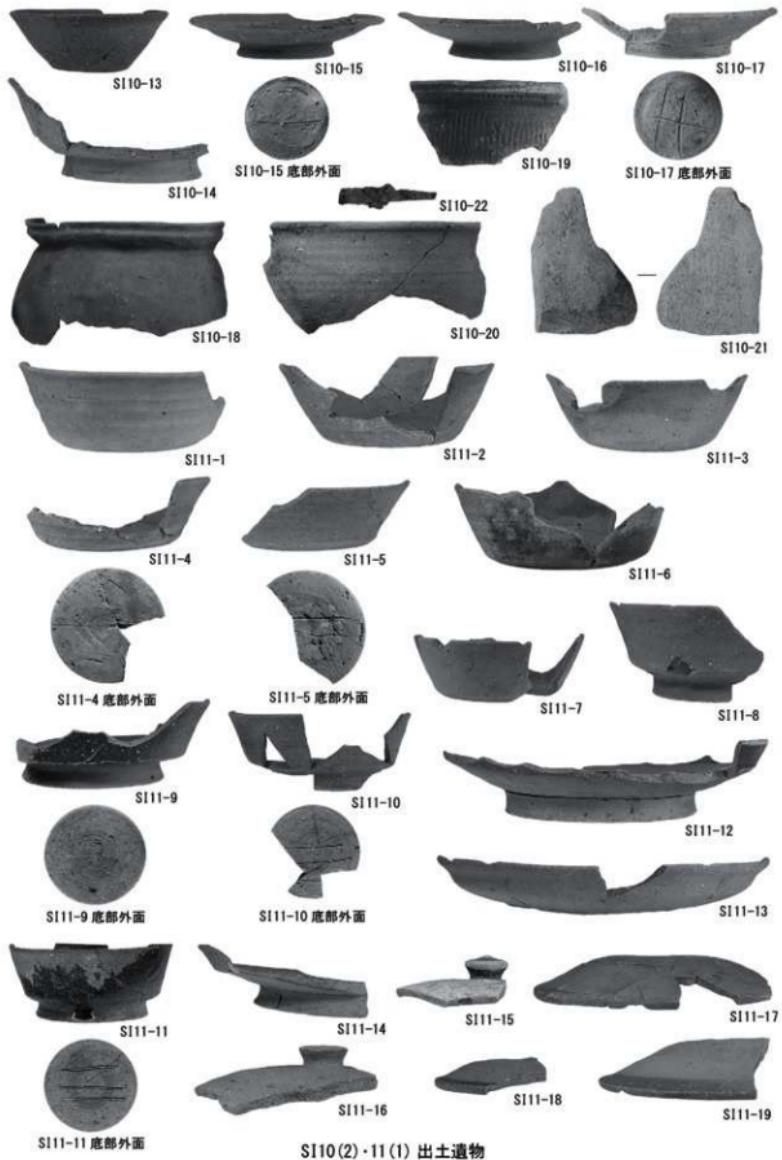


图版 8

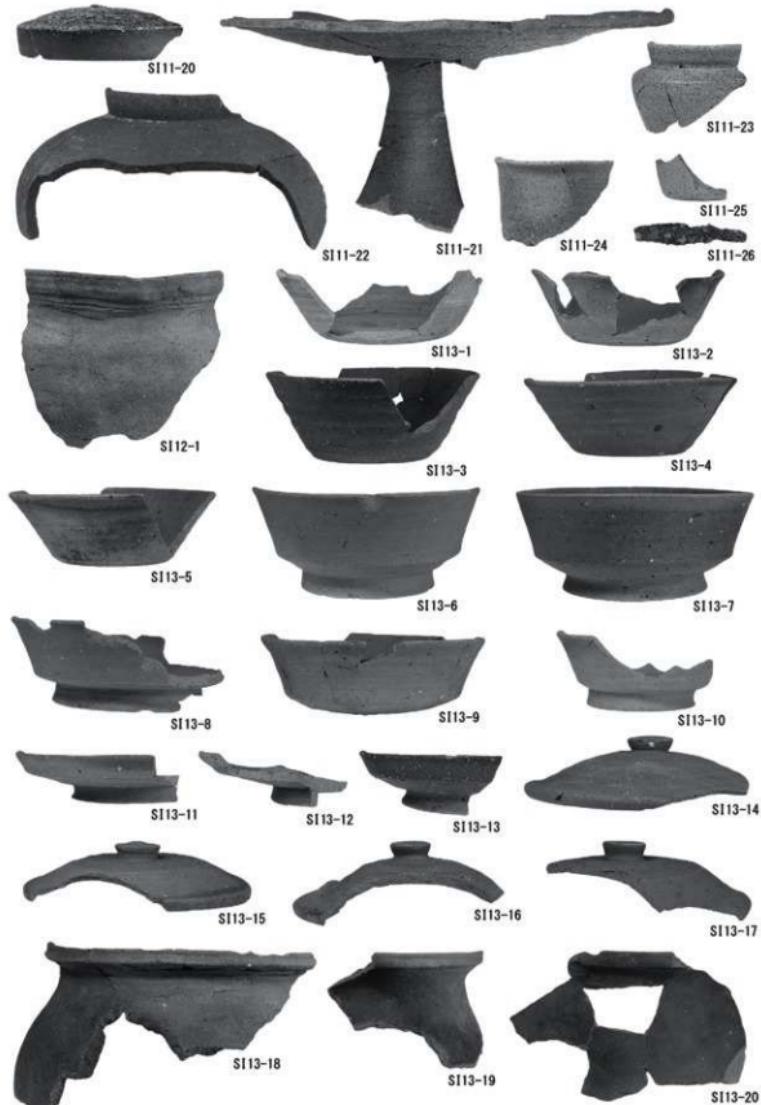


SI08-09-10(1) 出土遗物

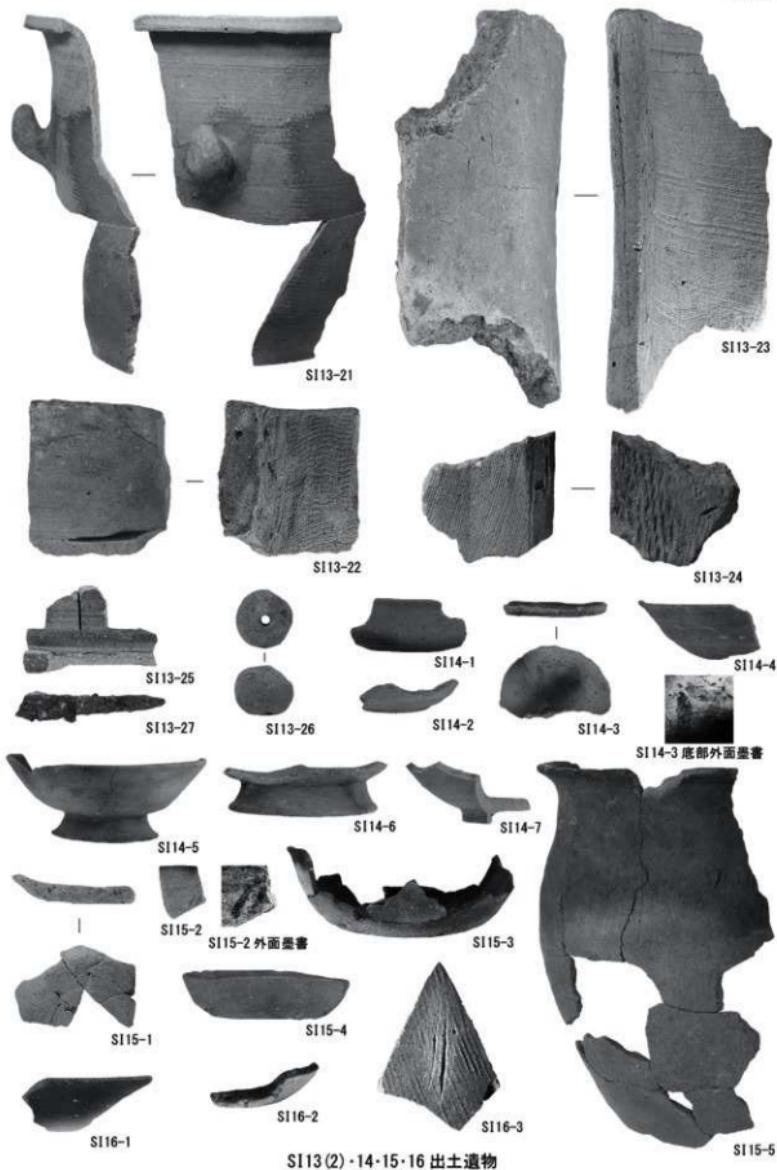
図版 9



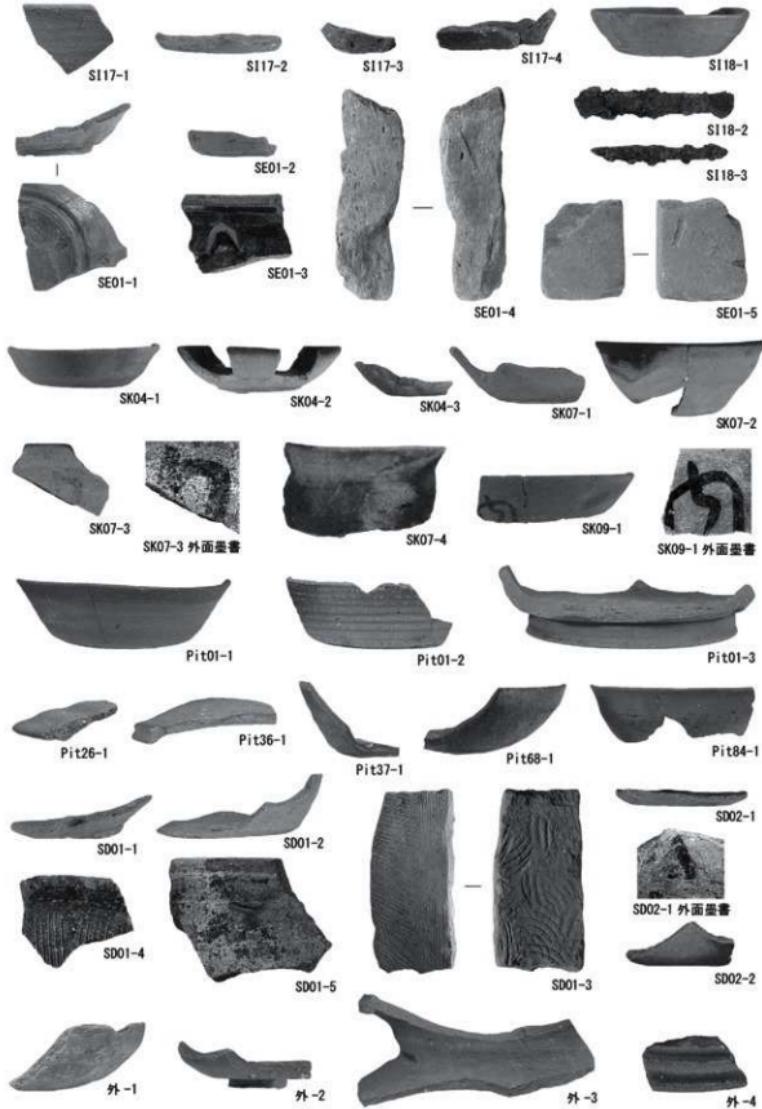
图版 10



SII1 (2) · 12 · 13 (1) 出土遗物



圖版 12



SI17-18, SE01, SK04-07-09, Pit, SD01-02, 遺構外出土遺物

抄 錄

水戸市埋蔵文化財調査報告第82集

東前原遺跡  
(第8地点第3次)

区画道路10-2号線道路改良(その1)及び流域関連  
下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

---

平成28年7月30日 印刷

平成28年7月30日 発行

編 集 株式会社 地域文化財研究所

発 行 水戸市教育委員会

印 刷 能登印刷株式会社

〒920-0855 金沢市武藏町7番10号

TEL (076)274-0084

---

